法人年報

第 18 号

2022 年度
（令和 4 年度）

医療法人　博仁会
社会福祉法人 博友会
学校法人　志村学園

目　　次

巻頭言 …… 1
法人経営理念
　医療法人　博仁会 …… 2
　社会福祉法人　博友会 …… 3
法人の沿革 …… 4
志村大宮病院概要 …… 6

第一部
1．博仁会　組織図 …… 9
2．博友会　組織図 …… 10
3．志村学園　組織図 …… 11
4．委員会一覧
　博仁会 …… 12
　博友会 …… 13
5．年間行事
　博仁会 …… 14
　博友会 …… 15
6．事業実績（博仁会）…… 16
　事業実績（博友会）…… 26
7．部門別実績報告
〔博仁会〕
　看護局 …… 28
　一般病棟科 …… 29
　緩和ケア病棟科 …… 30
　外来科 …… 31
　回復期リハビリテーション病棟科 …… 32
　医療療養病棟科 …… 33
　志村地域医療連携センター …… 34
　リハビリテーション事業部 …… 36
　病院リハビリテーション科 …… 37
　機能訓練センター フリューゲル …… 39
　リハビリテーション事業部 訪問リハビリグループ …… 40
　画像検査科 …… 41
　志村大宮病院認知症疾患医療センター …… 43
　老健入所科 …… 44
　おおみやホームヘルパーステーション …… 45
　おおみや訪問看護ステーション …… 46
　フロイデひたちなか訪問看護ステーション …… 47
　志村フロイデ地域包括ケアセンター …… 48
　常陸大宮市南部地域包括支援センター …… 49
　ひたちなか市北部地域包括支援センター …… 51
　コミュニティケアサービス部 …… 52
　在宅介護支援センターおおみや …… 55
　常陸大宮市在宅医療・介護連携推進センター …… 56
　栄養科 …… 57
　薬剤科 …… 58
　診療サービス課 …… 59
　管理部 …… 60
　経理部 …… 61
　人事課 …… 62
　法人サポート部 …… 63
〔学校法人志村学園〕
　茨城北西看護専門学校 …… 64
〔博友会〕
　事務サービスグループ …… 65
　栄養サービスグループ …… 66
　御前山フロイデガルテン …… 67
　御前山デイサービスセンター …… 68
　ごぜんやまホームヘルパーステーション …… 69
　ごぜんやま訪問入浴サービスセンター …… 70
　ごぜんやま総合ケアプランセンター …… 71
　在宅介護支援センターごぜんやま …… 72
　フロイデグループホーム桂 …… 73
　フロイデ総合在宅サポートセンター美和 …… 74
　フロイデ総合在宅サポートセンター城里 …… 75
　フロイデ工房しろさと …… 76
　大宮フロイデドルフ …… 77
　フロイデ総合在宅サポートセンター友部 …… 78
　フロイデアシストハウス大宮 …… 79
　フロイデ工房なか …… 80
　ロッティなか …… 80
8．各委員会活動報告
〔博仁会〕
　接遇向上委員会 …… 81
　医療介護安全推進委員会 …… 83
　感染対策委員会 …… 85
　褥瘡対策委員会 …… 86
　看護部教育委員会 …… 87

〔博友会〕

サービス向上委員会 …… 88
感染・褥瘡予防委員会 …… 89
教育委員会 …… 90
地域広報委員会 …… 91
食事委員会 …… 92
業務改善委員会 …… 93
リスクマネジメント委員会 …… 94
防災管理委員会 …… 95
車両安全管理委員会 …… 96

第二部

1．学術活動
⑴　理事長執筆取材講演実績 …… 99
⑵　学会発表 …… 105
2．各種行事
第 22 回全法人目標・成果発表大会 …… 106
茨城県央・県北脳卒中地域連携パス研究会 …… 107
ごぜんやままつり 2022 …… 108

巻　頭　言

2022年度法人年報発刊に当たって

医療法人　博仁会
社会福祉法人　博友会
学校法人　志村学園
理事長　鈴木邦彦

2022年も当グループは新型コロナウイルス感染症対応に追われました。また、同年2月にはロシアによるウクライナへの軍事進攻が始まり、7月には安倍元首相が銃撃されて死亡するといった衝撃的な出来事もありました。

その中で、2021年4月にフロイデケアタウンひたちなか2期工事に着工し、2023年3月に完成、同年4月1日にフロイデひたちなかメディカルプラザとしてオープンいたしました。

フロイデひたちなかメディカルプラザは、雨の日も快適なフロイデゲートをはさんでベルリン棟とミュンヘン棟から構成されています。

ベルリン棟には、ひたちなか市委託の「ひたちなか北部地域包括支援センター」とともに、「フロイデ看護小規模多機能ホームひたちなか」（看護小規模多機能型居宅介護）、「フロイデアシストハウスひたちなか」（住宅型有料老人ホーム）（14室）、「フロイデ地域包括ケアセンターひたちなか」（訪問診療、訪問看護、訪問介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、訪問リハビリ、訪問薬剤管理指導、訪問食事栄養指導、居宅介護支援、認定栄養ケア・ステーション）を併設いたしました。

またミュンヘン棟には、「フロイデ工房ひたちなか」（就労移行支援・就労継続支援Ａ型）として、「フロイデメディカルフィットネスセンターひたちなか」コミュニティカフェ「ガルミッシュ・パルテンキルヘン」売店「キオスクマルクト」を、さらに「みんなの学習室」、地域交流スペース「グリュスゴット」を開設いたしました。

お陰様でフロイデひたちなかメディカルプラザは順調に運営を行っており、2024年はじめには、フロイデケアタウン3期工事を着工させていただく予定です。

さて、2024年4月～6月にかけて、診療報酬、介護報酬、障害福祉サービスのトリプル改定が行われます。2023年12月には改定率も公表され、診療報酬は本体プラス0.88%、介護報酬はプラス1.59%、障害福祉サービスはプラス1.12%となりました。日本医師会をはじめとする関係団体や与党自民党の国会議員の先生方には本当に頑張っていただき心から感謝いたします。しかし、物価高騰や賃金引上げが求めれている中では決して十分とは言えません。われわれも、世界一の超高齢国として、超高齢社会を乗り切る体制をまっ先に構築しなければならないと考えており、そのためには、地域包括ケアシステムの構築と地域医療構想の実現およびかかりつけ医機能の充実・強化の三位一体の取り組みが必要です。当グループとしても、また県医師会長として本県医師会としても、その取り組みに全力で取り組んでいきたいと考えております。

当グループは今後とも患者・利用者様の安心と職員の幸せとともに、広く地域社会への還元を目指して事業に取り組んでまいります。

医療法人　博仁会

【経営理念】

私たちは、お客様が住みなれた地域で、いつまでも安心して暮らしていただくために、必要な保健・医療・福祉の総合的なサービスの提供に努めます。

【経営目標】

私たちは、県央・県北西部のリハビリセンターと高齢者・障害者総合ケアシステムの確立を実現します。

【綱領】

1．顧客様に対する気配りを念頭におく。
1．顧客様に対して笑顔で接し、接遇向上を常に心掛ける。
1．品質は全職員の融和と協力によって機能が発揮される。
1．保健と福祉は医療・介護の一環である。
1．地域に対する配慮を大事にする。

【品質方針】

当法人は、お客様のニーズに応え、「笑顔・感謝・工夫」をモットーに、いつでもサービスの改善を心がけることにより、ご利用者様ならびにご家族様に安心を与え、信頼される保健・医療・福祉サービスを提供いたします。

【地域リハビリテーション定義】

地域リハビリテーションとは、障害のある子供や成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行う活動のすべてを言う。

社会福祉法人　博友会

【経営理念】

私たちは、お客様が住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らしていただくために、必要な保健・医療・福祉の総合的なサービスの提供に努めます。

【法人目標】

1．地域の社会資源としての役割を十分に発揮した、地域共生社会の実現。
2．法人運営のための収益確保と災害・感染対策を含めた事業継続計画を策定。
3．ICT・IOT を活用した業務効率化と科学的介護への取り組みの実施。
4．働き方改革の推進と「人財」確保。
5．新給与体系及び新人事考課制度の効果的運用。

【品質方針】

当法人は、お客様のニーズに応え、「笑顔・感謝・工夫」をモットーに、ご利用者様ならびにご家族様に安心を与え、信頼される保健・医療・福祉サービスを提供するとともに、品質マネジメントシステムの継続的な改善に努め、常にサービスの質の向上を目指します。

【地域リハビリテーション定義】

地域リハビリテーションとは、障害のある子供や成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行う活動のすべてを言う。

法 人 の 沿 革

1951年　志村大宮病院設立

1953年　鈴木　芳男　理事長•院長兼任

1996年　鈴木　邦彦　院長就任

1998年　鈴木　芳男　会長就任
鈴木　邦彦　理事長•院長兼任
※
1995年　おおみや訪問看護ステーション開設
1996年　老人保健施設大宮フロイデハイム開設
大宮デイケアセンター開設
大宮リハビリテーションセンター開設
在宅介護支援センターおおみや開設
1998年　志村デイケアセンター開設（現在の志村デイサービスセンター）
おおみやホームヘルパーステーション開設
1999年　おおみや総合ケアプランセンター開設
2000年　療養型病棟「チロル館」開設
社会福祉法人　博友会　設立
2001年　介護老人福祉施設「御前山フロイデガルテン」開設
2002年　茨城県指定「地域リハ・ステーション」開設
茨城県指定「おおみや訪問リハ•ステーション」開設
2003年　病院機能評価「複合Ａ（一般•長期療養）」認定取得
フロイデグループホーム桂開設
茨城県北西総合リハビリテーションセンター開設
・回復期リハビリ病棟「スイス館」
・総合リハビリテーション施設
「ヨーデルリハビリテーションセンター」
2004年　ISO9001:2000認証取得
2005年　地域リハビリテーション広域支援センター開設
亜急性期病床開設
フロイデ在宅サポートセンター大宮中央開設
フロイデ総合在宅サポートセンター美和開設
フロイデ在宅サポートセンター大宮北開設
2006年　フロイデ総合在宅サポートセンター緒川開設
常陸大宮市南部地域包括支援センター開設
プライバシーマーク認証取得
2007年　フロイデ総合在宅サポートセンター山方開設
フロイデ総合在宅サポートセンター水戸けやき台開設
2008年　フロイデ総合在宅サポートセンター城里開設
医療法人　博仁会　志村大宮病院附属志村クリニックごぜんやま開設
2009年　フロイデ工房しろさと（障害者就労支援施設）開設
茨城県指定「小児リハ•ステーション」開設
2010年　学校法人志村学園　茨城北西看護専門学校開校
フロイデ総合在宅サポートセンター水戸河和田開設
みとけやき台総合ケアプランセンター開設
2011年　地域密着型介護老人福祉施設「大宮フロイデドルフ」開設
院内保育所「フロイデキンダーガルテン」開設
2012年　フロイデ総合在宅サポートセンターひたちなか開設
ひたちなか総合ケアプランセンター開設
コミュニティカフェ「バンホフ」開設
2013年　フロイデ総合在宅サポートセンター友部開設
やまがた総合ケアプランセンター開設
病院機能評価Ver.6.0認定取得
志村フロイデ地域包括ケアセンター開設

2014年　フロイデ総合在宅サポートセンター水戸
けやき台小規模デイサービスつどいの家
開設
2015年　志村大宮病院新本館「ドイツ館」竣工
・緩和ケア「エーデルワイス病棟」開設
フロイデ総合在宅サポートセンター大宮
開設
フロイデアシストハウス大宮開設
ひたちなか市北部地域包括支援セン
ター開設
くるみんマーク(子育てサポート認定企
業)認定
2016年　院内売店　KIOSK PLATZ　開店
志村検査•健診センター　開設
2017年　認知症対応型通所介護志村デイサービ
スセンター(さくらデイサービス)開設
茨城県指定　認知症疾患医療センター
開設
在宅介護支援センターおおみや　開設
機能訓練センターフリューゲル　開設
フロイデ総合在宅サポートセンター友部
開設
フロイデアシストハウス大宮　開設
フロイデひたちなか訪問看護ステーショ
ン　開設
フロイデ工房なか　開設
ロッティなか　開設
療養型病棟「チロル館」が医療療養病棟
「チロル館」へ変更
2018年　病院機能評価
一般病院１　3rdG:Ver.1.1　認定取得
副機能　リハビリテーション病院
3rdG:Ver.1.1
副機能　緩和ケア病院　3rdG:Ver.1.1
付加機能　リハビリテーション機能
(Ver.3.0)
2019年　フロイデグループホームひたちなか
いばらきテクノエイドセンター
みんなの休憩所
フロイデ水戸メディカルプラザ
フロイデクリニック水戸
2020年　フロイデグループホームひたちなか
フロイデ水戸メディカルプラザ
定期巡回・随時対応型訪問介護看護
2021年　フロイデひたちなかメディカルプラザ
着工
2022年　フロイデひたちなかメディカルプラザ
竣工
みんなの内科外科クリニック(有床診療所)
看護小規模多機能型居宅介護
住宅型有料老人ホーム
訪問診療
訪問看護
訪問介護
訪問リハビリテーション
定期巡回•随時対応型訪問介護看護
居宅介護支援事業所
就労移行支援　就労継続支援Ａ型
多世代学習拠点
地域交流スペース

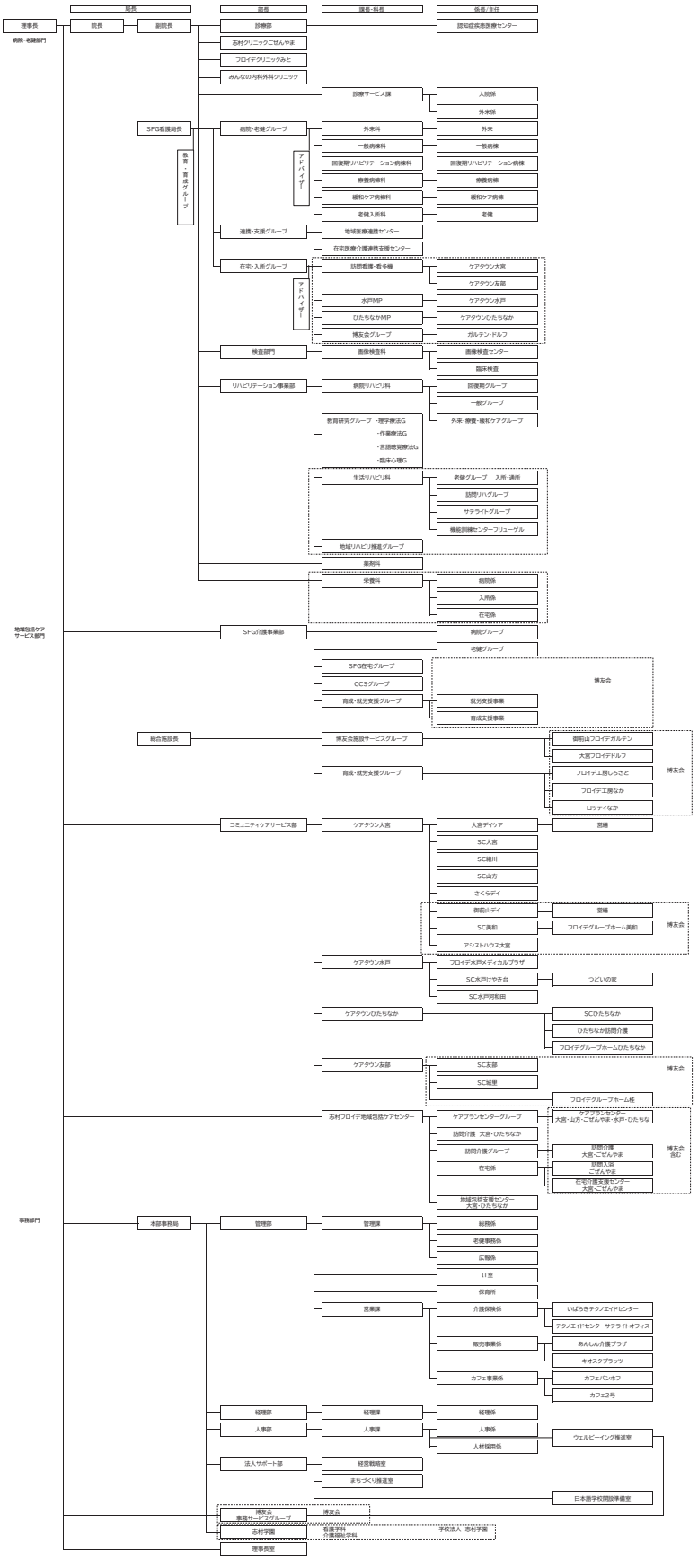
志村大宮病院概要

理事長・院長	鈴木　邦彦
所在地	〒319－2261　茨城県常陸大宮市上町 313 番地 ＴＥＬ　0295－53－1111　ＦＡＸ　0295－52－2705
診療科目	内科・消化器内科・呼吸器内科・循環器内科・神経内科・心療内科・整形外科・ 皮膚科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・婦人科・小児科・眼科・リハビリテーション 科・放射線科・歯科口腔外科・精神科・糖尿病外来・人間ドック・企業健診
常勤医師	20 名
非常勤医師	53 名
医療設備	全身ヘリカルマルチスライスＣＴ、ＭＲＩ、ＰＳＧシステム、 超音波診断装置（腹部・心臓・泌尿器科・婦人科）、 内視鏡装置（上部・下部消化管・十二指腸・気管支・咽頭・膀胱）、 デジタルＸ線テレビ装置、その他リハビリテーション装置
病床数	許可病床数　178 床　一般病棟　48 床 地域包括ケア病床　12 床　緩和ケア病床　20 床 回復期リハビリテーション病棟　50 床
看護体制	一般病棟　看護 10：1 緩和ケア病棟　看護 7：1 回復期リハビリテーション病棟　看護 13：1 医療療養病棟　看護 20：1　介護 20：1
指定医療機関	在宅療養支援病院 救急告示医療機関 認知症疾患医療センター 高次脳機能障害地域支援拠点病院 茨城県地域リハビリテーション研修支援センター 茨城県地域リハビリテーション広域支援センター 茨城県地域リハ・ステーション 労災保険指定医療機関 指定自立支援医療機関（精神通院医療） 生活保護法指定医療機関 難病指定医療機関 在宅難病患者一時入院事業 委託契約医療機関 訪日外国人旅行者受入れ医療機関 肺がん検診　登録精密検査医療機関（連携型） 胃がん検診　登録検診実施機関・登録精密検査医療機関 大腸がん検診　登録精密検査医療機関 子宮頸がん検診　登録検査実施機関 日本医療機能評価機構 主たる機能：一般病院 1　副機能：リハビリテーション病院 副機能：緩和ケア病院　付加機能：リハビリテーション機能 ISO9001（品質マネジメントシステム）：2015 認証取得 プライバシーマーク登録 日本リハビリテーション医学会認定研修施設 DPC 対象病院

第一部

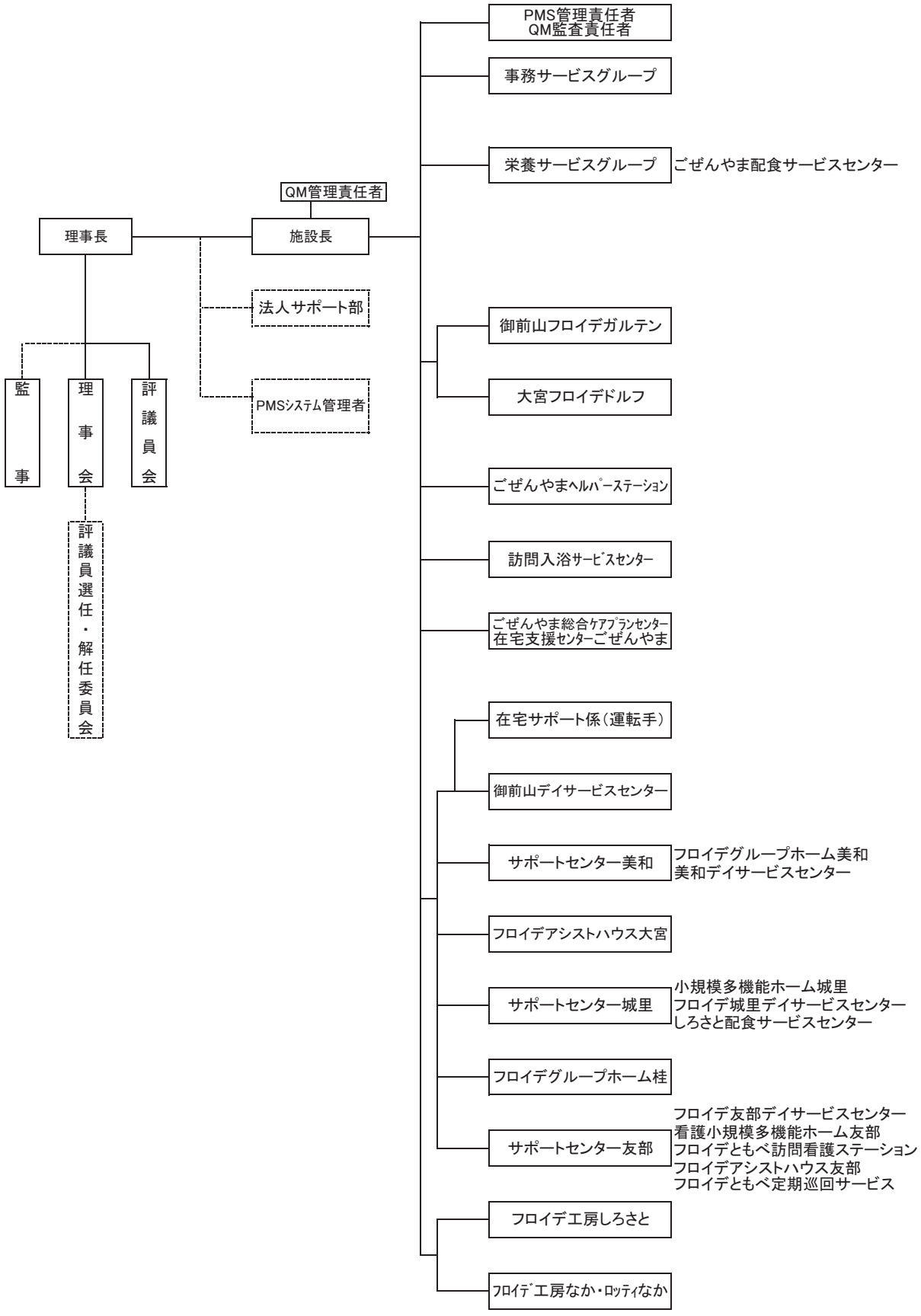
第一部

1．博仁会　組織図


理事長
病院・老健部門
院長
副院長
診療部
認知症疾患医療センター
芯村クリニックごぜんやま
フロイデクリニックみと
みんなの内科外科クリニック
診療サービス課
入院係
外来係
SFG看護局長
病院・老健グループ
外来科
外来
一般病棟科
一般病棟
回復期リハビリテーション病棟科
回復期リハビリテーション病棟
療養病棟科
療養病棟
緩和ケア病棟科
緩和ケア病棟
老健入所科
老健
教育・育成グループ
アドバイザー
連携・支援グループ
地域医療連携センター
在宅医療介護連携支援センター
在宅・入所グループ
訪問看護・看多機
ケアタウン大宮
ケアタウン友部
水戸PMP
ケアタウン水戸
ひたちなかMP
ケアタウンひたちなか
博友会グループ
ガルテンドルフ
検査部門
画像検査科
画像検査センター
臨床検査
リハビリテーション事業部
病院リハビリ科
回復期グループ
一般グループ
外来・療養・緩和ケアグループ
教育研究グループ ・理学療法G
・作業療法G
・言語聴覚療法G
・臨床心理G
生活リハビリ科
老健グループ　入所・通所
訪問リハグループ
サテライトグループ
機能訓練センターフリューゲル
地域リハビリ推進グループ
薬剤科
栄養科
病院係
入所係
在宅係
地域包括ケアサービス部門
SFG介護事業部
病院グループ
老健グループ
SFG在宅グループ
CCSグループ
育成・就労支援グループ
博友会
就労支援事業
育成支援事業
総合施設長
博友会施設サービスグループ
御前山フロイデガルテン
大宮フロイデドルフ
フロイデ工房しろさと
フロイデ工房なか
ロッティなか
博友会
コミュニティケアサービス部
ケアタウン大宮
大宮デイケア
別棟
SC大宮
SC植川
SC山方
さくらデイ
御前山デイ
別棟
SC東和
フロイデグループホーム東和
博友会
アシストハウス大宮
ケアタウン水戸
フロイデ水戸メディカルプラザ
SC水戸ドやき台
つどいの家
SC水戸河和田
ケアタウンひたちなか
SCひたちなか
ひたちなか訪問介護
フロイデグループホームひたちなか
ケアタウン友部
SC友部
SC城里
博友会
フロイデグループホーム桂
芯村フロイデ地域包括ケアセンター
ケアプランセンターグループ
ケアプランセンター
大宮・山方・ごぜんやま・水戸・ひたちなか
訪問介護　大宮・ひたちなか
訪問介護グループ
訪問介護
大宮・ごぜんやま
訪問入浴
ごぜんやま
在宅係
在宅介護支援センター
大宮・ごぜんやま
博友会
含む
地域包括支援センター
大宮・ひたちなか
事務部門
本部事務局
管理部
管理課
総務係
老健事務係
広報係
IT室
保育所
営業課
介護保険係
いばらきテクノエイドセンター
テクノエイドセンターサテライトオフィス
販売事業係
あんしん介護プラザ
キオスクプラッツ
カフェ事業係
カフェパンホフ
カフェ2号
経理部
経理課
経理係
人事部
人事課
人事係
ウェルビーイング推進室
人材採用係
法人サポート部
経営戦略室
まちづくり推進室
日本語学校開設準備室
博友会
看護サービスグループ
博友会
芯村学園
看護学科
介護福祉学科
学校法人　芯村学園
理事長室

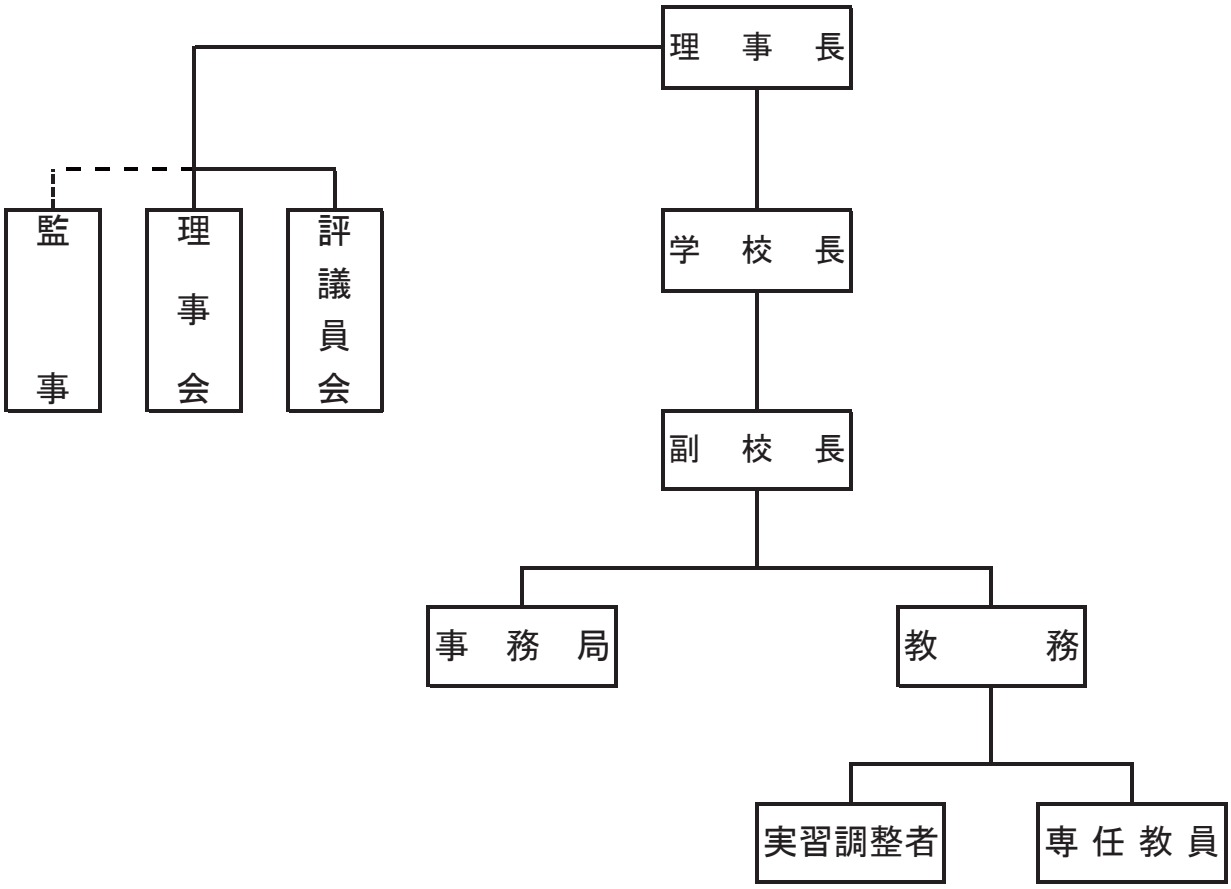
第一部

2. 博友会　組織図


PMS管理責任者
QM監査責任者
事務サービスグループ
栄養サービスグループ
ごぜんやま配食サービスセンター
QM管理責任者
理事長
施設長
法人サポート部
PMSｼｽﾃﾑ管理者
監事
理事会
評議員会
評議員選任・解任委員会
御前山フロイデガルテン
大宮フロイドルフ
ごぜんやまﾍﾙﾊﾟｰｽﾃｰｼｮﾝ
訪問入浴ｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ
ごぜんやま総合ｹｱﾌﾟﾗﾝｾﾝﾀｰ
在宅支援ｾﾝﾀｰごぜんやま
在宅サポート係（運転手）
御前山デイサービスセンター
サポートセンター美和
フロイデグループホーム美和
美和デイサービスセンター
フロイデアシストハウス大宮
サポートセンター城里
小規模多機能ホーム城里
フロイデ城里デイサービスセンター
しろさと配食サービスセンター
フロイデグループホーム桂
サポートセンター友部
フロイデ友部デイサービスセンター
看護小規模多機能ホーム友部
フロイデともべ訪問看護ステーション
フロイデアシストハウス友部
フロイデともべ定期巡回サービス
フロイデ工房しろさと
ﾌﾛｲﾃﾞ工房なか・ﾛｯﾃｨなか

第一部

3．志村学園　組織図



第一部

4．委員会一覧（博仁会）

委員会	委員長	計	開催日	役割
医局会	鈴木　邦彦	26 名	第 4 月曜	医師、コメディカルのコミュニケーションを取り、情報を共有する場
医療介護安全推進委員会	鈴木　邦彦	23 名	第 4 火曜	医療介護事故の分析及び再発防止などの検討。委員会によって立案された防止対策及び改善策の実施状況の調査及び見直し。 医療介護安全管理のための啓発、教育、広報。
院内感染対策委員会	鈴木　邦彦	29 名	第 4 火曜	院内感染に対して、院内感染の予防と感染症発生時に適切かつ迅速な対応を行う。
接遇向上委員会	鈴木　邦彦	89 名	第 3 月曜	職員がプロ意識を持ちご利用者に「心から満足していただけるサービスの提供」を行うため、接遇マナー向上・教育活動とご利用者のニーズを収集し、更には接遇向上のための企画立案活動を行う。
看護部教育委員会	加藤　令子	15 名	第 3 水曜	職員に対して法人内外における教育の機会を設け、資質の向上ならびに研究の推進をはかる。
安全衛生委員会	鈴木　邦彦	24 名	第 4 木曜	労働災害の防止、責任体制の明確化、職員の安全と健康を確保、快適な作業環境の形成促進。
医療ガス安全委員会	鈴木　邦彦	7 名	1 回 / 年	保守点検実施責任者に点検を行わせる。新築、増築、改修工事、及び修理等実施の際の安全確保。 院内各部門への、医療ガスに関する知識の普及、啓発。
NST	鈴木　邦彦	11 名	毎週月曜	ご利用者様のよりよい栄養管理を追及する。
褥瘡対策委員会	西村　雅美	40 名	第 3 木曜	院内における褥瘡発生を予防し、褥瘡に対し発症早期より適切なケア・治療を行えるような体制を整える。

第一部

4．委員会一覧（博友会）

委員会	主幹	計	開催日	役割
運営委員会	鈴木　邦彦	25 名	第 3 金曜	各管理者が集い実績報告ならび運営に必要な検討事項を協議し決定する。
感染・褥瘡予防委員会	宮路　満智子	38 名	第 1 火曜	各事業所での感染予防・褥瘡予防のために必要な情報伝達や職員教育を行う。
地域広報委員会	森　達也	16 名	不定期	地域共生社会を実現する為に地域に参画し交流を図る。また地域のニーズや課題の解決に目を向け施設の役割や連携を図り情報発信を行う。
食事委員会	鈴木　真弓	22 名	第 3 水曜	安全で美味しい食事の提供のために嗜好調査・アンケート結果等を分析し、食事の質の向上や顧客にニーズに応える為の活動を行う。
教育委員会	室井　英雄	17 名	第 4 木曜	職員に対して法人内外における教育の機会を設け、資質の向上ならびに研究の推進を図る。
防災管理委員会	佐藤　信也	23 名	年 4 回	消防訓練や職員の防災教育を図り、災害時適切な行動ができるように備える。
サービス向上委員会	清水　良則	23 名	第 2 火曜	職員がプロ意識を持ちご利用者に「心からの満足していただけるサービス提供」を行うため、接遇マナー向上・教育活動とご利用者のニーズを収集し、更には接遇向上のための企画立案活動を行う。
リスクマネジメント委員会	藤田　章宏	24 名	第 3 月曜	各事業所で発生したヒヤリハット及び事故の集計・分析を行う。重大な事故が発生しない為の予防活動、指導を行う。
権利擁護委員会	岩間　武寿	17 名	年 4 回	介護施設として必要な権利擁護等の活動に対し、体制や環境の整備・職員教育を行う。
業務改善委員会	黒澤　貴明	24 名	不定期	サービスの質の向上及び顧客満足度の向上を目的に業務改善を推進し、職場環境や業務効率の改善を図る環境づくりを行う。
車両安全管理委員会	宮田　匠	12 名	第 3 月曜	職員の車両運用と交通安全教育を図り、安全運転・車両管理の意識を高め、車両事故ゼロを推進する。

第一部

5．年間行事（博仁会）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
医局会	25	23	20	8/1	9/12	12	17	14	19	2/27	27	27
全体朝礼	4	2	6	4	1	-	3	7	5	16	6	6
地域清掃活動	4	2	6	4	1	5	3	7	5	16	6	6
サービス改善ミーティング	5/9	9	7	8/12	9/12	10/13	11/10	12/5	1/10	2/7	3/14	4/11
医療介護安全管理ミーティング・感染対策委員会	5/10	6/7	7/5	8/12	9/12	10/13	11/10	12/5	1/10	2/7	3/14	4/11
各部門連絡ミーティング	5/10	6/7	7/5	8/12	9/12	10/13	11/10	12/5	1/10	2/7	3/14	4/11
地域包括ケアミーティング	21	17	14	11	16	16	18	29	29	2/16	16	15
経営戦略会議	21	30	17	15	26	15	11/15	15	1/13	13	7	8
食事改善推進プロジェクト	11	9	13	11	8	12	17	14	12	16	13	13
PST ミーティング	25	23	20	8/1	29	26	11/14	14	19	30	27	27
薬剤・DPC ミーティング	12	23	20	8/1	29	26	17	14	19	30	27	27
コア 6 ミーティング	12	10	14	12	9	13	11	8	13	10	14	14
接遇向上委員会	12	10	14	12	9	13	11	8	13	10	14	14
茨城北西総合リハビリテーションセンター運営ミーティング	21	17	14	19	16	20	18	15	8	17	21	14
褥瘡対策委員会	21	19	16	21	18	15	20	17	15	19	16	16
事務ミーティング	21	30	17	15	26	15	18	15	1/13	13	7	8
フロイデ水戸メディカルプラザ運営ミーティング	20	12	21	22	18	22	11/22	22	1/26	26	3/20	20
感染対策小委員会	27	25	22	27	24	28	26	30	28	25	22	22
呼吸器センターミーティング	18	30	27	8/22	22	26	11/28	28	1/23	23	3/6	4/17
認知症連携ミーティング	11	17	14	11	16	26	17	14	8	23	7	14
経営会議	2	6/6	7/4	8/5	9/6	10/14	11/4	29	29	30	28	28
タウンマネジメントミーティング	21	30	17	15	26	16	11/28	28	29	23	7	15
安全衛生委員会	28	26	23	28	25	22	27	24	22	26	16	23

第一部

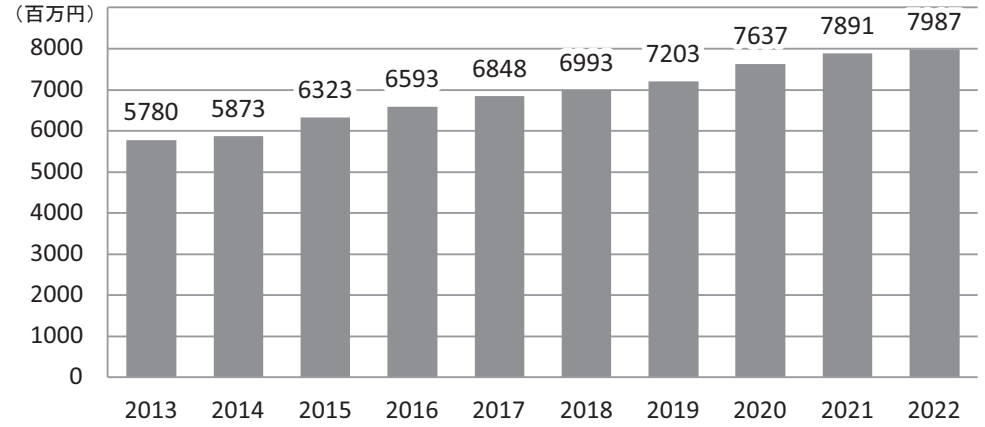
5．年間行事（博友会）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体朝礼	5	10	7	5	2	6	4	1	6	10	7	7
地域清掃活動	5	10	7	5	2	6	4	1	6	10	7	7
運営ミーティング	20	19	28	21	17	15	21	24	23	30	27	16
事務サービスグループミーティング	27	26	22	27	24	27	26	24	28	25	22	23
栄養サービスグループミーティング	12	9	8	7	10	5	11	5	8	7	3	3
御前山フロイデガルテンミーティング	13	16	13	11	11	13	21	18	15	13	10	10
御前山デイサービスミーティング	17	22	26	24	21	25	30	27	18	29	19	19
ごぜんやまヘルパーステーションミーティング	5	10	7	5	12	12	13	10	5	10	7	14
ごぜんやま訪問入浴サービスミーティング	27	25	22	21	23	15	20	24	28	25	23	23
ごぜんやま総合ケアプランセンターミーティング	27	25	29	27	24	28	26	24	28	25	22	29
グループホーム桂ミーティング	27	19	27	26	21	15	19	17	15	17	13	15
サポートセンター美和ミーティング	9	14	11	9	13	10	15	11	9	14	11	4
サポートセンター城里ミーティング	20	11	22	28	22	15	10	9	14	11	9	8
育成・就労支援グループミーティング	25	30	27	25	29	26	24	28	26	30	27	27
大宮フロイデドルフミーティング	27	25	23	28	25	29	27	24	28	25	22	22
サポートセンター友部ミーティング	11	9	13	11	8	12	17	14	12	16	13	13
フロイデアシスト大宮ミーティング	25	30	27	25	29	26	24	28	26	30	27	27

第一部

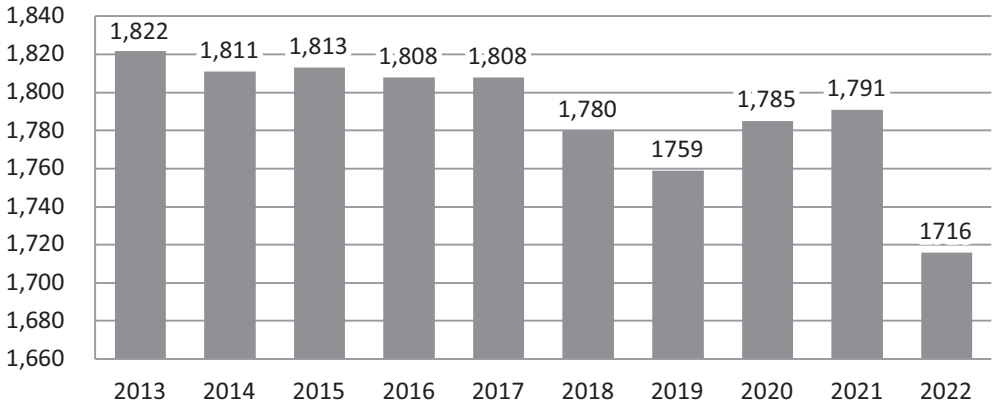
6．事業実績（博仁会）

◎全体実績推移



◎一般病棟科患者数推移

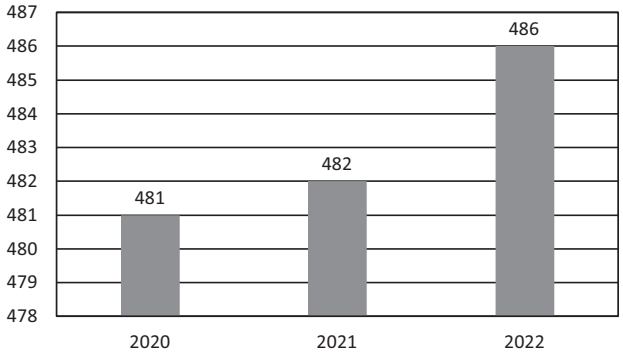
患者数推移



項　目	目　標	実　績
当日収入患者数	59 名／月	56.4 名／月
平均在院日数 DPC 効率係数 1.0 の維持	19.0 日以下 1.0 以上	19.8 日 0.99
重症度、医療・看護必要度	18.0%以上	21.2%／月
摂食機能療法算定	15 件／月	0.8 件／月
認知症ケア加算	200 件／月	267 件／月
せん妄ハイリスクケア加算	36 件／月	50.6 件／月
退院前・後訪問指導料	3 件	0 件
地域包括ケア病床在宅復帰率 70%以上の確保	70%	79.9%
病院内デイケアの実施	週 5 回　60 人参加	13.5 回／月　36.5 人／月
排尿自立支援加算	12 件／年	8 件／年
入退院支援加算 1	20 件／月	15.8 件／月
残業時間の削減	24 時間削減／月	23.5 時間削減／月

◎緩和ケア病棟科の実績

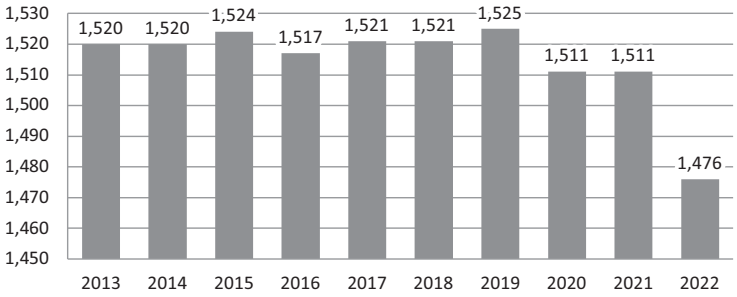
患者数推移



項　目	目　標	実　績
緩和ケア対象患者の確保　病床利用率	18 床／月	16 床／月
緩和ケア入院基本料 1 　在宅復帰率 　待機期間	 16%／年 平均 10 日	 19.0%／年 平均 7.2

◎回復期リハビリ病棟科の実績

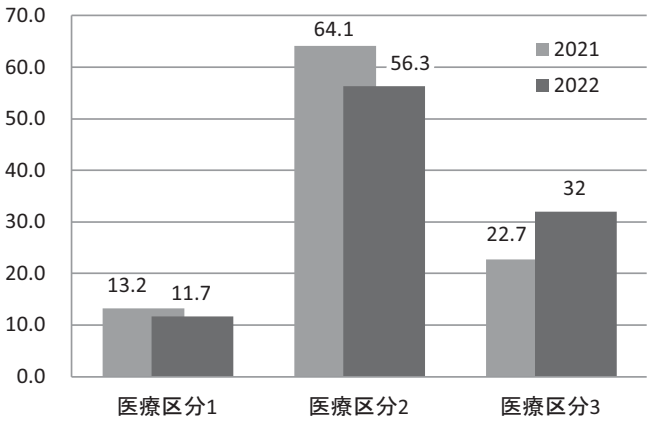
患者数推移



項　目	目　標	実　績
回復期リハビリテーション病棟入院料 1 の算定 　重症患者比率 　重症患者回復比率 　在宅復帰率 　リハビリ実績指数	 40.0%以上 30%以上 80%以上 43 以上	 44.6% 79.4% 88.5% 48.8
病床利用率	100.00%	97.2%
摂食機能療法		39.8 回／月
排尿自立加算		6.1 件／月
認知症ケア加算		130 件／月
残業時間削減		年間 1217 時間削減
退院後の患者様の生活状況の確認と支援に向けた働きかけ		

◎療養病棟科の実績

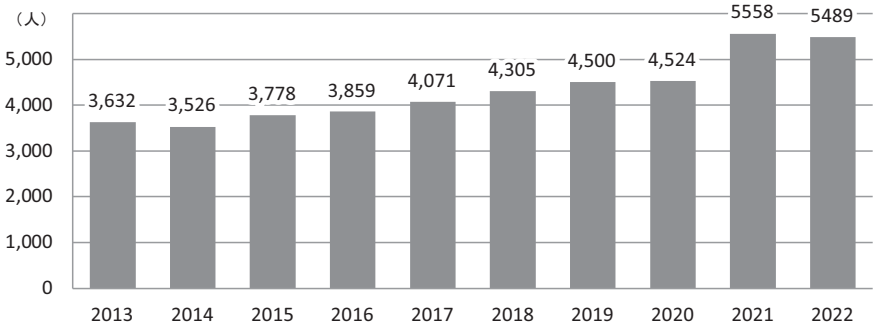
患者数推移



項　目	目　標	実　績
病床利用率	100.0%	98.8%
医療区分 2 ・ 3 割合	85%以上	103.8%
在宅復帰率向上	50%	12.5%
認知症ケア加算	2,400 件	2,296 件
栄養サポートチーム加算	60 件	54 件
褥瘡対策	600 件	394 件
ケアの質の向上　SAT-MeSSAGE モニター管理の充実 毎月勉強会（看護・看護補助者）を開催 患者・家族の満足度向上　（四季に応じたイベント）3 回開催／年 新入職員（看護）配属　 2 名、 看護学校実習受け入れ 外国人介護技能実習生（1 名）評価試験　N2 講座受講、受験		

◎外来科の実績

患者数推移（月平均）



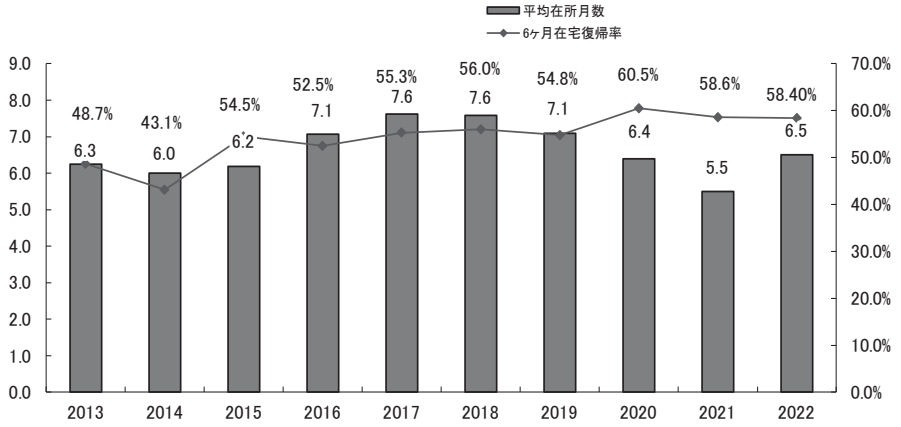
項　目	実　績	達成率
外来実人数増加	48,304 名	118.4%
救急車受け入れ件数　看護師処遇改善	209 件	102.5%
外来患者延べ数増加	65,862 名	118.7%
外来患者単価増収	月平均 9,070	106.7%
訪問診療件数の増加 　泌尿器科訪問診療	1,414 名 73 名	78.6% 110.6%
呼吸器センター件数の増加 　外来化学療法管理料 　外来化学療法患者の確保	 年間 15 名 1 名以上確保	 83.3%
地域包括診療料 1	14 件	46.7%
新型コロナウイルス感染予防対策：個人防護具の着脱徹底 発熱検査外来　4,992 名 新型コロナワクチン接種実施　6,538 名 新型コロナウイルス感染症メディカルチェック開始		
安全な医療サービスの提供：インシデント・アクシデント報告書レベル 3 以上　2 件		
一般病棟在院患者数の増加　外来からの入院患者数　555 名　92.5%		

◎志村地域医療連携センター

項　目	目　標	実　績
紹介件数	1,920 件	1,694 件
一般病棟 1 日当たりの在院患者数の安定	57 名	55.8 名
一般病棟　稼働率の安定	98%	97.9%
入退院支援加算 1 の増加	385 件	364 件
発熱検査外来　受付対応　1,306 件		

◎老健入所科の実績

平均在所月数と在宅復帰率推移



項　目	目　標	実　績
平均在所人数の安定確保	80 名以上	78.1 名
超強化型老健の維持 在宅復帰率・在宅療養等指標 短期集中リハビリ	85 点以上 560 件	82.5 点 454 件
品質目標 ・季節に応じたイベント 4 回開催　・業務継続計画　災害・感染症完成 ・グループケア　ターミナルケア利用者 3 名実施　・技能実習生指導員養成　2 名受講		

◎認知症疾患医療センター実績

項　目	目　標	実　績
総相談件数	1800 件	1,893 件
外来新患者数	186 件	193 件
医療機関からの紹介件数	60 件	63 件
認知症専門診断管理料 1 算定数	36 件	45 件
医療・専門機関との連携数	324 件	376 件
認知機能検査実施数	294 件	331 件
・MCI 支援事業（脳活性化教室フロイデブレインクラブの開催）の推進 ・常陸大宮市認知症初期集中支援チーム活性化・地域の認知症関連事業への講師派遣		

◎画像検査科

項　目	目　標	実　績
一般撮影件数	11,200 件	10,838 件
ＣＴ撮影	2,100 件	2,063 件
ＭＲＩ撮影	1,020 件	972 件
MDL（胃部バリウム）	700 件	893 件
夜間・休日オンコール　8 件　対応率　100%　Call ～到着　33 分		
CT・MRI 共同利用への取り組み　検査依頼　実績 30 件		
医師負担軽減の取り組み「読影の補助」 問い合わせ　66 件　進言 20 件		
医師負担軽減の取り組み　腹部エコー検査習得　放射線技師　2 名		

◎ホームヘルパーステーションの実績（おおみや・ごぜんやま）

項　目	目　標	実　績
訪問件数	27,295 件	26,814 件

◎おおみや訪問看護ステーションの実績

項　目	目　標	実　績
訪問件数	5,391 件	4,474 件

◎ケアプランセンターのケアプラン作成実績

項　目	目　標	実　績
おおみや総合ケアプランセンター	255.3 件／月	257.2 件／月
やまがた総合ケアプランセンター	131.0 件／月	133.5 件／月
フロイデみと総合ケアプランセンター	221.2 件／月	226.3 件／月
ひたちなか総合ケアプランセンター	173.8 件／月	177.2 件／月
ケアプランセンター（5 事業所）	12,674 件	12,423 件

◎地域包括支援センターの介護予防プランの作成実績

項　目	目　標	実　績
常陸大宮市南部地域包括支援センター	1,110 件	1,564 件
ひたちなか市北部地域包括支援センター	960 件	875 件

◎在宅介護支援センターおおみやの実績

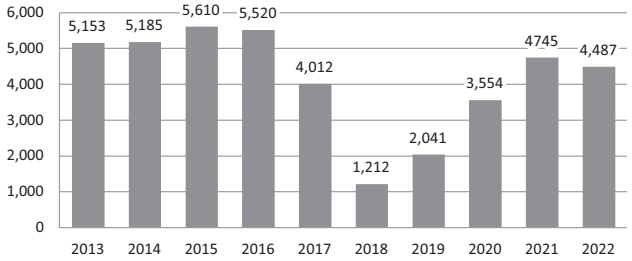
項　目	目　標	実　績
高齢者見守り安否確認事業	83.2 件 / 月	86.7 件 / 月

◎コミュニティケアサービス部の利用者数実績

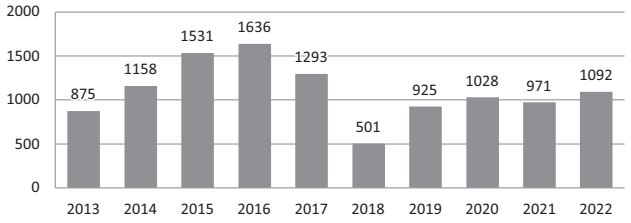
項　目	目　標	実　績
ケアタウン大宮		
大宮デイケアセンター	23,864 人	23,047 人
フロイデ総合在宅サポートセンター大宮		
通所	10,700 人	10,453 人
小多機	10,585 人	10,299 人
志村デイサービスセンター	3,443 人	3,219 人
フロイデ総合在宅サポートセンター緒川	9,582 人	9,091 人
フロイデ総合在宅サポートセンター山方		
通所	10,140 人	9,152 人
小多機	6,935 人	6,861 人
御前山デイサービスセンター	10,657 人	10,534 人
フロイデ総合在宅サポートセンター美和		
通所介護	10,383 人	9,465 人
グループホーム	3,285 人	3,207 人
アシストハウス大宮（サ高住）	7,300 人	7,293 人
ケアタウン水戸		
フロイデ総合在宅サポートセンター水戸けやき台		
通所	10,383 人	10,215 人
小多機	10,220 人	9,906 人
フロイデ総合在宅サポートセンター水戸けやき台		
つどいの家	2,817 人	2,514 人
フロイデ総合在宅サポートセンター水戸河和田		
通所	10,383 人	1,0032 人
小多機	10,585 人	10,246 人
フロイデ水戸メディカルプラザ		
通所	17,763 人	17,102 人
看多機	10,585 人	10,050 人
住宅型有料	7,300 人	6,954 人
訪問介護	3,832 人	3,726 人
訪問看護	5,672 人	5,319 人
訪問リハビリ	5,579 人	5,170 人
診療所	3,684 人	4,995 人
カフェ来店客数	19,175 人	24,571 人
フィットネス登録者数	945 人	979 人
定期巡回	7,300 人	5,480 人
就労支援	2,808 人	1,705 人
ケアタウンひたちなか		
フロイデ総合在宅サポートセンターひたちなか		
通所	21,270 人	21,178 人
認知症デイ	3,443 人	3,096 人
小多機	10,585 人	10,300 人
グループホーム	6,570 人	6,530 人
共用型認知症デイ	1,560 人	970 人

◎薬剤科の実績

薬剤管理指導料推移



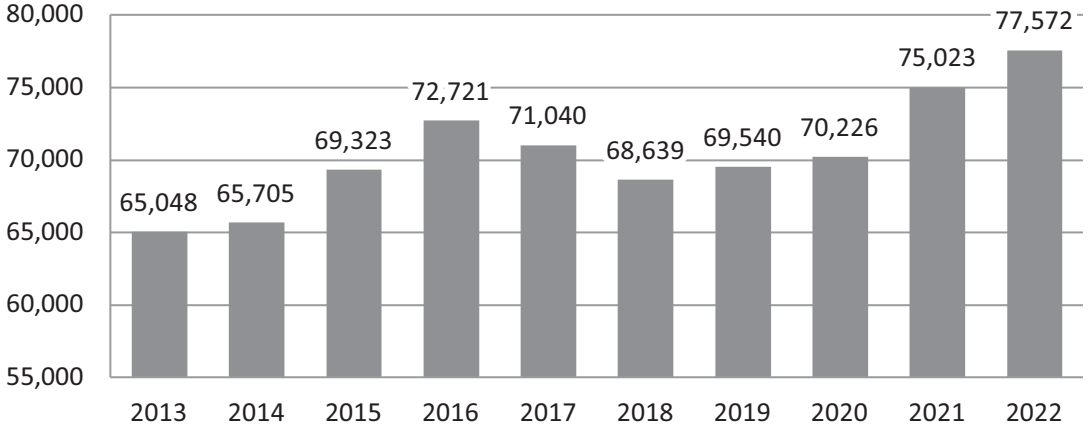
訪問薬剤管理指導回数推移



項　目	目　標	実　績
病棟薬剤管理指導	4,200 件	4,487 件
訪問薬剤指導	1,020 件	1,092 件
薬剤師病棟配置加算	3,000 件	3,411 件

◎栄養科の実績

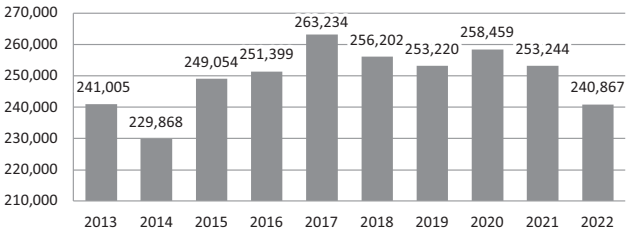
配食件数実績推移



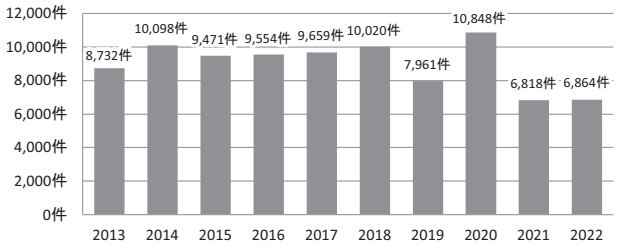
項　目	目　標	実　績
配食件数	106,820 食	113,977 食
居宅栄養管理指導　施設 個人	840 件 120 件	767 件 31 件
栄養指導（個人）	840 件	420 件
食事推進プロジェクト　バイキング月 1 回の実施・新メニュー・改善活動 36 品目		
食材費高騰への対応：見積比較、価格交渉		
食事支援の充実：選択メニュー、エーデルワイス誕生会、経口摂取移行への取り組みなど		
チーム医療の推進：各病棟、施設ミーティング参加		
おおみや認定栄養ケア・ステーション：介護予防教室、レシピ作成、弁当を教材とした栄養教室		

◎リハビリテーション事業部の実績

リハビリ訓練単位推移「年間訓練単位」



訪問リハビリ単位推移



項　目	目　標	実　績
病院におけるリハの提供	259,515 単位	240,867 単位
PT、OT による摂食機能療法	324 件	136 件
ST による摂食機能療法	331 件	97 件
リハ総合計画評価料 1	680 件	571 件
リハ総合計画評価料 2	545 件	574 件
運動量増加器加算	36 件	25 件
専門知識・技能の習得 日本理学療法士協会　登録理学療法士前期研修修了　1 名 日本作業療法士協会　基礎研修プログラム修了　1 名 日本言語聴覚士協会　基礎研修プログラム修了　1 名 研究論文投稿　1 稿		
学術活動（全国レベル　計 4 演題） リハ・ケア合同研究大会、回復期リハ病棟協会研究大会、慢性期リハ学会、日本作業療法学会		
学術活動（県レベル　計 11 演題） 茨城県理学療法士学会、茨城県作業療法学会、茨城県総合リハケア学会、 茨城県言語聴覚士会地域合同症例検討会		
研修会・学会への参加 日本理学療法学術大会　2 名 日本作業療法学会　2 名 日本言語聴覚学会　1 名 日本心理臨床学会　1 名		
職能要件書に沿った教育プログラムの実施 新人教育プログラム　63 テーマ 新人症例検討会　2 回 職種別教育　各職種 2 テーマ		
呼吸器リハに関する知識・技術の向上を図る勉強会　2 回		
リスク管理能力の向上を図る勉強会　2 回		
リーダー・係長の管理能力向上を図る勉強会　1 回		
老健Ｇの新人教育体制の文書化　新人指導者の役割の文書化		

◎人事課の実績

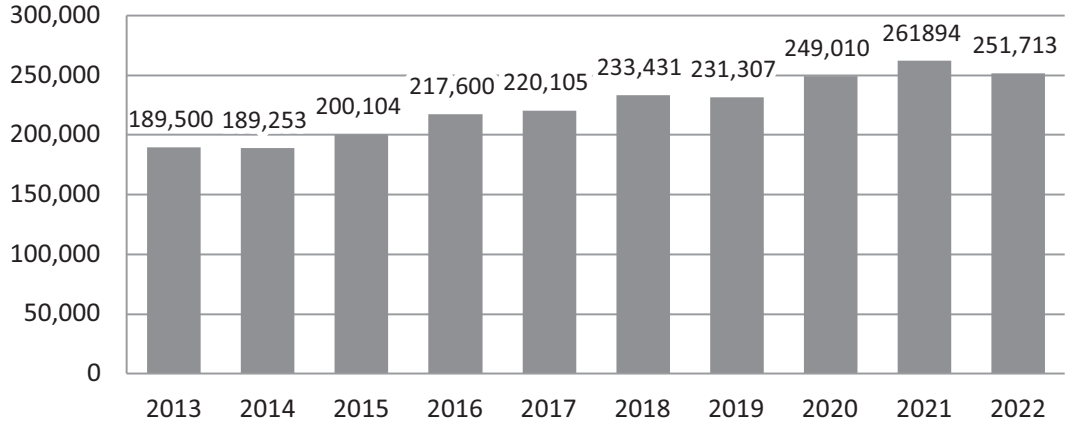
「新人事制度」の構築：新賃金制度、新人事考課制度、就業規則その他規程の変更
医師の働き方改革に向けて：働き方改革に適応した「雇用契約書」作成、契約 宿日直許可申請により許可書交付
新規業務対応、労務管理の質向上・効率化：給与明細書の電子化 ストレスチェックの項目追加 ハローワーク助成金の活用
離職率の低下：実績 9.7%　89 名（65 歳以下 8.6%　79 名）

◎診療サービス課の実績

DPC の収益維持　DPC 期間内の早期退院調整（入院期間Ⅰ・Ⅱ）49% 在院日数管理と入院期間Ⅰ・Ⅱ退院管理、効率性係数 1.0 以上の維持
検査・健診センター受診者数増加　特殊健康診断・OP 検査の拡充、各企業業種別の簡易健診の開始 年 4 回の精度管理調査の実施（検体検査・レントゲン・心電図）
新型コロナウイルス感染症対応　ワクチン予約管理、接種実績、補助金及び接種協力金申請
フロイデひたちなかメディカルプラザ新規開設対応　医療機関届出、各システム稼働準備
電子カルテリプレイス　電子カルテシステム入れ替え、動作確認

◎営業課の実績

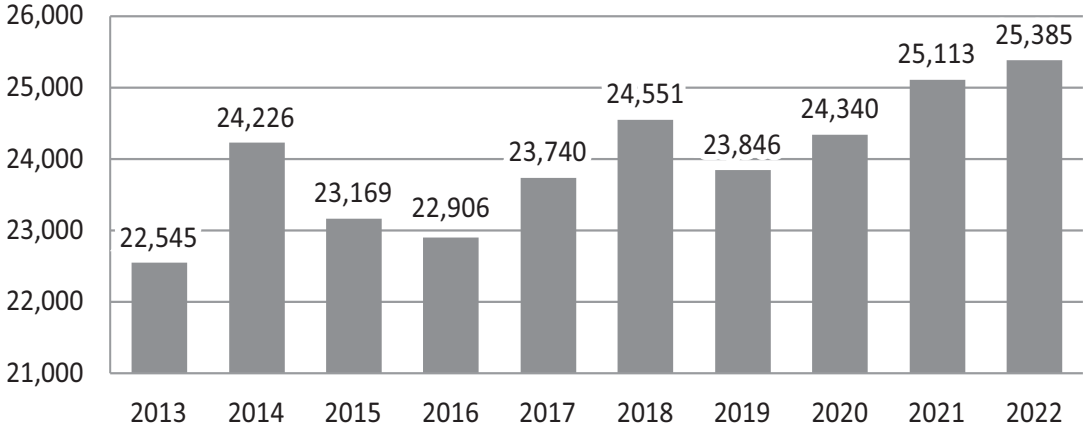
いばらき総合介護サービス収入推移



項　目	目　標	実　績
いばらき総合介護サービス売上高	271,250 千円	251,713 千円
いばらき総合介護サービス収益	11,830 千円	12,149 千円
介護事業部売上高	197,408 千円	180,629 千円
カフェ事業部売上高	25,403 千円	26,826 千円
アパート事業部売上高	7,581 千円	7,983 千円
売店事業部売上高	40,805 千円	36,276 千円
住宅改修件数	72 件	50 件
レンタル利用者数	8,005 人	8,125 人
レンタル新規利用者数	180 人	199 人
各事業のプロモーション活動の徹底 ブランド化委員会の開催 志村フロイデグループ緊急地域支援体制の整備		

◎管理部の実績

年間コスト削減実績



コスト低減の強化 ・目標：25,000 千円／年間　実績：25,385 千円／年間　101.5% ・照明器具の LED 化（スイス館・チロル館）による照明料金　9.4%削減 ・SPD の運用によるコスト削減（7 月から）8.5%削減　2,760,598 円 ・臨床検査業務の FMS 方式によるコスト低減 ・クリアエコによる水道料金削減　13.8% ・おまか Save air による電気料金削減
情報システムの整備・情報発信 ・電子カルテ、医事会計システムのリプレイス ・基幹システムのセキュリティ対策ソフトバージョンアップ ・プライバシーマーク認証取得・PACKS サーバー更新 ・広報誌「おげんきですか」発行 ・Wi-Fi 利用増加に伴う院内ＮＷ見直し ・ＨＰコンテンツの充実　・サイバーテロ保険加入
施設整備推進 ・スイス館ナースコールシステム更新 ・ドイツ館・スイス館エアコン設備修理 ・ドイツ館、スイス館床頭台入れ替え ・車両の入れ替え実施
院内保育所「フロイデキンダーガルテン」 ・病児保育の登録者増、利用者増 ・子ども子育て支援事業費補助金申請 ・保育料の無償化（職員） ・保育士の確保 ・ＨＰ作成 ・パンフレット更新
病院ＢＣＰ作成
保健所立入検査（書面審査)、申請届出
病院機能評価受審準備
健康経営優良法人認定

◎経理部の実績

セグメント別に管理会計を実施し、各セグメントの利益率を向上することにより法人全体の経営安定化を進めていく。
ひたちなか建築に伴う借入金発生するため負債勘定残高をより注視し管理していく。
電子カルテ入替等で支払いが多額になるため、預金残高を注視し資金繰状況を管理していく。

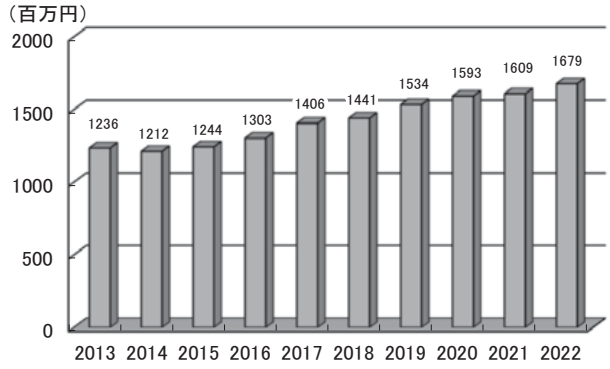
◎法人サポート部の実績

新規事業開設の支援 ・ケアタウンひたちなか開設に係る各種開設申請・補助金申請等 有床診療所・看護小規模多機能型居宅介護・住宅型有料老人ホーム 定期巡回随時対応型訪問介護看護　等
日本地域包括ケア学会　第 4 回大会 2023 年 1 月 9 日 ・参加者：1,046 名　オンライン＋アーカイブ配信
日本在宅療養支援病院連絡協議会運営支援 ・理事会・総会の開催　勉強会 3 回開催 ・在宅療養支援病院に関する全国アンケート調査の実施
病院を中心としたまちづくりの推進 ・茨城北西まちづくり研究会　西村新一氏・今佐和子氏・牧嶋誠吾氏
病院団体の運営支援 ・茨城県医療法人協会勉強会　経営勉強会　運営勉強会
地域包括ケアシステムの推進、全世代全対象型地域包括ケアの構築 ・生活困窮者自立支援制度　認定就労訓練事業所登録 ・常陸大宮市在宅医療・介護連携支援センターの運営支援 ・適切なケアマネジメント手法　課題分析標準項目検討委員会への参画

第一部

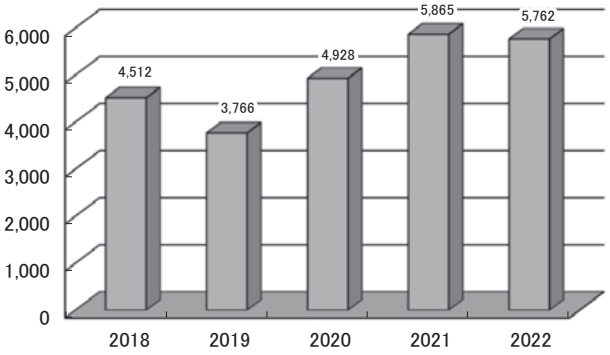
6. 事業実績（博友会）

◎全体実績



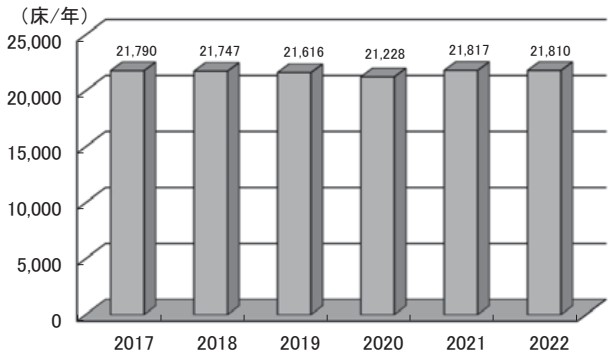
◎育成・就労支援グループの実績

フロイデ工房しろさと　利用件数推移

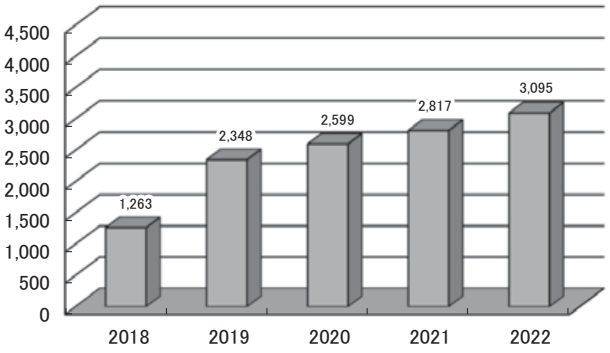


◎御前山フロイデガルテンの実績

利用者推移

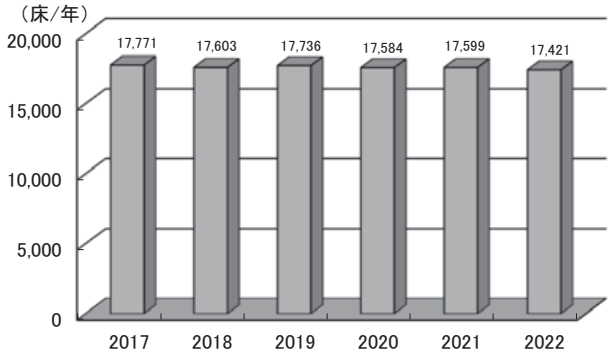


フロイデ工房なか　利用件数推移

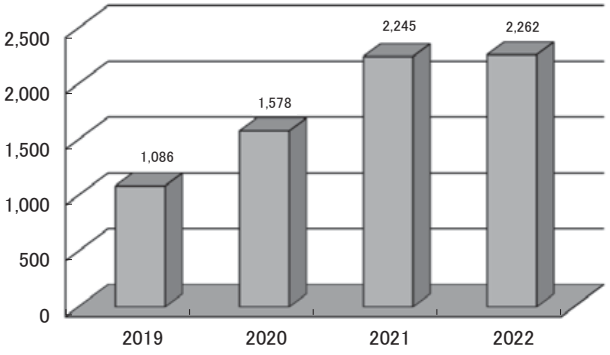


◎大宮フロイデドルフの実績

利用者推移



ロッティなか　利用件数推移



◎コミュニティケアサービス部の利用者数実績

項目	目標		実績	
御前山デイサービスセンター	10,657	名／年	10,534	名／年
美和デイサービスセンター	10,383	名／年	9,465	名／年
フロイデグループホーム美和	3,285	名／年	3,207	名／年
フロイデアシストハウス大宮	7,300	名／年	7,293	名／年
フロイデグループホーム桂	6,570	名／年	6,293	名／年
フロイデ城里デイサービスセンター	10,383	名／年	10,380	名／年
小規模多機能ホーム城里	10,585	名／年	9,852	名／年
フロイデ友部デイサービスセンター	10,383	名／年	10,462	名／年
フロイデともべ訪問看護ステーション	5,657	名／年	6,634	名／年
看護小規模多機能ホーム友部	10,585	名／年	9,996	名／年
フロイデともべ定期巡回サービス	4,559	名／年	1,747	名／年
フロイデアシストハウス友部	7,300	名／年	7,135	名／年

◎ごぜんやまホームヘルパーステーションの利用者数実績

項目	目標		実績	
ごぜんやまホームヘルパーステーション	7,105	名／年	6,573	名／年

◎ごぜんやまケアプランセンターの利用者数実績

項目	目標		実績	
ごぜんやま総合ケアプランセンター	3,300	名／年	2,909	名／年

◎ごぜんやま訪問入浴サービスセンターの利用者数実績

項目	目標		実績	
ごぜんやま訪問入浴サービスセンター	1,300	名／年	1,420	名／年

◎栄養サービスグループの利用者数実績

項目	目標		実績	
ごぜんやま配食サービスセンター	33,210	名／年	32,243	名／年
しろさと配食サービスセンター	4,020	名／年	4,157	名／年

◎事務サービスグループ　実績

項目	実績
事業継続計画(BCP)の作成	自然災害　全事業所整備完了
働きやすい職場環境	離職率9.10%　23名／年(65歳以下　7.52%　17名)
	新給与体系への移行完了
	新人事考課制度への移行完了
	働き方改革関連法遵守
	各種規程類改定･施行
外部評価	ISO／Pマーク　更新審査対応
外国人材受入	6名／年(モンゴル、ベトナム)

第一部

7．部門別実績報告　博仁会

看護局

加藤 令子

少子高齢化が進む中、地域医療構想や地域包括ケアシステム構築の推進に向けて在宅医療提供体制の整備が進められています。また、看護業界においては 2025 年に向けて 15 万人の訪問看護師の育成が求められています。従って、看護基礎教育における地域を占める割合が増え、地域に寄り添う看護が着目されてきました。在宅療養支援病院の立場から、いち早く地域に溶け込む活動に着手したスキルを活かし「その人らしさ」を大切に支援できる看護師育成に力を入れました。

【目標】

⑴ SFG・地域に貢献する看護局
　～オールマイティな看護師の育成・共に学び成長する組織へ～
⑵ 診療報酬改定および算定管理
　～救急車 200 台・新型コロナ受け入れ病床の管理・感染対策の強化～
⑶ フロイデタウンひたちなか開設準備支援

【実績】

SFG・地域に貢献する看護局～オールマイティな看護師の育成・共に成長する組織へ～

包括的・継続的アセスメント能力を養うことを目的とし、新人看護師の一部を訪問看護や施設に配置しました。看護技術に関しては、入職後約 2 週間の集合研修と月 1 回の研修でフォローし、不安な処置に対しては､病棟の協力を得て経験を積んでいます。結果､アセスメントまでは到達できませんでしたが､地域で暮らす人々の多様性に目を向ける視点が芽生えてきています。

診療報酬改定および算定管理
～救急車 200 台・新型コロナ受け入れ病床の管理・感染対策の強化～

《救急車受け入れ台数》

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
目標	17	17	17	17	17	17
実績	19	17	15	23	17	15
達成率	112	100	88	135	100	88
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
目標	17	17	17	17	17	17
実績	15	15	20	18	17	18
達成率	88	88	118	106	100	106
合計　目標　204 台　実績 209 台　達成率 102%						

《コロナ受け入れ病床利用数》

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
目標						
実績			30	6.4	51.6	56.6
達成率						
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
目標	50	50	50	50	50	50
実績	41.1	90.9	96.3	95.2	73.3	43.8
達成率	82	181	192	190	126	87
平均　目標 50%　実績 58.5%　達成率 117%						

《感染対策の強化》

法人内クラスター発生を最小限にするために 5 カ年研修中の看護師を中心に「コロナ応援チーム」を結成しました。

[コロナ応援チーム活動内容]
　①コロナ病床対応
　②職員指導
　③法人内施設クラスター発生時の 24 時間対応

[活動の結果]

当初、コロナ応援チームがコロナ病床の対応をしていたが、感染対策委員会と連携をはかり職員指導を実施した後、感染対策が充実されたため対象病棟での対応が可能となりました。

【2023 年度に向けて】

フロイデケアタウンひたちなか開設に伴い看護師の人数が増加します。病院内外を問わず、同じ法人の看護師として連携をはかりながら、地域の皆さまのお役に立てるように教育基盤を整え、共に成長できる組織づくりを目指します。

第一部

7．部門別実績報告　博仁会

一般病棟科

科長　小林 雅美

多職種カンファレンス（医師、看護師、薬剤師、リハビリ、栄養士、MSW）

院内デイサービス　切り絵作成

【目標】

①医療安全・感染対策・褥瘡予防等への意識を向上させ､安全で安心なケアサービスを提供する。

②地域包括ケアシステムの中での、病院の役割を果たすため、施設や在宅サービスとの連携をはかる。

③研修へ積極的に参加し、知識の習得、ケアの質の向上に努める。

【取り組みと実績】

ケアの質向上においては医療安全や感染対策、褥瘡対策等の各委員会や栄養、認知症、排尿自立等の各サポートチームの活動と、それらに関する職員教育の取り組みを継続しました。認知症ケア加算１を取得しており、増加傾向にある認知症患者様に対してより良いケアができるよう対応しております。私達は入院されると同時に退院に向けてのプラン作成やアドバンスケアプランニングについての説明をさせていただいており、地域包括ケアシステムの中でシームレスなケアを提供することに努めました。一般病棟は地域包括病床を 12 床設置しており、地域で求められる在宅医療を支える体制作りに励んでいます。入院時には施設や在宅スタッフから情報を取得し、入院前の生活をなるべく続けられるような体制を整えています。退院時にはケアマネージャーをはじめ訪問看護や訪問介護、デイサービス等の在宅サービスのスタッフと連携を図り、状態に合わせたサービスを検討しています。

また、呼吸器内科の専門医が常勤勤務しており、呼吸器疾患センターを病棟内に併設しています。呼吸器疾患（肺炎や慢性閉塞性肺疾患、肺がんなど）の患者様に対し質の高い医療の提供をしています。また、脳血管疾患（脳梗塞や脳出血など）や整形外科（骨折などの手術後）など急性期病院からのリハビリ目的の患者様の受け入れを行い、回復期リハビリ病棟へと繋げています。皮膚科の常勤医、非常勤医がおり皮膚科疾患（帯状疱疹、蜂窩織炎、褥瘡など）の入院も受け入れています。

また、コロナ感染症の患者様用の病床を１床確保し、主に軽症から中等症で在宅療養が難しい方を中心に受け入れを行っています。病棟内でもコロナ感染症のクラスターが発生しましたが、引き続き感染対策を徹底しながら、安心・安全な医療を提供していきます。

2022 年度は月平均で平均在院日数 19.8 日、看護必要度Ⅰ対象者 21.2%、年間での病床利用率 94%でした。アンケートでは多くのご協力をいただき、様々なご意見と励ましや温かい言葉を多くいただきました。ご意見は真摯に受けとめ改善対応させていただきました。

今後も、地域住民の方々が安心して暮らしていただくための地域包括システムの構築に貢献できるよう、質の高いケアを提供してまいります。

第一部

7．部門別実績報告　博仁会

緩和ケア病棟科

科長　横山 直子

多職種カンファレンス

病棟でのイベント

【概要・特徴】

緩和ケアエーデルワイス病棟は、がんを治すことを目標とした治療が難しい、またそうした治療を希望しない方を対象にがんの進行に伴うからだやこころの辛さに対する治療やケアを専門に行う病棟です。患者様の体や心のさまざまな苦痛を取り除き、患者様のがんの痛み、患者様やご家族様が感じる精神的な痛みや社会的な痛みなどを含めた全人的苦痛に向き合いその痛みの軽減を目指して日々業務にあたっています。また、緩和ケア病棟は、一度入院したら退院できない場でなく、症状が強い時期に緩和治療を行い、自宅へ退院をスムーズに行うなど、地域や在宅の医療機関と連携して在宅復帰につなげています。

患者様が最後までその人らしく生きるを支援していくための医療を目指しています。

【2022 年度目標】

1. ACP を充実させ QOL を向上できる支援をします
2. 適切な症状評価を実施し苦痛の緩和に努めます
3. 病棟内教育システムを充実させ専門性を高めます

【活動実績】

医師と担当看護師が患者様又はご家族様の思いを傾聴し意思決定支援を行い、多職種カンファレンスを実施し思いに沿ったケアを提供できるように取り組みました。

患者様が最後まで人生を生き生きと、できるだけ活動的に生きることを支えるため、レクリエーションや季節ごとのイベントの実施や誕生日のお祝いなど家族との大切な時間サポートしました。また、運動機能回復や機能維持のために理学療法士によるリハビリを実施しました。作業療法士による作業活動や在宅復帰前の調理実習など患者様の希望に沿ったケアを支援しました。

ナースカーで自宅等へ外出し付き添いをさせていただきました。

痛みなどの症状が強い場合に緩和ケア病棟に入院し、症状が緩和されたら自宅に退院する等の症状緩和を行いその人らしく過ごせる環境を共に考えて援助しました。

STAS-J はホスピス・緩和ケアの成果とケアの質を客観的に評価するために開発されたスケールで、その評価表を用いて疼痛評価を行い、患者様だけでなくご家族の苦痛の緩和も含めたケアを実施しました。また、疼痛評価を行い医師の指示に従い薬物療法での緩和や、アロママッサージなどのリラクゼーションの実施。気持ちの辛さを患者様と向き合い話を傾聴し苦痛の緩和を行いました。

新人看護職員に対してプリセプター制を採用し技術的•精神的サポートを行いながら指導をしました。また、看護協会オンライン研修を活用し緩和ケア分野を視聴しスタッフ間で共有しながら緩和ケアに関する知識の向上に努めました。

今後も患者様・ご家族様の思いに寄り添い、地域に根ざした緩和ケア病棟として職員一同努めてまいります。

第一部

7. 部門別実績報告　博仁会

外来科

科長　小倉 十三子

【概要】

地域に根ざした病院として患者・家族様に寄り添い、診察の介助、検査説明・処置（採血、点滴、注射、バイタルチェック）、診察後の説明・指導、病棟・地域との連携等、代弁者の役割を外来看護師は担う。外来科職員は、看護師5名、准看護師8名です。診療部は常勤医師、非常勤医師と診療科目も非常に多く、また、専門外来として、呼吸器内科、睡眠時無呼吸症候群外来、頭痛・しびれ外来、心療内科、血液内科外来、糖尿病外来、緩和ケア外来、発熱・検査外来等があります。

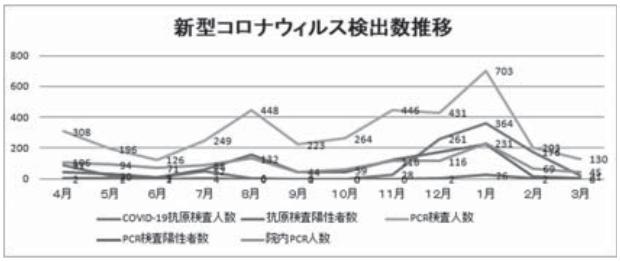
【実績】

1. 外来患者延べ数　118.7%
2. 外来実人数　118.4%
3. 外来患者単価増収　106.7%
4. 健康診断センター件数の増加　167.9%
5. 訪問診療件数　78.6%
6. 泌尿器科訪問診療　104.6%
7. 外来科呼吸器内科患者数　120.3%
8. 救急車受け入れ件数　102.5%
9. 地域包括診療料1　46.7%
10. 新型コロナワクチン接種　6.538名/年
11. 新型コロナウイルス感染症メディカルチェック実施
12. がん外来化学療法患者1名定期治療　83.3%
13. 発熱・検査外来継続　4.984名/年

1日平均外来患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2022	201	201	190	224	253	216
2021	192	212	221	231	263	246
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022	238	295	258	210	211	194
2021	241	232	213	204	241	234

2022年　224.2人/日　2021年　227.5人/日



【トピックス】

外来科目標に救急搬送患者の受け入れがあります。年間目標200件以上と設定し、4月から診療部と協力し受け入れを強化しました。結果、年間209件の救急車を受け入れることができました。また、呼吸器センター医師の協力により呼吸器内科患者数も増え、2020年からがん外来化学療法を開始しています。徐々に患者数は増え年間16回の治療を実施しました。

発熱・検査外来は、前年度同様に実施のなか午前に新たにワクチン・検査パッケージが開始され、運用フローに従いドライブスルー方式にてCOVID-19抗原検査を看護師が実施しました。新型コロナウイルス感染病床1床陰圧室を開設準備にともない、呼吸器センター医師と病棟師長、外来師長にて那珂市内近隣病院へ設備や、受け入れ動線の確認を視察しました。当院にて診療部とシミュレーションをおこない6月から新型コロナウイルス感染症陽性者の陰圧室病床への入院可能としました。

シミュレーションの様子

第一部

7．部門別実績報告　博仁会

回復期リハビリテーション病棟科

科長　森嶋 仁

病棟スタッフ

多職種カンファレンス

【回復期リハビリテーション病棟（以下回リハ病棟）部門目標】

(1) 良質で効果的かつ実績あるリハビリ看護・介護ケアの提供～重症者の早期受け入れと回復期リハビリ病棟入院料１の維持～

(2) リハビリ科等との協働による患者様一人ひとりの ADL 拡大～患者様が住み慣れた地域への退院できる他職種での関わりの強化～

(3) 感染予防対策の徹底と適切な人員確保による安定的なサービスの質向上と時間外労働の継続削減

【実績】

2022 年度「回復期リハビリテーション入院料１」の算定要件の年間平均実績は、重症患者 40％以上のところ 44.6％、重症患者回復比率 30％以上のところ実績値 77.9％、在宅復帰率 70％以上のところ 83.2％と達成することができました。

回リハ病棟は、住み慣れた地域に安心して戻れるよう集中的にリハビリを行う病棟です。「回復期リハビリテーション病棟入院料１」を算定し、質の高い病棟であるよう努力しております。医師、看護師、介護士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなど専門知識を持った人たちが情報を共有しながら、リハビリテーションや退院後の生活も想定し一人一人に合わせた計画を立てサポートを行っています。

患者様がリハビリで行っている「できる ADL」を生活場面で安全に「している ADL」にするためには病棟生活での繰り返しの練習が重要です。そのためにはリハビリ科とともに SSP（Swiss　Self-determined　Program）を構築し、患者様の「できるようになりたい」思いを最優先に考え、病棟スタッフと繰り返し練習する取り組みを行っています。

今年度も教育に力を入れ活動しました。患者様の日常生活動作（ADL）の評価の中で最も信頼性と妥当性がある FIM での評価を行っています。今年度もより正確な評価をするために、院外研修で FIM 研修に参加しています。研修取得者が中心となり多職種で毎月 FIM の勉強会を開催しております。

当院併設の看護学校に対して、実習指導者を２名在籍しており今年度も看護学生の受け入れを行っています。また、介護職は今年度新たに介護福祉士１名合格し、介護福祉士が７名在籍し、入浴業務を中心に患者様に寄り添い満足度を高めることを意識し活動しております。学会では新型コロナウイルスの影響で発表の機会が少ないなか、全国に１演題、県内に１演題発表することができました。新型コロナウイルスにより今年度も「いちご会（脳卒中・退院者友の会）」が開催できなかったことが、残念に思います。

回リハ病棟は、次年度は病院機能評価（高度・専門機能）の審査が控えており、安定した実績、多職種連携、質の向上に努めてまいります。

第一部

7．部門別実績報告　博仁会

医療療養病棟科

科長　加藤 紀和子

技能実習生と技能実習指導員
近江さん フンさん リンさん 大久保さん

技能実習生の介護　背部の寝衣のしわをのばす

【目　標】

1.感染・医療安全の意識向上をはかり、安心できる療養環境の提供をする
2.患者ニーズをふまえ、その人らしいケアの提供と退院支援を行う
3.専門職として、質の高いアセスメントに基づいた治療・看護を提供できるよう学習・習得・実践する

【実　績】

療養病棟では、入院基本料1を維持するため、医療区分Ⅱ、Ⅲの割合85％の目標に対し月平均88.3％と達成、維持することができました。

医療区分にて、医療依存度が高い患者様を8割受け入れることが年間目標となります。2022年度は昨年度のクラスター発生を教訓としておりましたが、2023年1月よりコロナウイルス感染第8波が再燃し、患者罹患者35名、うち罹患し療養期間中に他界された方は3名、職員罹患者15名（看護4名、看護補助者11名）がありました。重症化率は低かったものの感染力がはやく高かったためと分析しています。収束後は最大6床の空床となりましたが、感染後の安全が確認されてから速やかに入棟計画、対応をしました。職員の罹患により、一時的に適正な人員配置ができず苦戦しましたが、看護が皆でカバーし、患者様のADLを確認しながら療養環境、治療に対応し、収束へとつなげることができました。

医療依存度が高い区分は、中心静脈栄養管理、気管切開・吸引酸素療法などの呼吸管理、褥瘡ケア、難病（ALS、パーキンソン等）の受け入れです。2021年度にspo2モニターを新規導入し、循環・呼吸状態の看護師による管理を強化しました。循環・呼吸に関連するリスクの減少、早期判断、対応する指標となり、看護の病気、症状に対する管理向上し、区分管理の見直しにつながったと分析、今年度に8台から12台へ増台し定着しています。

また、昨年度より介護技能実習生2名の受け入れをし、技能実習指導員（教育)、生活指導員を中心に病棟全体で環境設定をしながらサポートしております。2022年6月に1名、2023年2月に1名と現在4名の技能実習生（ベトナムより）を受け入れております。初回入職の2名は、初級評価試験に合格し夜勤業務も担えるようになりました。順次雇用の2名も、個人のペースはありますが、重症度が高い患者様のケアを通して、実のある研修、ケア習得に繋がっていると評価しています。慣れない日本の環境（特に寒さ）で体調を崩される時もありましたが、生活支援、教育支援のサポートのもと業務に従事しています。また、地域貢献として、北富田のイベントにも積極的に参加しています。日本語を習得しながら、目標である評価試験、講習会、研修等に参加し着実にスキルをあげ技術や知識を習得しています。

病棟職員教育では、療養病棟は係長の他、2022年4月に配属された主任を中心に、病棟内モデルとして業務体制をつくり、また教育へつなげて実践して頂きました。また、昨年度に続き2名の看護師新入職員の受け入れを行いました。教育・業務環境を柔軟に考え離職率に繋がることなく個別教育で対応しています。コロナ禍で多方面において制限がかかる中、専門職の質を伸ばすために、オンラインでの勉強や研修に繋げました。各自が、専門職としての意識を高めることができ、役割に担った行動ができました。

来年度に向け､医療療養としての役割を再認識し、新たな業務や共通認識できる業務改善に取りくみ、急性期からの治療継続、リハビリ、長期療養と幅広いニーズの方が入院される中、常に患者様の立場を考え、意思決定支援を行い、感染対策を強化し立ち向かってチームで従事していきたいと考えます。

第一部

7. 部門別実績報告　博仁会

志村地域医療連携センター

センター長　川﨑 真弓

センタースタッフ

地域医療連携実務者意見交換会・懇親会

【概要】

地域医療連携センターは 6 名体制で前方連携・後方連携・退院支援・総合相談の業務を行っています。看護師、社会福祉士、介護支援専門員が様々な相談に対応し、支援を行っております。

【業務内容】

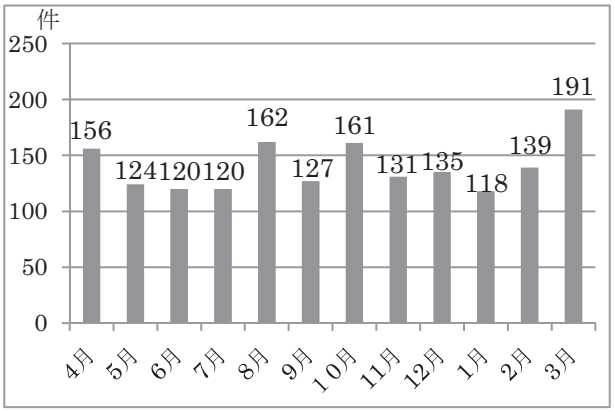
① 病院・診療所からの紹介患者の受け入れ（入院・外来）
② 他病院及び診療所からの患者紹介
③ 紹介元病院・診療所への紹介患者報告
④ 退院支援・退院調整
⑤ 地域医療連携機関、介護・福祉機関への広報活動
⑥ 紹介患者様の統計と実績報告

【活動目標】

① 法人内・法人外連携強化（協力病院となっている施設との連携強化）
② 急性期病院との連携強化
③ 効率的な病床管理

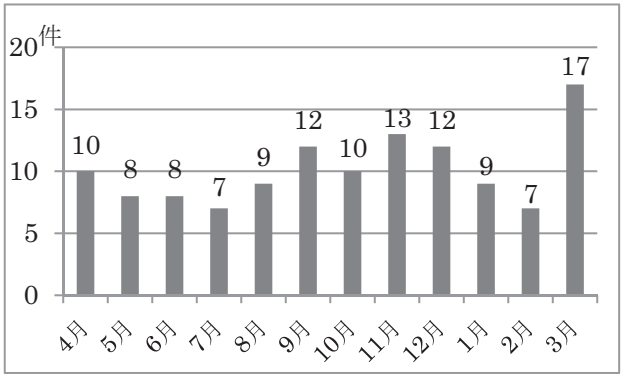
【実績】

① 2022 年度　紹介患者推移（全体）
総数　1,694 件　　月平均　140 件



紹介内訳
外来⇒ 551 件　一般病棟⇒ 133 件
回復期リハビリ病棟⇒ 326 件
緩和ケア病棟⇒ 122 件　逆紹介⇒ 562 件

緩和ケア病棟紹介患者推移
総数　122 件　月平均　10.2 件



② 第 1 回　地域医療連携実務者意見交換会・懇親会の開催
2022 年 11 月 25 日　開催
コロナ禍であり、参加人数を制限しての開催となりました。
9 病院　27 名の参加をいただいております。

内容
- 実績報告
  地域医療連携センター、回復期リハビリ病棟、緩和ケア病棟
- 法人の取り組みについて
  呼吸器センターのご案内
  ケアタウンひたちなかのご案内
- 各急性期病院からのご意見
- グループワーク「医療介護連携の問題点・解決策」

病院と病院、病院と施設、病院と在宅、様々な連携においては情報の共有が重要であり、職種によっても考え方に相違があるため他職種との勉強会や交流会に参加し、顔の見える連携を続けていくことが必要と感じました。

【まとめ】

法人内連携につきましては、毎朝のZOOMによる情報会議において、各病棟、各施設の受け入れ状況を把握することができ、その場での情報共有、相談を行う事ができています。退院支援においては施設を希望される方もおられるため、患者様・ご家族様が安心し、納得できる移動調整ができるようになりました。

急性期病院との連携においては、病状の把握が重要であり、常に連絡をとりあい、早期の受け入れができるよう心がけております。

今後も患者様、ご家族様との相談業務を充実させ安心して地域で暮らせるように支援していきます。また、病院・施設から信頼される連携センターとなるためスタッフ一同努力してまいります。

第一部

7．部門別実績報告　博仁会

リハビリテーション事業部

部長　寺門 貴

【1．活動内容】

① 組織横断的なリハ専門職の有効活用

昨年度に引き続き、病院リハビリ科の目標達成に対する兼務体制を継続し、サイボウズ上で兼務体制に関する情報共有を行った。また、リハビリ事業部運営Mで状況確認を行い全体の最適化を図った。

② 在宅リハビリテーションにおける資源の理解を深める

重点グループは、老健G、訪問リハビリG、サテライトGであり、介護保険サービスにおける全てのサービスを理解するための教育体制を再考した。また、障害福祉分野でのリハ専門職の活躍の場が広がったことにより、障害福祉サービスにおける全てのサービスの理解も必要になるため、障害者総合支援法の理解やサービス事業の特徴、適応等の理解についても次年度以降の活動計画に活かしていきたい。

③ 茨城県地域リハビリテーション強化対策事業関連

⑴地域リハビリテーション研修支援センター

1）病気別等見学研修：問い合わせはあったがコロナ禍のため受け入れなし

2）研修支援センターの事業内容について打合せ：県福祉部長寿福祉課、県地域リハ支援センター、県リハ専門職協会、筑波記念病院、志村大宮病院。

⑵広域支援センター・地域リハステーション

1）茨城県県北西部地域リハビリ連絡協議会の開催
2022年12月5日オンライン開催

2）広域支援センター・地域リハステーション間の意見交換会
2022年10月6日オンライン開催

3）茨城県央・県北脳卒中地域連携パス研究会
2022年7月15日第42回定例会
2022年11月11日第43回定例会
2023年3月15日第44回定例会

4）災害リハビリに関する勉強会
時期：2022年11月14日
内容：災害リハビリテーションと地域リハビリテーション
講師：栗原 正紀氏（日本災害リハビリテーション支援協議会代表）
参加者数：40名

5）地域リハビリテーションの普及啓発に係る広報媒体の作製

6）常陸大宮市一般介護予防教室(あつまーれー教室)
担当部署：リハビリテーション事業部、CCS部、栄養科、歯科衛生士
開催地区：9地区　参加者数　140名（男性50名　女性90名）

7）常陸大宮市前期高齢者向け運動教室（元気アップ教室）
担当部署：リハビリテーション事業部、CCS部
開催数：10回　参加者数22名（男性3名　女性19名）

8）認知症予防教室（スマイル教室）
担当部署：リハビリテーション事業部、(協力）南部地域包括支援センター
開催地区：3地区　開催数：6回×3地区
参加者数：1クール－延べ45名
2クール－延べ57名
3クール－延べ47名

9）常陸大宮市認知症初期集中支援チームへ派遣

10）常陸大宮市こどもセンター開設準備および派遣

11）那珂市発達相談センターへ派遣
延べ派遣回数：15回

12）大子特別支援学校へ派遣
延べ派遣回数：2回

第一部

7．部門別実績報告　博仁会

病院リハビリテーション科

科長　川﨑 仁史

【方針】

①地域におけるリハビリテーション関連職種の育成に貢献できる教育支援体制の整備に努める
②対象者へのリハビリテーション提供機会の損失がないよう、安全管理と感染予防に努める
③病期間のシームレスな移行を図り、リハビリテーション全体としてのアウトカムの向上に努める

【事業内容】

1）リハビリテーションの提供について

疾患別リハビリテーションの提供実績は、出来高算定とはならない地域包括ケア病棟および緩和ケア病棟での提供を含めると年間で 259,515 単位であった。出来高算定可能であった個別リハビリテーションにおける疾患別の内訳は表 1 の通りであった。個別リハビリテーションにおける PT/OT/ST 別の内訳は表 2 の通りであった。

理学療法及び作業療法においては、昨年度に引き続いて摂食機能療法を実施する体制を継続した。また、上肢用ロボット型運動訓練装置（ReoGo-J）、機能的電気刺激装置（ウォークエイド）、ロボットスーツ HAL といった機器を積極的に取り入れたリハビリテーションを実施した。言語聴覚療法においては、院内の食支援チーム（Eating-Support-Team；EST）へ積極的に関与しつつ、摂食嚥下障害看護認定看護師とのタスクシェアリングにより体制整備を行った。

2）業務内容について

全病棟に共通する事項として、診療報酬改定に対応すべく、標準算定日数上限を超過した患者の FIM 測定が実施できる体制を構築した。また、医療療養病棟においては、中心静脈栄養患者の嚥下機能評価に向けた体制作りを行い、必要な患者を選定する体制を構築できた。

2022 年度は、新型コロナウイルス（以下、COVID-19）感染拡大防止策を取りつつ、リハビリテーションが早期に開始できるよう、個人防護具の取り扱いについて職員全体に再教育を行い、COVID-19 陽性患者に対してもリハビリテーションを提供できる体制を構築した。

回復期リハビリテーション病棟においては、昨年度まで行っていた「トイレ動作能力」に着目したADL改善に向けた取り組みに加え、「更衣動作」にも着目することにより、リハビリテーション実績指数年間平均 48 という結果を残せた。

3）人材育成について

①認定資格等取得者

臨床実習指導者資格取得　5 名
（PT：3 名，OT：2 名）

②学術活動

第 4 回日本在宅医療連合学会大会　1 演題発表
リハビリテーション・ケア合同研究大会苫小牧 2022　1 演題発表
第 10 回慢性期リハビリテーション学会　1 演題発表
回復期リハビリテーション病棟協会第 41 回研究大会 in 岡山
ひたちなか・常陸太田医療圏新人症例発表会　3 演題発表
茨城県理学療法士学会　1 演題発表
茨城県作業療法士学会　3 演題発表
研究論文投稿　1 本

【次年度に向けて】

2023 年度は病院機能評価の更新年となる。特に回復期リハビリテーション病棟では、前回までの審査名称である『付加機能』が改められ、審査項目が追加となった『高度・専門機能』としての受審となるため、回復期リハビリテーション病棟に関わる部門と協力して、審査に向けた準備を進めていく。

また、COVID-19 が 5 類感染症へと移行されることに伴い、感染拡大防止策の見直しが求められる。しかし、5 類に移行しても COVID-19 が感染力の強い感染症であることには変わりがないため、状況を踏まえつつ最善策を検討し、リハビリテーションサービスの質の担保を図っていく必要がある。

最後に、近年課題となっていた「言語聴覚療法部門における職員不足」への対応策が実を結び、新卒者 3 名が入職することとなった。リハビリテーション事業部全体では 16 名の新卒者を迎える予定となっており、新人教育が重要な年になると考える。次年度は診療報酬改定がない年であるため、すべての業務の基盤となる「教育体制」の整備と、働き方改革に対応するための「業務効率化」の具体化を実現していく必要がある。

【表 1】疾患別の個別リハ提供単位数（出来高算定分）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
脳血管疾患等リハ	12,440	13,124	12,079	11,500	10,296	10,055	9,533	9,521	13,463	13,195	11,595	11,957	138,758
廃用症候群リハ	1,261	2,160	2,052	2,208	2,875	3,196	3,831	2,352	2,178	2,259	2,500	2,249	29,121
運動器リハ	4,313	3,951	4,584	4,888	4,527	4,484	5,507	4,304	3,988	2,575	3,167	4,859	51,147
呼吸器リハ	824	1,239	853	1,253	775	835	724	390	502	485	793	973	9,646
がんリハ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	18,838	20,474	19,568	19,849	18,473	18,570	19,595	16,567	20,131	18,514	18,055	20,038	228,672

【表 2】PT/OT/ST 別の提供単位数（出来高算定分）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
PT	11,815	12,837	12,005	12,250	11,500	11,271	11,679	10,262	11,831	10,629	10,289	11,424	137,792
OT	6,867	7,742	7,345	7,677	6,914	7,186	7,567	6,131	7,724	7,160	7,131	7,823	87,267
ST	1,127	1,235	1,166	1,112	955	1,121	1,433	1,195	1,571	1,575	1,566	1,752	15,808
計	19,809	21,814	20,516	21,039	19,369	19,578	20,679	17,588	21,126	19,364	18,986	20,999	240,867

第一部

7. 部門別実績報告　博仁会

機能訓練センター フリューゲル

管理者　寺門 貴

【1.　部門方針】

①安定的な事業継続を可能にするために黒字を維持する

②社会リハビリテーションの普及啓発とニーズの発掘

③サービスの質向上のために自己研鑽に努める

【2.　事業内容】

2022 年度の収支について、年間収入は 25,520 千円となり収益も 1,555 千円と開設後初めての黒字化を達成した。年間を通して広報・営業を強化したことにより、年間での登録者は一月平均 23 名、年間延べ利用者数は 2,380 名、利用者数も一月平均 198.3 名、一日平均 8.6 名と年間を通して平均的に利用していただいた。

年間の新規契約は 17 件で満期修了者は 13 名であった。また、一般就労へ 1 名移行した。1 日あたりの平均利用者数 13 名以上という目標を明確に掲げたことにより、翌月あるいは翌々月に何名の契約が必要か計画的な契約を意識することで、より広報・営業活動の強化につながったと考えられる。利用者層は脳内出血、脳梗塞の利用者が多い傾向にある。紹介元は障害者相談支援事業所から相談されるケースが多かったが、今年度の特徴として回復期リハビリ病棟退院後の移行者が例年より多く見られた。当事業所の認知が医療機関にも浸透してきたと考えられる。また、居宅介護支援事業所からの相談も多く、中途障害者が介護保険サービスだけでなく障害福祉サービスを活用しながら自立した生活を目指したり、就労移行を希望するケースが増えている印象がある。

利用者の年齢層は 50 歳代が一番多く、その次に 40 歳代、30 歳代と続く。活動量が増えてきたことからリスクマネジメントをより強化する必要性がでてきた。利用者が安全に訓練に集中できる環境も重要であり、今年度のインシデント・アクシデント件数は、レベル 0：0 件、レベル 1：7 件、レベル 2：4 件、レベル 3a：2 件であった。インシデントから重大事故を防止するためにレベル 0 が多く報告できる体制を構築していきたいが、レベル 1 が例年より多く報告された。年間 2 回 KYT（危険予測トレーニング）を実施していることもあり、職員の危険予測に対する気づきが強化されたと考える。

新型コロナ感染拡大防止として、感染症 BCP の更新を行った。事業所内で陽性者が発生したこともあったが対策を講じておりクラスターにはならなかった。事業所内で感染対策を強化しており、定期的な手洗いチェックや朝・日中の検温、十分な換気など、各自意識を高く持って生活を送っていただけたことが功を奏したと考える。

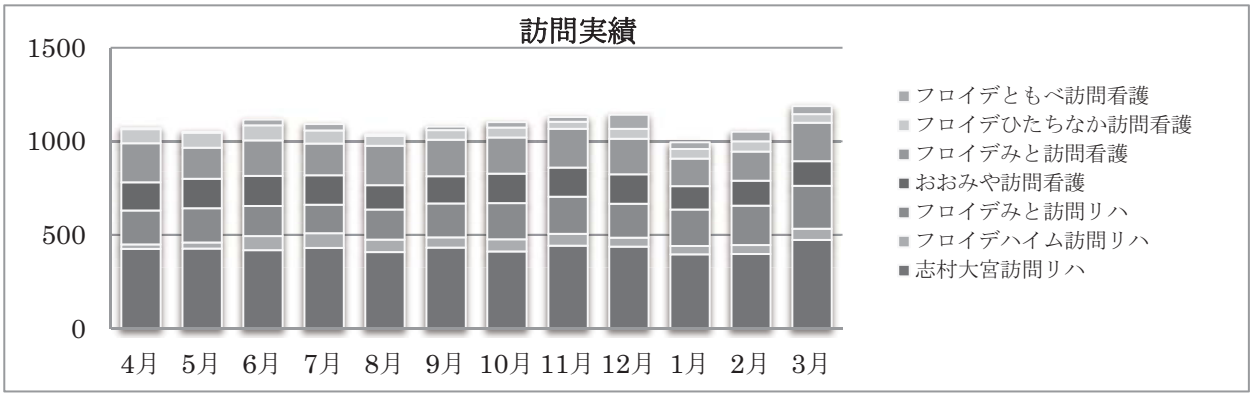
最後に環境美化コンクールで優秀賞を得ることができた。癒しの空間づくりとして緑と光のあるトイレをテーマに環境美化に取り組んだ。

第一部

7．部門別実績報告　博仁会

リハビリテーション事業部　訪問リハビリグループ

係長　佐野 桂太郎



【概要・特徴】

訪問リハビリテーション部門は、住み慣れた地域で安心して、その人らしい生活を営むため、ご利用者様・ご家族様の想いにより添いリハビリテーションを提供している。また、主に志村大宮病院を拠点とした県北地区と、水戸メディカルプラザを拠点とした県央地区、新たに次年度はひたちなかメディカルプラザを拠点とし事業拡大を図りながら、それぞれの地域へサービスを提供し、病院退院から切れ目のないリハビリテーションの実施を目指している。

【部門方針】

①「リハビリテーションマネジメント」を主体に地域の医師との連携にも重点を置き、多職種連携の充実を図る。

②大宮フロイデハイム訪問リハセンター含め県北地区の訪問リハ体制を再構築し、訪問リハ提供数の増加を図る。
ひたちなか新規事業開始時の利用者確保のため早期より訪問範囲の移行、拡充を図る。

③生活リハ科の教育体制を充実させ人材育成に努める。

【事業内容】

1）訪問リハビリテーション提供件数について

2022 年度の訪問リハ提供件数は、訪問看護からのリハビリテーション提供を含め、年間 13,057 件であった。2021 年度 12,386 件に対し、前年度比率 105% と前年度実績を上回ることができた。

大宮地区では、新たに大宮フロイデハイム訪問リハビリテーションセンターを開設し、大宮デケアセンター併用者、また大宮フロイデハイム退所者へ訪問リハサービスを提供することにより、施設リハと訪問リハを一元化する体制を構築した。水戸地区では、訪問リハ専従スタッフ 3 名に加え、デイケアスタッフによる訪問リハ提供を継続して実施し、訪問リハ提供数の増加がみられている。また、次年度ひたちなか訪問リハ開設に向け、ルートの効率化、ひたちなか地区の利用者確保を実施した。

2）リハビリテーションマネジメント加算 B2 算定について

リハビリテーションマネジメント加算 B2 は「リハビリテーションマネジメント」を主体とした多職種連携の充実させるため、①訪問リハ事業所が主体とした「リハビリテーション会議」の実施。②ご利用者様に対し訪問リハ事業所医師によるリハ計画の説明。③ LIFE へのデータ提出が必要となる。

2022 年算定実績として、大宮地区では大仲先生・月村先生を事業所医とし、外来ご担当の先生方のご協力もあり、年間平均 84 名算定となっている。水戸地区では山本先生をはじめ、ご担当いただいている先生の往診スケジュールを調整しながら、年間平均 27 名算定している。

水戸地区においては、次年度ひたちなか訪問リハ開設に向け利用者様を確保している。ひたちなか地区へは往診対象地域外とし、②の要件となる『事業所医師によるリハ計画の説明』が行えないため、リハマネ加算 A2 算定にて訪問リハを提供している。ひたちなか訪問リハ開設時には、速やかに利用者様のサービス移行とリハマネ加算 B 算定の体制構築を図っていきたい。

第一部

7．部門別実績報告　博仁会

画像検査科

係長　浅見 公一

県立勝田高校　早期キャリア講座

講座資料

【概要】

志村大宮病院画像検査科は 2022 年度中に増員し、診療放射線技師 6 名、放射線助手 1 名、臨床検査技師 6 名（3 月末現在）で構成されています。

画像検査科は診療放射線技師が業務を担う「画像検査センター」と臨床検査技師の業務分野の「臨床検査室」にわかれそれぞれの分野を担当しています。

画像検査センターでは、一般撮影（ﾚﾝﾄｹﾞﾝ）、CT 検査、MRI 検査、X 線透視検査が施行され、臨床検査室では、心電図、超音波検査、肺機能検査、骨密度検査、聴力検査、ABI 等の多岐にわたる検査が施行されています。

【実績】

・画像検査センター
　一般撮影：10,838 件（前年度比　103.6%）
　CT 検査：2,063 件（前年度比　107.1%）
　MRI 検査：972 件（前年度比　106.8%）
　MDL（胃ﾊﾞﾘｳﾑ）：893 件（前年度比　151.1%）
・臨床検査室
　心電図：5,857 件（前年度比　108.2%）
　聴力検査：3,070 件（前年度比　113.2%）
　超音波検査：189 件（前年度比　142.1%）
　骨密度検査：276 件（前年度比　103.8%）

【トピックス】

○医療法一部改正による「タスクシフト・シェア厚生局告示研修」

医師のタスクシフト・シェアを推進することから、診療放射線技師、臨床検査技師の業務を拡大するための法改正が行われました。これにより、診療放射線技師、臨床検査技師の国家資格を有する者は、厚生労働大臣が指定する研修（告示研修）を受けることが義務付けられ、この研修は日本診療放射線技師会、日本臨床検査技師会が実施しています。告示研修は、基礎研修（e-learning 形式）と実技研修（会場型）からなります。

当院でも研修に計画的に参加することを進め、2022 年度中に診療放射線技師 2 名、臨床検査技師 1 名、修了しています。今後も修了者を増やし、当院でのタスクシフト・シェアの取り組みを検討していきます。

○超音波検査・腹部エコーの取り組み

タスクシフト・シェアの取り組みとして 2022 年度は新たに臨床検査技師、診療放射線技師による腹部エコーの実施の取り組みをしました。ハンズオン形式の研修に参加し、院内の各部署の皆様に被検者として協力いただき、9 月から医師の代わりに取り組みを開始できました。感謝申し上げます。

医師の代わりに超音波検査を行うことにより、医師の内視鏡実施件数向上に寄与し企業健診や人間ドックの健康診断業務の実績向上を目指していきます。2022 年度 9 月よりの腹部エコー検査実績は 40 件となっており、今後は走査技術とともに効率性を重視し実績を向上させます。

○地元定着支援強化事業「学生対象早期キャリア講座」

若者の県外流出が課題となっている本県において、地元企業を知らないことによる県外流出を防ぐことと、児童・生徒の地元での就職・定着を目的とする取り組みとして、地元の魅力ある企業として博仁会に講師依頼がありました。その中で 2022 年度は県立勝田高校より診療放射線技師の講師依頼と、那珂市立瓜連小中一貫教育での臨床検査技師への講師依頼があり対応させていただきました。

【展望】

2022年度はCOVID-19第7波､第8波が押し寄せ、画像検査の業務に大きな影響を与えました。本格的に「メディカルチェック」の評価項目である陽性者の胸部XP、胸部CTの実施を一般患者と時間的分離して行わなければならず、外来診療にも影響せざるを得ない状況が続きました。関係部署の皆様には密に連携していただき多大なるご協力に感謝しております。今後はCOVID-19への対応は新たな局面となりますが2022年度の経験を活かし、より一層、関係部署との連携を強化し対応していきたいと思います。

また2022年度下半期では、ひたちなか市に新たに「みんなの内科外科クリニック」のオープンに向け、診療方針に合わせた検査体制、機器の選定や運用方法について職種を超えて度重なる協議を繰り返しました。法人のさらなる発展に今後も画像検査科一同、尽力する所存です。

第一部

7．部門別実績報告　博仁会

志村大宮病院認知症疾患医療センター

係長　大和 雄太

市内サロンでの講話　軽度認知障害について

ブレインクラブ紹介動画

認知症予防動画①

認知症予防動画②

【概要】

本部門は、2017 年度に茨城県より認知症疾患医療センターの指定を受け開設された、認知症医療・支援に関する専門部門です。常陸太田・ひたちなか医療圏における認知症診療の拠点の１つとしての役割を果たすとともに、地域における認知症啓発や認知症予防に関する取組みを行っています。

【業務内容】

- 専門医療相談
- 鑑別診断・治療
- 行動・心理症状（BPSD）・身体合併症への対応
- 研修会の開催・情報発信

【2022 年度部門方針】

①『認知症診療体制・支援体制の見直し』
②『認知症初期集中支援活動の推進』
③『MCI 支援事業の推進』

【2022 年度実績】

年間受診相談件数　1,893 件
年間新規受診患者数　193 名

【本年度の主な取り組み】

・常陸大宮市認知症初期集中支援チームの運営方針の見直し

当部門は、2018 年度より常陸大宮市からの委託を受け、常陸大宮市認知症初期集中支援チームの運営及び､活動を行ってきました。本チームは、当院を含めた複数機関の職員で構成された多職種チームであり、市内の認知症が疑われる方や、何らかの理由で医療機関受診や介護サービスの導入、利用継続が困難となっている認知症の方を支援対象としています。

今年度は、これまでの活動結果をもとに運営方針を見直し、より地域のニーズに沿った運営を目指しました。

これまでの活動において相談者から最も多く挙がった要望は、チームへの依頼後、早期にチーム員に介入して欲しいというものでした。このニーズに応えるため、今回の見直しを通して支援依頼受付からチーム員を派遣するまでをスムーズに行う体制を構築しました。

それ以外としては、当チームが多職種から構成されていることを活かし、チーム員会議を多職種カンファレンスの場とする活動も開始しました。地域の支援者からの依頼に柔軟かつ即時的に対応できるよう、チーム員全員が参加する定例のチーム員会議の他、参加職員や職種を限定し、すぐに集まることができる臨時チーム員会議を積極的に開催することとしました。これにより、地域へ医療・介護の多職種によるケース検討の機会を必要に応じて提供できるようになりました。

・軽度認知障害（MCI）に関する地域への啓発

取り組みの１つとして、MCI という概念について地域への講話活動を行いました。市内のサロンや認知症カフェで講演を依頼された際、MCI についての説明を行い、年相応の物忘れとして見逃されやすいこと、MCI の状態の時点で生活習慣の見直しや場合によっては受診検討の必要性もあることを伝えました。

取り組みの２つ目は、脳活性化教室フロイデブレインクラブの地域への広報です。当クラブは MCI の方の認知機能改善・維持を目的として、2021 年度より開始した事業です。今年度は当クラブの紹介動画１本、当クラブのプログラムを担当するスタッフが監修した認知症予防動画を２本作成し、Youtube にて配信しました。この取り組みは、当クラブの紹介を通して地域の方に MCI について知っていただく目的や、自宅やサロンでの認知症予防活動を促進することも目的として行いました。

【次年度の活動方針】

引き続き質の高い認知症医療や支援の提供を目指します。また、認知症に関する様々な支援者や、市内で行われている認知症関連事業との連携を強固なものにするために、認知症疾患医療センターとして何が必要かを考え、活動に反映させていきます。

第一部

7．部門別実績報告　博仁会

老健入所科

科長　鈴木 三智子

【部門方針】

① 地域包括ケアシステムの構築
② 感染症や災害への対応力強化のための職員教育
③ リハビリテーションマネジメントを充実させ、在宅支援・在宅復帰につなげていく。

【特徴・主な業務内容】

大宮フロイデハイムは超強化型の老人保健施設です。多職種で協働し、ご利用者様が住み慣れた地域で暮らしていくための支援をさせていただいております。

2022年度はコロナウイルス感染症に大きく影響を受けた1年となりました。8月には2階入所者39名中30名が、職員も13名が陽性となりクラスターが発生してしまいました。解除までに3週間と長い時間を要し大変な思いをしました。二度とあのような思いを繰り返さないために日々、感染予防を徹底しておこなっております。

着用したガウンを確認

感染対策のため距離を確保

【トピックス】

・第33回全国介護老人保健施設大会

9月22・23日に兵庫県で開催された全国老健大会に於いて「ICT（センサーマット）導入から3カ月経過して」の演題を発表しました。全ベッド導入している施設は少なく、たくさんの質問がありました。これからも有効に活用していきたいと思います。

・外国人技能実習生

モンゴルから来ていた2人の実習生は家庭の事情で2022年9月には帰国してしまいましたが、2023年2月から新たにベトナムから技能実習生が入職となり、現在は3名のベトナムからの技能実習生が日々真剣に学んでいます。

ガーさん

クオンさん

・環境美化コンクール

法人内で開催している環境美化コンクールで「癒しとくつろぎの談話室～フロイデカフェ～」をテーマに談話室の環境整備を行なったところ、最優秀賞をいただきました。コロナ禍で限られた面会時間の中、カフェ店で面会しているかのような空間つくりをしました。

カフェをイメージした面会スペース

【実績】

平均在所人数	月平均	78.1名
在宅復帰・在宅療養支援等指標	月平均	82.5点
短期集中リハビリ実施加算	月平均	454件
認知症短期集中リハビリ実施加算	月平均	59件
ショートステイ個別リハビリ実施加算	月平均	140件

第一部

7．部門別実績報告　博仁会
おおみやホームヘルパーステーション

係長　皆川 あゆみ

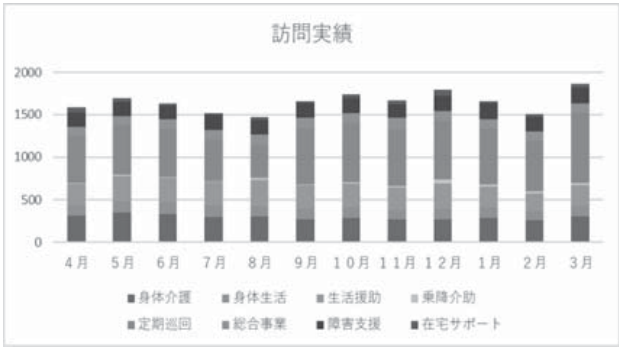
【概要】

利用者が要介護・要支援状態となった場合でも、可能な限り居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、入浴、排泄、食事、その他の日常生活上の介護を行うとともに緊急時対応等により安心した生活ができるように日中•夜間を通じて援助を行う。事業の実施に当たっては、市町村、地域の保健・医療・福祉サービス、地域包括支援センター等との綿密な連携を図り、総合的なサービスの提供に努める。

2022 年度は、一人暮らしの認知症高齢者や悪性腫瘍などの疾患を抱える高齢者の利用が 目立った。その中で、地域住民や医療専門職を含む多職種でのチーム支援を意識し、少しでも生活面での不安が軽減できることを目指してサービスを提供した。 多職種でのチーム支援は年々その重要性を増しており、部門内においてもホームヘルパーに必要なアセスメントについて学んでいる。ホームヘルパーを含む介護職員は、利用者と濃密かつ長期にわたる関わりがあるため、利用者の生活のちょっとした変化を敏感に察知できることを再確認している。ほんの少しの変化でも必要に応じてケアマネジャーへ報告し、多職種でのチーム支援へとつなげることができた。しかしながら、毎日の身体介護が必要な利用者の援助は長く続くことが少なくなってきている。病状の悪化による入院、死亡。認知症状が進み一人暮らしが 継続できなくなり、施設入所や、長期のショートステイ利用への切り替えとなった。

2022 年度の訪問件数は一月当たり 1,650 件（定期巡回含む）前後で推移し、昨年度より上回ることはできたが、年間目標には届かなかった。新規の依頼における援助内容で多かったのは、通院乗降介助であった。 通院乗降介助を手始めに必要に応じて身体介護や生活援助につなげていくことを考えた。しかし、想定したほど身体介護や生活援助の依頼にはつながらなかった。通院乗降サービスの年間延べ件数は、2 倍に増加している。依然として病院への交通手段に困っている高齢者は多く、院内の付き添い（在宅サポート）の依頼は増加している。低額な負担で利用できるこの事業は今後も継続していきたいと考えている。最後に、訪問介護は在宅介護の最前線に位置する重要なサービスであり、様々な生活スタイルで暮らす地域の高齢者に寄り添いながら、その人らしい生活を支えていくことに誇りを持ち業務に取り組んでいきたい。

（援助別実績）



【目標】

1、 多職種連携によるチームケアの構築

・「高齢者の健康と QOL の向上、介護者の介護負担の軽減に寄与できることだけでなく、チームのメンバーと知識と技能の分かち合いを促進し、高齢者ケアに関わるメンバーの仕事を、より豊かで興味深いものにする、またそのことが継続的な効果を生み出していく

2、多様なニーズに対応できる事業体制の継続

・各種研修会や法人勉強会に積極的に参加し業務に対する知識、技能の向上に努めていく。

3、職員の質の向上による利用者の獲得と統一されたサービスの提供

・部門内勉強会を充実させ､職員全体のレベルアップを図る。

第一部

7．部門別実績報告　博仁会

おおみや訪問看護ステーション

管理者　舟木 悦子

北冨田地区での活動

健康相談会

【概要】

訪問看護は、何らかの疾病をかかえながらも、住み慣れた地域・自宅で自分らしく暮らしていきたい…という、ご利用者様・ご家族様の想いに少しでも寄り添えるようなサービスを提供しています。

ご利用者様は医療依存度の高い方が増加しています。自宅で生活されているご利用者様・ご家族様に安心して在宅での療養生活を続けて頂ける様、24時間365日連絡のとれる体制・他職種との協働・連携をとりながらフットワークの良いステーションをモットーに業務に取り組みました。地域包括ケアセンターによるワンストップサービスの強みをいかす事で新規獲得にも繋がっています。

【目標】

① ご利用者様、ご家族様が自宅で安心して療養生活が出来るよう質の高いサービスの提供。
② 訪問件数増での収益の確保。
③ 法人内・各医機関・関係事業所との連携強化

【実績】

訪問実績は4,474件で、年間目標の5,391件を達成することができず82.9%となりました。

指示書を頂いている医療機関は30か所以上あり、母体病院はもとより、さまざまな病院、クリニックより紹介を受ける事が出来ました。依頼を断らないという事も訪問件数増に繋がったと考えます。

ご自宅での看取りを希望されるご利用者様、ご家族様への支援の結果、在宅で多数の方の看取りをさせて頂きました。ご家族様の満足度の高いケアを提供出来ていると考えます。又、紹介して頂いた病院へご利用者様の経過を報告し、連携室の方との関係作りとなっています。

当ステーションは、精神疾患を有する利用者が現在5名以上おり、年々増加傾向にあります。精神科訪問看護基本療養費算定要件の研修へ参加し精神科訪問看護の質の高いケアの提供を目指します。

高齢化が進んでいる、北富田地区へコミュニティーナースとして健康相談会の実施、イベントを開催し訪問看護を知って頂く機会をもちました。

来年度も、積極的に看護学生や看護協会主催の潜在看護師の研修受け入れを行い、訪問看護の魅力を知って頂き、訪問看護スタッフの増加に繋げたいと考えます。今後更に訪問看護に対する期待は大きい為、スタッフの更なるスキルアップを目指し、質の高いケアの提供が出来るよう努力致します。

第一部

7．部門別実績報告　博仁会

フロイデひたちなか訪問看護ステーション

井上 美紀

【概要・特長】

「病気や障がいがあっても住み慣れた家で暮らしたい」
「人生の最期を自宅で迎えたい」
「点滴や吸引等医療的ケアが必要だけで家に退院したい」

コロナ禍の入院による面会制限が続く中、このような思いを抱く方が増加しております。

私たち訪問看護ステーションは、医師の指示書のもと関係職種と協力し、住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らしていただくために365日24時間支援を行っております。

【業務内容】

かかりつけ医が看護サービスを必要と判断した在宅のご利用者を対象に医療保険、介護保険等を用い主に下記のサービスを行います。

病状の観察
食事、排泄、清潔などの日常生活援助
輸液、麻薬管理などの医療的処置、管理
リハビリテーション
介護職への指導、相談、健康管理
かかりつけ医への報告、指示受け
他サービス事業者との連携
病状の急性増悪時の対応
終末期の看護（ターミナルケア）

【実績】

訪問件数	年　間 2384 件
	月平均　199 件
看取り件数（ターミナルケア）	年　間　6 件
緊急訪問	年　間　45 件

【トピックス】

2022年度、当ステーションではスタッフの急な退職が続き、人事異動もあり昨年度ほどの実績を上げることができませんでした。少人数のスタッフ一人ひとりが担当のご利用者とそのご家族にしっかりと向き合い看護の提供に努めました。その結果、在宅での看取りを6件と昨年度の8件と大差なく実施し、ご家族の安心と満足に寄り添えたことは評価に値すると考えます。

2023年4月にはフロイデひたちなかメディカルプラザがオープンします。看護小規模多機能ホーム、住宅型有料老人ホームは医療依存度の高い方を中心とした受け入れを想定しております。新しいスタッフを迎え入れ、ステーションの規模は拡大します。

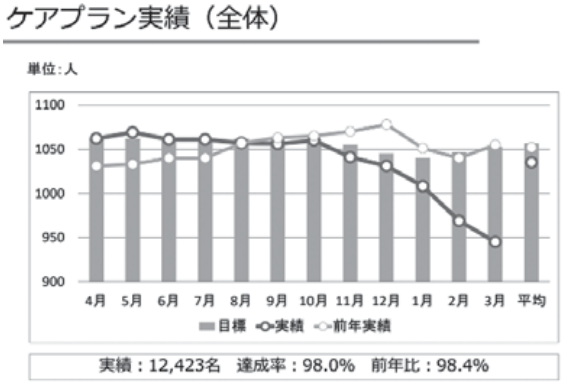
専門性の高いケア、ご利用者とご家族への質の高い心身のケアを確実に実施できるよう、また他職種との密な連携と相互理解が進むようステーション全体で研鑽を積んでまいります。

第一部

7．部門別実績報告　博仁会

志村フロイデ地域包括ケアセンター

センター長　木戸田 真



ケアプランセンターは、①ご利用者の状態に応じたサービスの提供② ICT 活用による利用者情報の共有とケアの実践③障害者福祉サービスの拡大の 3 つを部門方針として取り組んでまいりました。

① ご利用者の状態に応じたサービスの提供
法人内サービスの連携を強化し、病院、在宅、施設、サ高住等、状態に合わせた柔軟なサービスが提供できる体制づくり
SFG 情報共有会議の運営

② ICT 活用による利用者情報の共有とケアの実践
タブレット導入による在宅サービス間の連携強化
医療⇔介護の情報連携体制の整備

③ 障害者福祉サービスの拡大

ケアプラン作成件数は、おおみや総合ケアプランセンターが月平均目標 255 件のところ、実績は 257 件、やまがた総合ケアプランセンターは目標 131 件のところ、実績は 132 件、みと総合ケアプランセンターは目標 221 件のところ実績は 226 件、ひたちなか総合ケアプランセンターは目標 173 件のところ、実績は 177 件、ごぜんやま総合ケアプランセンターは目標 275 件のところ、実績は 241 件でした。全事業所合計で 98.0%の目標達成率でした。

また、おおみや総合ケアプランセンターは「特定事業所医療介護連携加算」の算定要件である退院・退所加算の算定に係る病院等との連携の回数の合計が 35 回以上、ターミナルケアマネジメント加算を 5 回以上の算定を前年度クリアしたので、今年度「特定事業所医療介護連携加算」を初めて算定することが出来ました。

■特定事業所加算の算定・集中減算回避

おおみや総合 ケアプランセンター	加算Ⅰの算定継続、集中減算回避 医療介護連携加算の算定
やまがた総合 ケアプランセンター	加算Ⅲの算定継続、集中減算回避
みと総合 ケアプランセンター	加算Ⅱの算定変更、集中減算回避
ひたちなか総合 ケアプランセンター	加算Ⅱの算定継続、集中減算回避
ごぜんやま総合 ケアプランセンター	加算Ⅱの算定継続、集中減算回避

2024 年度には、医療保険の診療報酬、介護保険の介護報酬、障害福祉サービスの報酬の 3 つが改定されるため、「トリプル改定」の年になります。団塊の世代の全てが 75 歳以上となる 2025 年に向けて、2040 年も見据えながら、「地域包括ケアシステムの推進」、「自立支援・重度化防止の取組の推進」、「介護人材の確保・介護現場の革新」、「制度の安定性・持続可能性の確保」を図るという方向性に進んでいます。今後の最新情報を収集しながら、地域包括ケアシステムの推進に向けて医療・介護・福祉の要として期待されている職能をしっかり果たしていきたいと思います。

またケアマネジャー不足が全国的に進んでいますので、今後はケアマネジャーの雇用確保と離職対策を実施していきます。

第一部

7．部門別実績報告　博仁会

常陸大宮市南部地域包括支援センター

管理者　鈴木 俊三

常陸大宮市

【概要】

地域包括支援センターは、介護保険法に基づき、全国の市町村が実施する地域支援事業のうち包括的支援事業を実施する公的機関です。常陸大宮市では、南北2か所に設置されており、南部は旧大宮町を担当圏域とし、当法人が業務委託を受託しています。

2023年3月1日現在、市全体の人口39,254人、高齢化率38.4%、うち南部は、人口24,583人、高齢化率33.3%となっています。

昨今、水害やパンデミックなど、不測の事態を見据えた地域の団結と創意工夫が、より一層求められる時代となり、包括が果たすべき役割はますます多様化しています。専門職としての技量だけでなく、住民のニーズに寄り添う熱意と柔軟な発想力を持ち、住民主体の地域づくりに貢献できる機関を目指したいと思います。

人員配置（2023年3月31日現在）

主任介護支援専門員	1名	
看護師	1名	
社会福祉士	1名	
介護支援専門員	1名	
認知症地域支援推進員	2名	(兼務含む)
	合計6名	

【業務内容】

業務内容は、市が策定した委託仕様書に基づき、

① 介護予防ケアマネジメント
② 総合相談支援業務
③ 権利擁護業務
④ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務
⑤ 支援ネットワークの構築
⑥ 地域ケア会議の実施
⑦ 認知症施策

等があり、複合的な課題を抱えた地域の高齢者のワンストップ相談窓口として活動しています。

当法人では、医療機関、介護保険施設、在宅サービス事業所、認知症疾患医療センター、在宅介護支援センター等があり、それぞれの機関の特徴を生かした連携がはかりやすく、利用者様にとって大きな利点となっています。

【目標】

⑴ 全世代・全対象型の総合相談拠点として、地域住民や関係機関に広く認知され、積極的に活用されるとともに、必要な資源やネットワークを構築することができる。

⑵ 地域のニーズに応じた住民主体の活動・参加の拠点づくりを推進し、事業の枠組みを超えた伴走型支援を継続することができる。

⑶ 認知症の人と家族が安心して暮らせるまちづくりをめざし、認知症に関する知識の普及・啓発だけでなく、住民主体の活動・参加の仕組みを構築することができる。

【実績】

総合相談件数　444（内訳・重複あり）

介護保険：307	障害者：　6	入退院支援：　48
高齢福祉：　19	生活困難：　5	ケアマネ支援：　20
認知症：　68	独居：　59	情報入手：113
権利擁護：　20	介護力不足：　35	クレーム：　8
子育て：　0	全世代全対象：　6	その他：　50

困難事例ケース検討会議	20回
地域ケア会議	11回
ケアマネジメント支援会議	2回
虐待対応ケース会議	9回
成年後見制度ケース会議	6回
出前講座（元気アップミニ講座）	5回
第二層協議体	18回

【トピックス】

⑴　全世代・全対象型総合相談拠点として、難病・障害・生活困窮・孤立など複合的課題を抱えるケースの相談支援に取り組み、在宅医療介護連携の強化、就労・教育支援など制度の狭間を超えるネットワークの構築、地域の見守り・フードバンクなどインフォーマル資源の活用をはかりました。

⑵　一般介護予防では、市が作成したACPツール「未来ノート」の普及啓発と利用促進を目指し、一般住民向け講演会を開催。100名を越える会場参加者とオンライン参加者があり、講演後には地域のサロン活動でも利用されました。

⑶　認知症施策では、市主催の活動として、認知症の診断や治療を受けてない段階で認知機能の低下が気になるかたを対象とした、予防教室「スマイル教室」を年3クール実施。実施後のフォローアップにより、認知症専門外来や認知症予防教室「ブレインクラブ」、介護保険サービスの利用につなげました。

第一部

7. 部門別実績報告　博仁会

ひたちなか市北部地域包括支援センター

センター長　榊 卓巳

スタッフの似顔絵

フロイデひたちなかメディカルプラザの通り側に位置する入り

【概要・特徴】

ひたちなか市北部地域包括支援センターは、介護保険法に基づく地域支援事業を担い、ひたちなか市から当法人が受託しております。事業を担う中で、スマイルと似顔絵を活用しながら「地域住民がアクセスしやすく、いつも傍にいる地域の仲間」と感じていただけるよう努めております。

【事業内容】

① 介護予防ケアマネジメント
② 総合相談
③ 権利擁護
④ 包括的・継続的ケアマネジメント
⑤ 認知症総合支援事業

市役所が策定した5つの業務内容を担い、地域の相談窓口として活動をしております。主に高齢者の相談窓口となりますが、近年複雑化するケースに対応出来る様､地域の各相談窓口と連携を図りながら、課題の解決に努めております。

【重点課題・TOPICS】

○包括的・継続的ケアマネジメントの充実

地域の介護支援専門員等が相談しやすい間口の広い包括であるよう努めると共に､「点」としてケアマネ支援の充実、並びに「面」として多職種意見交換ができる環境作りを行いネットワーク構築、強化を図りました。

○認知症総合支援事業

認知症当事者を含む地域住民と協働する多くの活動がコロナ禍で停止もしくは遅延していたため、各取り組みのキーマンと連絡を取り活動再開の後方支援を行いました。また、当事者との活動や周囲の関係者(一般、各職域の方々、医療介護福祉職)と認知症とともに暮らす実情を共有し、新たな活動やアイディアの創出を図りました。

○介護予防の推進

居宅介護支援事業所や関係事業所との信頼関係の向上、連携強化の強みを土台に実態把握から得た圏域の個別ニーズに対し、介護支援専門員のケアマネジメント力向上を図る勉強会の開催やケアマネ支援を行い、地域の介護予防推進を図りました。

【実績】

- 総合相談延べ件数：1,516 件
- 介護予防ケアマネジメント件数：3,533 件
  (内、委託件数 2,649 件)
- 地域活動実践延べ回数：132 回
- 地域活動実践延べ人数：1,182 名
  (認知症地域支援推進員の活動を含む)
- 地域ケア会議(小地域ケア会議含む)：8 回

第一部

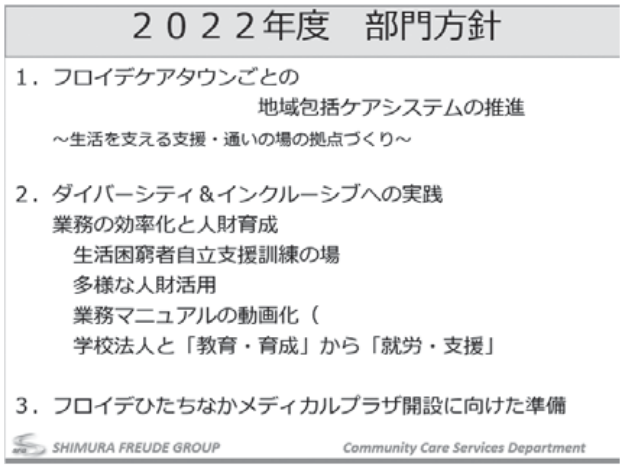
7．部門別実績報告　博仁会
コミュニティケアサービス部

部長　宮川 直彦

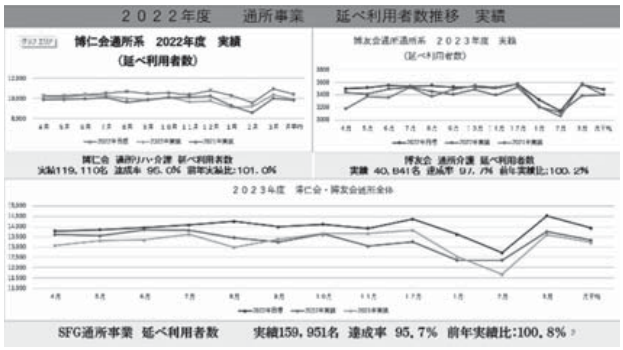
フロイデひたちなかメディカルプラザ

スタッフ集合

Ⅰ.【2022 年度　部門目標】

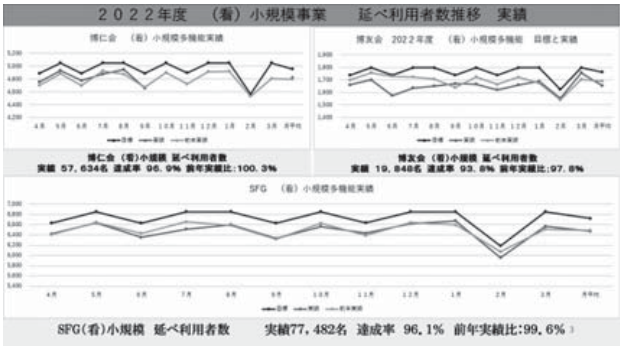


Ⅱ.【事業成果】

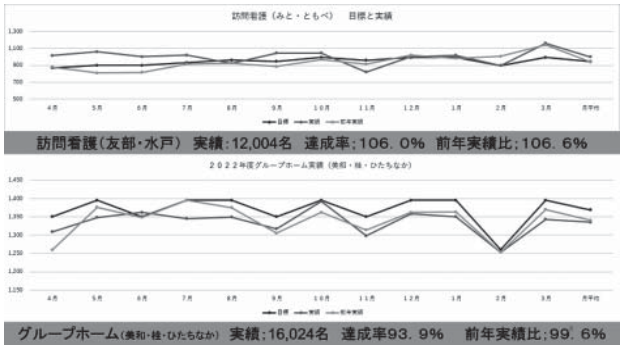


通所系サービス（通所介護・通所リハビリテーション）では、昨年に続き新型コロナウイルス感染症による、利用控えやご利用者の中で感染者が発生したことによる、大幅に利用者数が減少する事業所もありました。しかしながら、目標達成はできませんでしたが、昨年比で 101.0%の結果となりました。
昨年に続き、感染症で引きこもりになっている利用者様に対して生活支援（特に買い物支援）を充実させたサービス運営を行いました。また、フロイデ水戸メディカルプラザの就労支援では、生活支援販売カーを導入し、地域の買い物難民の地区から個人宅に販売を開始しました。就労支援で行う意味としては、地域に出ることで、地域の方に声をかけていただき、住民の暖かさを感じながら、自然とコミュニケーションをできるようになるようにと思い行っております。

翌年度は、栄養ケア・ステーションを開設予定ですので、管理栄養士や看護師、歯科衛生士等同乗し、地域のまちかど保健室を行っていきたいと考えております。



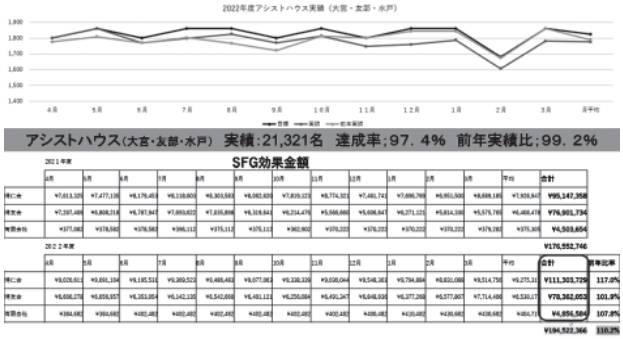
看護小規模多機能型居宅介護・小規模多機能型居宅介護ですが、グループ全体では、96.1%の達成率及び稼働率であった。前年とほぼ同じくらいの稼働であった。看多機の回転が速い中、そして新型コロナの影響により病院、老健と回転が変化している中では、維持できたと思える評価である。今後はより一層、看多機の稼働を上げることが重要である。



訪問看護部門では、コロナが発生した際に、介入したことにより、実績が伸びている。現場の看護師をはじめ、積極的に介入してくれたことで結果に結びついた。現場に入っていく、職員へ感謝です。

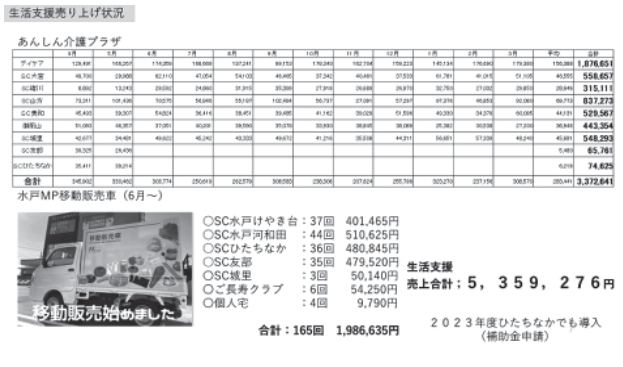
認知症対応型共同生活介護においては、前年とほぼ同じ稼働であった。GH ひたちなかでは、共用型の通所も行っている為、新型コロナウイルス感染が発生し、入居者の方へも数名感染が広がったが、入院までにはいかず訪問看護と訪問診療での対応で終結した。

その間、共用型通所介護は利用を別の場所に移す手段をせざる負えなかったが、利用者の混乱もなく、利用が継続できた。

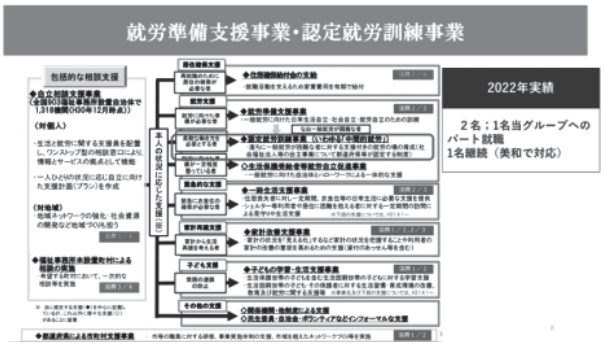


アシストハウス（住まい系サービス）は、入れ替わりにおける稼働を伸ばしていくことが課題である。それによる外部サービスへの効果金額も変化する為スムーズな受け入れ態勢の構築が必要。

Ⅲ.【主な活動】



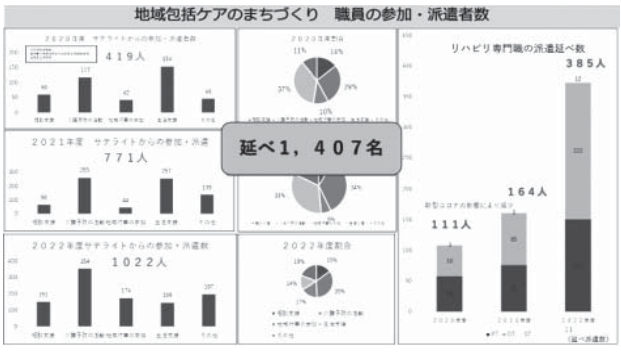
前にも述べたが、水戸メディカルプラザの就労支援に、移動販売車を導入。地域の困りごとを聴きながら、就労支援に係る利用者が笑顔になり、地域住民も笑顔になれることを目指し活動して参ります。



就労支援事業・認定就労訓練事業においては、2022 年度実績は、2 名との関りを持たせていただき結果、1 名は当グループへの就職。1 名は、継続して通所介護事業所でのトレーニングを積んでいます。

引き続き、行政と連携し、対象者がいれば対応していきたいと考えております。

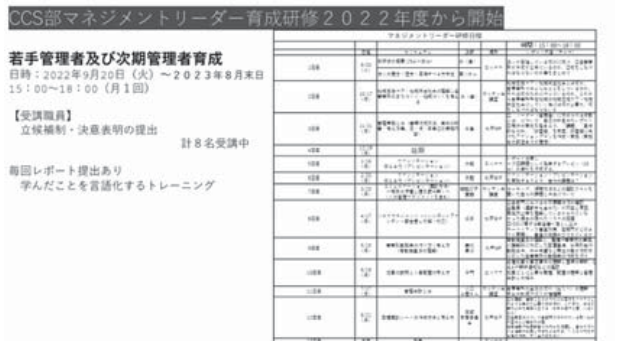
次に、コロナ禍でスタートした運動動画も 28 タイトルになり、多様な場面での活用を行っております。時にはサロンで流し、一緒にトレーニング。人によっては、自主トレーニングとして活用等様々なところで活用いただいております。2023 年度は、フィットネス会員様用にも別で作成を検討する予定でおります。



地域への職員派遣は、昨年度は、過去最大の 1,407 名と予防事業からサロン等様々な場面で専門職である職員が、地域に出て活動を行っております。

フロイデサポーターは 272 名となり、日頃からのご支援に感謝しております。

サポーターの役割は、無理せずに自分のペースで取り組んでいただくことが前提となっております。引き続き多様なサポーターを募集しております。



人材育成として、「マネジメントリーダー研修」を開始。これは、中堅職員の育成として、まずは本人が立候補し、決意表明を文章で提出をすることから始まり、また、責任者の推薦で受講ができる。毎月１回の研修を行い、１年かけて「人・モノ・金」のマネジメントの基礎を学ぶことになります。

これができた背景としては、新任管理者等の意見を聞き、また、急拡大する組織に対応できるように、「人・モノ・金」に関するマネジメント教育が急務であることから研修委員会を立ち上げ実施に至った。もちろん話を聴くだけでなく、毎回終了後には、レポートの作成をしてもらいます。学んだことを言語化するトレーニングも兼ねております。最終 12 回目は、年間のとりまとめ発表会を予定し、自己の学びの総体と今後の抱負等パワーポイントで発表してもらいます。職員の成長を楽しみにしております。

Ⅳ.【終わりに】

新型コロナも、５類へと制度が変更されていく中で、2024 年は医療・介護・福祉のトリプル改定です。今期は、３年間の猶予期間がついていた BCP 等の整備を進め、次期改定に向けては、LIFE のデータ活用をしながらリハビリ・栄養・口腔の視点を入れ、多職種協働での関わりをさらに強化し、質的にも上げていくことが望まれるため、強化していきたい。また、制度改定に注視していきたいと思います。

最後に、2023 年４月より、フロイデ総合在宅サポートセンターひたちなかが拡大します。隣接に有床診療所、看護小規模多機能、住宅型有料等医療サービスが加わりケアタウンひたちなかとしてサービスを拡大いたします。地域に積極的に利用いただけるよう職員一同努めて参りますので、末永いお付き合いのほど、よろしくお願いいたします。また、第３期工事としまして、さらに奥側にはなりますが、サービス事業を拡大して参りますので、引き続き各機関の皆様には、ご支援ご協力を賜りますよう、我々も質と量を上げながら行って参りますのでよろしくお願いいたします。

第一部

7．部門別実績報告　博仁会

在宅介護支援センターおおみや

小野瀬 美幸

フラワーアレンジメント

健康運動実践指導者による体操

介護保険についてのミニ講座

まちなかサロン輪投げ大会

【概要】

在宅介護支援センターは、常陸大宮市の長寿福祉課と生活環境課からの業務委託を受託しており、担当地域は（若林・小野・三美を除く）大宮中学校区になります。

【業務内容】

長寿福祉課

- 高齢者福祉総合相談
  （高齢者福祉事業の代行申請）
- 緊急通報システム事業
  （設置立ち合い・安否確認の訪問）
- 介護予防把握事業
- 高齢者見守り安否確認事業
  （独居・高齢者世帯の訪問）
- 地域介護予防活動支援事業
- 介護予防普及啓発事業
- 認知症総合支援事業
- 配食サービス事業
- 生活支援体制整備事業

生活環境課

- ふれあい収集事業

【目標】

- 地域高齢者の実態把握と独居高齢者の支援
- 地域サロン活動を支援する
- 常陸大宮市・地域包括支援センター等の関係機関と協力し合い、民生委員を含めた地域住民との連携強化に努める

【実績】

- 高齢者福祉総合相談件数　93 件
- 緊急通報システム設置世帯数　65 件
- 高齢者実態把握年間延べ件数　1,037 件
- サロンの活動支援　11 回
- 介護予防普及啓発の資料の配布(熱中症予防リーフレット•扇子の配布、感染症予防のリーフレット・マスクの配布)
- 生活支援体制整備事業茶話会　12 回
- ふれあい収集事業　2 件

【トピックス】

- コミュニティデザイナーとして、サロン活動支援に力を入れ、サロンと地域の様々な資源を繋げる事ができました。
- ２ヶ所の区で､介護予防教室｢運動教室あつまーれー」の開催に繋げる事ができました。
- 緊急通報システムでは、年度初めに試験通報を実施し、全てのボタンを押して消防署へ繋げ、台帳の更新を行いました。

第一部

7. 部門別実績報告　博仁会

常陸大宮市在宅医療・介護連携推進センター

川﨑 真弓、矢口 志乃ぶ

在宅医療・介護連携支援センターは、常陸大宮市より在宅医療・介護連携推進事業の「在宅医療・介護連携に関する相談支援」業務の委託を受け、2022年4月1日より活動を開始いたしました。

【業務概要】

目的

在宅医療・介護連携を支援する相談窓口として、地域の医療・介護関係者や地域包括支援センターから、在宅医療・介護連携に関する相談等を受け連携調整、情報提供により、その対応を支援する。

実施内容

医療機関や介護事業所等から寄せられる相談の受付とその支援

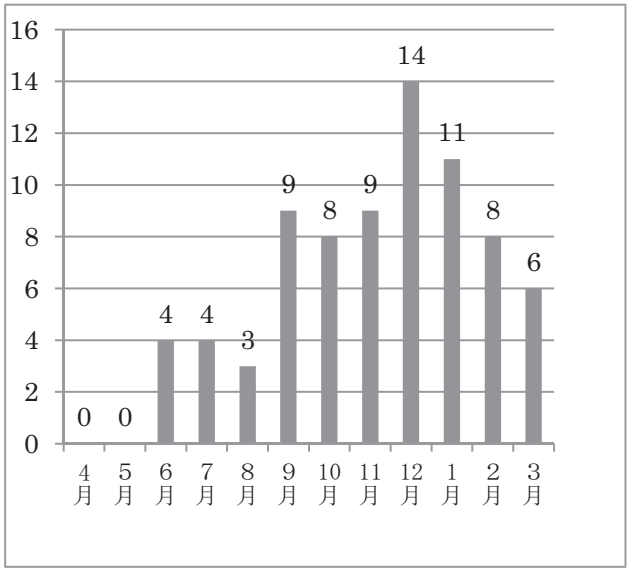
医療・介護関係者の情報共有の支援

在宅医療についての理解促進に向けた普及啓発

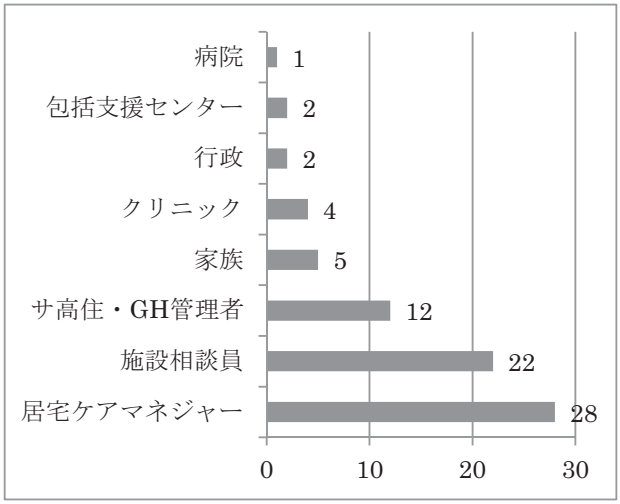
【活動報告】

開設にあたっての関係部署訪問
在宅医療・介護連携支援事業に係る意見交換会の開催
常陸大宮在宅医療・介護連携推進協議会の開催
医療介護実務者意見交換会の開催
介護支援専門員との意見交換会
結城市在宅ケア相談センター視察

・相談件数　76件



・相談者内訳



・相談内容

		件数
相談形態	来所	5
	電話	70
	訪問	1
相談内容	入院等支援	67
	在宅療養	2
	医療保険・介護保険	2
	その他	5
	緩和ケアについて　2	
	居宅変更　1	
	訪問診療　1	
	主治医変更　1	

【今後の活動】

医療と介護の両方を必要とする状態の方が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域の医療機関、介護の関係機関が連携できるよう相談業務を充実させ、在宅医療についての理解促進に向けた普及啓発活動を行っていきます。

第一部

7．部門別実績報告　博仁会

栄養科

科長　並木 道子

【目標】

① 食事や調理に関する知識、技術の向上による食事支援の充実
② 多職種と連携し、個人の栄養状態に合わせた栄養ケアの計画と実施（病院、施設、在宅）
③ 栄養サービスグループとしてサポートセンターを含めたスタッフの知識レベルの向上

【実績】

栄養科では、上記のような目標を掲げ、取り組んで参りました。

特に、今年度は科内で担当を決め、定期的に勉強会を行い、情報の共有と知識レベルの向上に努めました。

食事に関しては、嗜好調査や他職種とのミーティングでの意見を取り入れ､年間 36 品目の新メニューの開発を行いました。また、月に１回のお楽しみ献立では、季節や行事に合わせたメニューや日常では提供できない特別な献立を考えて実施し、患者様、利用者様に喜んでいただくことができました。

多職種連携によるチーム医療の推進については、管理栄養士の病棟担当制をとっており、NST ミーティングや多職種のカンファレンスに参加し、特に低栄養リスクの高い方に対して介入しています。

地域住民の皆様に向けた活動としては、常陸大宮市、常陸太田市より委託を受けた配食サービスを行い、今年度は年間 77,572 食、１日平均 213 食を提供しております。配食サービスについてもお楽しみ献立のメニューを取り入れ、季節の食材についての紹介などのカードを付けて、ご利用者様への栄養情報の提供も行っております。

また、おおみや認定栄養ケア・ステーションでは､介護予防教室での栄養講話や管理栄養士カフェ、まちなかサロンなどを行いました。2023 年度には、水戸メディカルプラザにおいても、認定栄養ケア・ステーションの開設をしております。

今後も、志村大宮病院を中心とし、各サポートセンターと連携してどこにいても切れ目のない食と栄養のサポートに努めて参ります。

お楽しみ献立　【九州・沖縄】

タコライス
ゴーヤチャンプル
明太子ポテトサラダ
がめ煮
もずくスープ
マンゴー杏仁

お楽しみ献立　【北海道】

旭川ラーメン
帆立の塩麹焼き
大根と昆布の煮物
北海サラダ

第一部

7．部門別実績報告　博仁会

薬剤科

河野 高宏

【概要】

志村大宮病院薬剤科は薬剤師５名、助手５名で構成されております。病院内の調剤と薬品管理を行っています。内服･注射調剤、製剤業務、医薬品管理、外来化学療法、医薬品情報管理、病棟業務、服薬管理指導、チーム医療への参画、訪問薬剤指導、薬学実習生受け入れ、看護学校教育など業務は多岐にわたっており、薬剤に関することは全て関与し薬が安全に使用できるよう業務を行っています。

【実績】

病棟薬剤管理指導	4487 件
訪問薬剤指導	1,092 件
薬剤師病棟配置加算	3,411 件
無菌製剤処理料	3,856 件
薬剤総合調整加算	13 件
薬剤情報連携加算	141 件

【業務内容】

当院の薬剤科では患者さんに安全で効果的な薬物療法を提供することを目的として、調剤業務や薬剤情報提供、医療安全対策などの様々な活動を行っております。入院患者さんだけではなく在宅への訪問薬剤指導も行っております。在宅業務を行う病院は全国的にもまだまだ少ないですが、当院では数年前から施設や個人宅への訪問薬剤指導を積極的に行っています。

調剤業務に関しては注射や内服の個人別セットを行い、薬剤師が一貫して薬に関わる体制を整えております。薬剤は飲み合わせが悪く効力が落ち、注射剤に関しては混ぜることで配合変化を起こすことがあるためこれも薬剤師が事前チェックを行っています。抗がん剤治療に関しては安心かつ安全に行えるようにクラスⅢのアイソレーター、調剤ミスを起こさないための監査システムも導入しています。薬剤師側もクラスⅡの安全キャビネットでは被爆リスクがありますが、アイソレーターとすることでリスクをかなり軽減できています。

膨れ上がる国の医療費を抑えるために積極的なジェネリック薬の採用も進めていますが、患者さんが内服しやすい剤型を考え口腔内崩壊錠の積極的採用を推進しています。また、服用錠数を減らす工夫として配合剤の採用も増やしています。剤型に工夫が施されたジェネリック医薬品を優先的に採用としています。院内後発品医薬品の割合は 94％を超えており堅調に維持しています。

【トピック】

国際医療福祉大学、奥羽大学より３名の薬学生を受け入れ実習を行いました。実習期間は二か月半と長いですが、指導薬剤師の監督のもとに調剤や服薬指導、抗がん剤調製を行っていただきました。患者さんの病態を全体的に把握して納得できる治療の選択ができるような手助けができる薬剤師になっていただけることを期待しつつ実習を終えることができました。来年度以降も引き続き実習生の受け入れと教育を行っていきたいと考えております。

第一部

7．部門別実績報告　博仁会

診療サービス課

河野 貴仁

【目標】

① DPC の収益維持
在院日数管理と入院期間Ⅰ・Ⅱ退院管理、効率性係数 1.0 以上の維持

② カルテの質の向上
退院サマリー（退院後 14 日以内）90%以上、量的点検業務の効率化・実施率 90%以上

③ 外来患者数、収益の増加
外来単価増に伴う分析（年 2 回の定期検査実施）
検査・健診センター利用者・人間ドック利用者数の増加

④ 救急搬送件数 200 件以上及び救急医療管理加算の要件達成
→令和 5 年度の看護師処遇改善届出

⑤ 返戻・査定減少に伴う質の高い診療報酬請求業務

⑥ 診療報酬改定に伴う算定・届出及び施設基準要件の点検

⑦ 人材育成（外来・入院のリーダー育成）

【主な実績】

・DPC 収益維持
DPC 期間内の早期退院調整（入院期間Ⅰ・Ⅱ）55%以上→ 49.0%
在院日数管理と入院期間Ⅰ・Ⅱ退院管理、効率性係数 1.0 以上の維持

・外来患者数、収益の増加
検査・健診センター受診者数増加のため、特殊健診・OP 検査の拡充、各企業業種別の簡易健診の開始　令和 3 年度 2,753 件→令和 4 年度　3,090 件（職員を除く）
年 4 回の精度管理調査の実施（検体検査、レントゲン、心電図）
企業健診受診者の増加のため企業への宣伝強化、半日人間ドック、簡易人間ドック、オプション検査設定など受診者のための新たなサービスの提供、協会けんぽ生活習慣病予防健診指定の更新。

・無料送迎バス利用者増と維持・確保
目標　年間 12,000 名→実績 9,661 名　80.5%
病院送迎バスの充実の一環として、「ナースカー」の運行。「ナースカー」は、入院患者さんの送迎と、外来で通院困難な患者さんの送迎を行う専用の車両。

・新型コロナウイルス感染症対応
ワクチン予約管理、接種実績、各補助金及び接種協力金申請

・フロイデひたちなかメディカルプラザ　新規開設対応
医療機関届出、各システム稼働準備（電子カルテ、医事システム）

・電子カルテリプレイス
電子カルテシステム入れ替え、動作確認（システム連携）

【来年度へ向けて】

引き続き DPC の収益維持に取り組み、在院日数管理と入院期間Ⅰ・Ⅱ退院管理、効率性係数 1.04 以上を維持していきたいと思います。

検査・健診センター利用者・人間ドック利用者数の増加についても、企業健診受診を中心に、半日人間ドック、簡易人間ドック、オプション検査を周知していきたいと思います。

フロイデクリニック水戸、みんなの内科外科クリニックサテライトのクリニックでも志村大宮病院と同じ質を保つため、人材育成にも注力していきます。また、みんなの内科外科クリニックでは新規個別指導対策も準備していきたいと思います。

第一部

7．部門別実績報告　博仁会

管理部

部長　熊谷 淳夫

LED 照明への変更

スイス館屋上リハビリ庭園

すべり台

【目標（グループ全体の 3 カ年目標達成のための活動の推進）】

1. 利益率向上に向けたコスト削減の強化
2. 施設整備の推進
3. 情報発信の強化
4. 健康経営優良法人 2023（大規模法人部門）取得に向けた取組み
5. 電子カルテ・医事会計システム・介護システム・PACS サーバー更新
6. 院内物品管理システム（SPD）の運用開始
7. 臨床検査業務の FMS 方式への変更

【実績】

コスト削減強化

コスト削減強化では、2022 年 12 月以降、LNG などの輸入価格の高騰をうけ電力会社の燃料費調整額が値上がりしました。当院では、年間電力使用量は昨年と比較して横ばいの状況でしたが、電力料金は、約 35％増加し、現在も増加傾向が続いています。これをうけ、当院では電気料金削減のため、節電行動アクションによる電気料金の削減に取り組みました。また、電気料金の削減に有効な、施設照明の LED を促進いたしました。

施設整備の推進

屋上庭園花の植え替えと保育所遊具等の設置。ドイツ館・スイス館・フロイデハイム屋上リハビリ庭園の春・秋 2 度の植え替えを行いました。一年を通じて花と緑の絶えないリハビリ庭園をご利用者の皆様に提供致します。ドイツ館の開設に合わせ、中庭のライトアップを現在も行っています。

情報の配信

広報誌『お元気ですか』の発行、情報システムの整備による効率化と情報の共有化を図るため、グループウェアサイボウズによる情報の共有化を引き続き進めています。医療と介護の連携ツールとしてグループウェアサイボウズは、拠点数の増加、職員の増加により巨大化・広域化した SFG（志村フロイデグループ）の情報共有・意思伝達手段として非常に有効なツールとなっています。また、電子カルテについては、医療と介護の連携、地域包括ケアシステムの必須ツールとして医療・介護双方向からの活用を行っています。電子カルテシステム・介護システム・医事会計システムは 2023 年 3 月に新システムに更新されました。

健康経営有料法人 2023 取得

志村フロイデグループでは、健康経営に取組む企業として経済産業省「健康経営優良法人ホワイト 500」の取得に向けた取組を平成 30 年度より行っています。「健康経営」とは、従業員の健康管理を経営的な視点でとらえ、戦略的に実践することです。企業理念に基づき、従業員への健康投資を行うことは、従業員の活力向上や生産性の向上等の組織活性化をもたらし、結果的に業績向上につながるとされています。2022 年度は、健康経営優良法人（大規模法人部門）に再度認定されました。来年度にむけて「健康経営優良法人ホワイト 500」の取得に向けさらに活動を行っていきます。

認定証
（大規模法人部門）
法人名　医療法人博仁会

第一部

7．部門別実績報告　博仁会

経理部

課長　帯施 雅信

【決算概況】

2022年度決算では、医業収益が59億7002万円（前期比1億604万円増、1.8%増）と増収になりました。新型コロナ感染症流行によりクラスターが病棟・介護施設で発生し患者・利用者が減少し収入が減少しました。病院・クリニック外来等収入が伸び、法人全体で前期比増収となりました。

対して医業費用では58億2298万円（前期比1億9520万円増、3.5%増）となりました。これは、職員増加による人件費増加したこと、電気代上昇による水道光熱費31%増加、コロナ感染患者用の医薬品仕入24%増加等の要因により医業費用が増加しました。

医業利益は、医業収益以上に医業費用が増えたため、1億4704万円と前期比マイナス8916万円となりました。

病床確保補助金や介護サービス提供体制補助金、物価高騰支援金など補助金収入があり営業外収益が増加し、経常利益は3億1841万円、当期純利益は2億4392万円となりました。

次に貸借対照表をみますと、流動資産では補助金収入等により未収金が増加し、27億6383万円となりました。また、4月オープンのフロイデひたちなかメディカルプラザ建物が完成し資産に計上され、固定資産は53億7819万円となりました。全体で総資産は81億4403万円と前期比増加しました。

対して負債勘定では、ひたちなか建築資金を借入金で調達しましたので、負債残高が48億7083万円と増加しました。

負債・純資産合計で81億4403万円となり、負債が増加したことにより自己資本比率は前期比減少し40%と相応の実績は確保出来ました。

【今後の活動予定】

来期2023年度から、有床診・看多機・有料老人ホームなどのフロイデひたちなかメディカルプラザが開業します。その後、博友会で3期工事として3棟建築しケアタウンひたちなかが完成します。

今回のフロイデひたちなかメディカルプラザ開業は、当博仁会で大きい投資でしたので、単体でも採算取れるよう稼働率を早く上げて収益向上に努めてまいります。

当面は先行投資分として人件費含め費用が多額になり運転資金が不足しがちになると思います。今回の開業用に今まで積立してきた預金を利用して、預金残高注視しながら資金繰り対応をしてまいります。また負債勘定残高が過大にならないよう管理していきます。

第一部

7．部門別実績報告　博仁会

人事課

課長補佐　立原 一茂

入社式

入社前研修

【概要】

人事課は7名（2023年3月末時点）の職員で構成しております。

業務は「職員」に関する業務全般となり、月例業務から季節的業務など多岐にわたります。

【主な業務】

- 新規学卒採用　中途採用
- 就業規則管理
- 勤怠管理
- 職員の健康管理
- 給与計算
- 社会保険
- 職員研修
- 外国人人材の受入れ

【トピックス・実績】

1.　人事諸制度の変更

昨年度、コンサルタント指導のもと新賃金制度と新人事考課制度を創り上げ、4月から運用開始致しました。

新人事考課制度においては全体に説明会を実施し、その後155名の職員が考課者訓練に参加致しました。

- 6月30日　全体説明会
- 7月15日　第一回考課者訓練　43名
- 9月16日　第二回考課者訓練　59名
- 9月29日　第三回考課者訓練　53名

2.　医師の宿日直許可申請

医師の働き方改革に対応すべく、医師の宿日直許可取得に向け準備を進めました。医療勤務環境改善支援センターの支援もあり、労働基準監督署へ事前相談を経て12月に本申請を行いました。年明け1月に現地調査が行われ、1月31日付にて宿日直許可証を交付頂きました。

- 8月22日　医療勤務環境改善支援センターへ相談
- 10月17日　労働基準監督署へ事前相談
- 12月26日　労働基準監督署へ本申請
- 1月19日　現地調査
- 1月31日　宿日直許可証交付

3.　新規学卒採用　中途採用

4月のフロイデひたちなかメディカルプラザ新規事業所開設に向け、新規学卒及び中途採用活動に傾注して参りました。

新規学卒採用においては各職種と連携し、学校訪問54校・就職説明会18回・見学者対応を実施し45名の採用となりました。

中途採用においても各職種と連携し下期から求人募集を行い、見学者対応・採用面接を随時実施していきました。2月と3月には採用セミナーを開催し、ひたちなか新規事業所開設前に32名の中途入職者の確保へと至りました。

4.　外国人人材の受入れ

志村フロイデグループにおいて9名の外国人人材の受入れを行いました。

日本で安心して業務を行いながら生活できるように生活面でのサポートや、技能実習評価試験及び日本語能力検定試験等の事務的サポートを行いました。

4月にフロイデひたちなかメディカルプラザ新規事業所を開設し、医療法人博仁会の総職員数も1,000人を超えました。職員一人一人にとって働きやすい職場環境となるよう、人事課職員一丸となり業務へ取組んで参ります。

第一部

7．部門別実績報告　博仁会

法人サポート部

部長　小野 健悦

【概要・特徴】

病院団体の設立や運営支援、全国学会の開催等を担っております。

【実績】

「中小病院唯一の病院機能である在宅療養支援病院をさらに発展させ、超高齢社会のピークを乗り切る役割を果たせるようにすること」を目的として、一般社団法人日本在宅療養支援病院連絡協議会を設立し、総会・理事会・勉強会を開催いたしました。

また1月9日には日本医師会を会場として、日本地域包括ケア学会第4回大会を開催いたしました。「改めて医療と介護の連携を考える～医療から見た介護側の課題、介護から見た医療側の課題～」と題し、各職能団体、医療機関、介護施設から、医療・介護連携の課題についての提言、先進的な取り組みの報告がありました。全国から1,000名を超える医療・介護の専門職にオンラインで参加をいただき、盛会のうちに終えることができました。

【2023年度の目標】

2023年度は在宅療養支援病院のさらなる発展を目的とし､第1回研究会の開催を予定しております。

また診療報酬に係る各種調査を取りまとめ、厚生労働省と協議を重ね、政策提言をしていくことを目指しております。

第一部

7. 部門別実績報告　学校法人志村学園

茨城北西看護専門学校

校長　吉原 ます子

2022 年度は、看護学科は 1 年生が 39 名、2 年生 40 名、3 年生が 29 名、介護福祉学科は 1 年生 17 名、2 年生 8 名、全学年 133 名、教職員 16 名でスタートしました。

【部門方針】

① 受験生の増加による優秀学生の確保を図る
② 教育活動を充実し、国家試験『全員合格 !』を達成する
③ 新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、感染者を出さない
④ 学校運営の安定を図る
⑤ 教育の質向上に向けた取り組みをする

【実績】

1.「受験生の増加による優秀学生の確保を図る」

前年度の学生確保の反省から、広報活動の充実に力を入れました。法人サポート部の力もお借りし、5 月より高校 50 校を訪問していただきました。また、学校として、11 ～ 12 月に 40 校訪問しました。

看護学科はオープンキャンパス参加者 120 名の目標を立てました。参加者は 95 名であり、前年度と同数でした。受験者数は 36 名にととどまり、2023 年度の入学者数は 33 名であり、定員割れをしてしまいました。

介護福祉学科は 5 月より週 1 回オープンキャンパスを実施し、参加者は 17 名でした。入試においても AO、指定校推薦、公募推薦、一般入試を実施しました。結果、2023 年度の入学生は 8 名となりました。

2.「国家試験『全員合格！』を達成する」

看護学科は今年度も国家試験の合格 100% をめざし、学生を指導してまいりました。入学当初より、学生の自己学習能力の向上を目指し、学生自身で問題解決していけるように、ゼミナール学習を組み入れてきました。3 年生になり、学内実習が多くなる中で、様々な工夫をしてまいりました。最後の実習統合実習は臨地で実施することができました。実習が終了した 12 月より本格的に国家試験対策に取り組みました。今年度も寸暇を惜しみ集中しました。結果 100% でした。

介護福祉学科は 2 回目の国家試験に挑戦しました。100% の合格を目指し、2 年生の第 4 段階の介護実習が終了すると、夏季休暇以後はひたすら国家試験対策に取り組みました。結果 100% でした。

3.「新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、感染者を出さない」

学生が 1 日 3 回の体温、自覚症状、家族の状況をアプリにて登録をすることにより、学生の健康状態の把握に努めました。学生・家族に発熱・症状がある場合は、登校禁止とし公欠扱いとしました。また、長期休暇明けには、抗原検査を行い陰性であることを確認してからの登校としました。さらに、実習前には PCR 検査を行い、安全・安心を確保したうえで、実習を実施しました。

4.「学校運営の安定を図る」

学校運営の安定を図るため、まず、入学者の確保と学生を減らさないという目標の下、学年担任制をとり早めに対応し、必要に応じ本人・保護者との面談を実施することやカウンセラーにてメンタルヘルスサポートの実施をしてまいりました。

看護学科においては、単位未修得科目が多く原級留置が予測された学生に、休学するケースが見られました。

介護福祉学科においては北富田地区の事業に積極的に参加し、地域住民の暮らしを守ることの意義等を学びました。

5.「教育の質向上に向けた取り組みをする」

他校の良い方法はどんどん取り入れるために看護学科は日本看護学校協議会・茨城県看護教員連絡会、介護福祉学科は日本介護福祉士養成施設協会にも加入し、教員の連携も図り質の高い教育に努めています。

看護学科においては、第 35 回日本看護学校協議会学会 (2023 年 8 月 3、4 日開催) の開催校として志村大宮病院の全面的なバックアップのもと準備を進めました。2022 年 8 月 9、10 日に神戸で開催された第 34 回学会に参加し、学会運営について学ぶとともに、学会閉会式で、次回開催の茨城県の魅力とテーマ「共にあゆみ、共に生きる～看護の知の力で、持続可能な社会を目指す～」を動画で伝えました。また、茨城県教員連絡会に学会運営の協力を求め、次年度の学会成功のため準備を進めております。

【最後に】

開学して看護学科は 14 年目、介護福祉学科は 4 年目、2022 年度は、133 名の学生の指導をしてまいりました。年々入学生の学力のなさを痛感しながら、教員一同どう教育したらいいのかと悩む毎日でした。しかし、卒業時の学生は周りの方々に助けられ、一回りも二回りも大きくなって巣立っていきます。

入学を許可したからには卒業まで学校の責任と考えています。さらに国家資格取得までが学校の責任と考えています。「国家試験全員合格！」を目指し、教職員一丸となって支援してまいります。

第一部

7．部門別実績報告　博友会

事務サービスグループ

部長　江幡 和子

【部門方針及び主な業務内容】

① 法人運営に対する事務部門としての意識と主体性の向上
② 働き方改革への柔軟な取り組みと組織の整備
③ 新規事業(第 3 期ケアタウンひたちなか事業)開始に向けた準備

2022年度､事務サービスグループは､総勢13名で､上記部門方針のもと活動してまいりました。

今年度は、前年度整備構築した、新給与体系・新人事考課制度を運用開始し、更なる働き方改革に取り組みました。また、来るべきインボイス制度・電子帳簿保存法の施行に向けて理解と準備を進めているところです。

【実績】

収支実績（内部取引消去後　）	経常収益	1,663,174 千円
	経常費用	1,536,298 千円
	経常増減差額	126,876 千円
	特別増減差額	▲ 347 千円
	当期活動増減差額	126,529 千円

離職率	9.10%
転籍・65 歳以上除く離職率	6.47%
上記・外国人材除く離職率	5.16%

【2022 年度のトピックス】

・定期昇給にあわせて、4 月 1 日より新給与体系に移行しました。それに伴い、賞与支給ポイント係数を設定し、パートタイム労働者にも契約時間にあわせた賞与の支給をすることとしました。また、新人事考課導入のため、8 月、9 月に考課者訓練を実施し、SFG 全体で 155 名が参加、上期・下期新しい考課項目での人事考課を実施することができました。
・コロナ禍の中で実施が延期されていた「社会福祉法人・施設一般検査」が 8 月 29 日に実施されました。特に大きな指摘はなく、軽微な指摘に対してはその場で改善提案し終了しました。
・ケアタウンひたちなか第 2 期事業開設に向けて、職員紹介支給制度内規の見直しと期間限定の割増支給をすることにより求人しやすい状況を創り出しました。
・介護技能実習生等外国人材は、ベトナム・モンゴルあわせて SFG 全体で 9 名を受け入れました。日本での生活が有意義になるよう日本語学習支援、生活支援をしていきます。

第一部

7．部門別実績報告　博友会

栄養サービスグループ

係長　鈴木 真弓

【2022 年度部門方針】

① 各関係機関との連携により新規利用者確保による収入・利益の安定を図る
② 365 日 3 食、個人対応での食事の提供およびご利用者様ご家族様との信頼関係を構築し、自立支援への対応を図る
③ ひとり一人の生産性向上のために職員の資質の向上に努めながら、職員ひとり一人が自身の未来図を描くことができるよう応援する

【2022 年度のトピックス】

今年度は、栄養ケアステーションと連携し、お弁当を教材とした栄養講話を実施していただき、ごぜんやま配食サービスセンターから、健康支援型配食サービスを提供することができました。今までは、ご自宅に配食サービスを配達していましたが、健康支援型配食サービスでは、お弁当を提供するだけではなく、共食の場を設けることで、人と人との交流の中から笑顔が生まれ、心も体も健康になることを目指しています。さらに、引きこもりやフレイルといった問題解決にも取り組み、一人でも多くのかたに、生きがいをみつけてほしいと考えております。

【実績】

2022 年度の博友会全体の食事提供数は、278,020 食で 1 日平均 762 食でした。

目標達成に向けての取り組みとしまして、年 2 回の嗜好調査を毎年継続して行っており、嗜好調査の結果をもとに、食材の切り方の変更や調理方法の検討や味付けの好みなどを科内や多職種の方々と検討し、常に食の質の向上に努めてまいりました。

月 1 回のお楽しみ献立は、ご利用者様も楽しみにされており、食事委員会にてリクエスト献立を調査し、ご利用者様が望まれたメニューを提供することが出来ました。その他、季節の行事に沿ったバイキングを実施し、食事から季節を感じていただくことも出来ました。ご利用者様へのバースデーケーキ、バースデーカードの提供は、毎年恒例となり、楽しい食事のひとつとして実施しております。

在宅支援の栄養サポートとしては、御前山フロイデガルテンから常陸大宮市と那須烏山市の委託事業による配食サービスを実施しており、常陸大宮市以外の地域への配食サービスも行っております。サポートセンター城里からは、城里町への配食サービスを提供しております。2022 年度配食提供数は、御前山・城里合計 36,400 食で 1 日平均 100 食の食事をご自宅へ届けていることになります。また、運転手と連携をとり配達時に安否確認を実施しています。遠方にすむご家族様が安否確認を電話ですることもできますが、配食サービスでは、直接会って会話をして確認することができますので、普段との様子の違いや、体調不良等にも気づくことができました。不在の際や体調不良の際など、離れていてすぐに確認ができないご家族様へ情報を提供することで、早急な対応をすることができ、ご家族様からも感謝の言葉をいただきました。お一人暮らしのかたでも、ご家族様が安心して暮らしていけるよう、地域の方々の栄養サポートとして治療食にも力を入れ、QOL の向上、安否確認につとめ、今後もケアマネージャー、地域包括支援センター、在宅介護支援センターと協力しより多くの方に配食サービスを利用して頂きたいと考えております。

今後も姉妹法人である医療法人博仁会と情報交換・連携を強化していきながら、ご利用者様一人ひとりに合った美味しい食事を提供できるよう努めていきたいと思います。

【バイキング実施報告】

4 月 お花見	具だくさん筍・山菜ごはん、卵の花、菜の花と玉ねぎの春サラダ、春キャベツの中華風浅漬け、じゃがいもとわかめのお味噌汁、さくらえびと三つ葉の厚焼き卵、さくらようかん
5 月 中華	タンタンメン、中華風根菜の煮物、中華サラダ、海鮮塩炒め、ひとくち桃まん
6 月 ドルフリクエスト	鶏五目御飯、照り焼きハンバーグ、かぼちゃの甘煮、北海サラダ、かぶのゆず漬け、具沢山汁、プリンとケーキ盛り合わせ
7 月 七夕	七夕そうめん、夏野菜サラダ、なすとこんにゃくのみそ炒め、カレイのバター醤油焼き、七夕ゼリー
8 月 夏祭り	豚キムチ丼、揚げナスの煮びたし、カラフルトマトサラダ、夏野菜のスープ、たこやき、さっぱりレモンゼリー
9 月 お月見	栗赤飯、つくねボール、さつまいもと野菜のサラダ、レンコンのきんぴら、きのこのすまし汁、ぶどう
10 月 関西味めぐり	かやくごはん、ミックスフライ、牛筋のにこみ、グリル風秋サラダ、もみじふとみつばのお吸い物、お好み焼き、あんみつ
11 月 和食	親子チラシ、茶わん蒸し、梅ポン酢サラダ、あさりのすま汁、みそかつ、みたらし団子風
12 月 美和リクエスト	レンコンと銀杏の混ぜご飯、えびの天ぷら、豚肉の生姜焼き、カリカリサラダ（ごぼう）、卵豆腐あんかけ、野菜切り付け、けんちん汁、フルーツ盛り合わせ
1 月 北海道	旭川ラーメン、大根と昆布の煮物、北海サラダ、鮭とホタテの塩こうじ焼き、チーズケーキ
2 月 節分	太巻き、いなりずし、甘酢がり、カラフル豆サラダ、すまし汁、チョコプリン
3 月 ひなまつり	かにちらし、菜の花のマスタードサラダ、あすぱらとホタテの炒め、はまぐりのすまし汁、桜餅

第一部

7．部門別実績報告　博友会

御前山フロイデガルテン

五十嵐 信

【概要】

フロイデガルテンとは、ドイツ語でフロイデは喜び・楽しみ・嬉しさ・愉快、そしてガルテンは庭・庭園等を意味します。私たちは、草花が咲き誇る庭があり、多くの友達がいて、自分らしく生きがいを持ち、喜び・楽しみ・嬉しさ・微笑みの中で生活が送れる施設を目指しています。

ご利用者様を中心に、介護職員が寄り添い、個性に応じた対応の元で、いつもの生活・自然な感情等を大切にし、職員ひとりひとりが心をこめて、当たり前の毎日を支え、応援していきたいと考えております。

人員配置	施設長（管理者）	1名
	介護職員	18名以上
	生活相談員	1名
	看護職員	2名以上
	機能訓練指導員	1名
	介護支援専門員	1名
	管理栄養士	2名
	医師（非常勤）	2名
	歯科衛生士	1名

【業務内容】

＜指定介護老人福祉施設＞（定員50名）

寝たきりや認知症などで、常時介護が必要な状況であって、自宅で十分な介護を受けることが困難な要介護者（原則要介護3以上）に対し、快適な生活環境の提供を行い、日常生活のお手伝いをします。

＜ショートステイ＞（定員10名）

在宅で要介護者を介護しているご家族様が、旅行や外出等で不在になる際や、自宅での介護に疲れた時等に、短期間施設に入所し、食事・入浴・排泄等の介護サービスを提供します。

【目標】

⑴　ニーズに即した終末期ケアの提供
　→医師を交えた家族面談実施、終末期ケア10件実施

⑵　ご利用者様の健康維持による入院者数の削減
　→他部署との連絡ツールとして情報共有会議の活用し迅速に対応

⑶　地域交流を起点とした多世代型プラットホームの形成
　→感染対策を徹底し、地域の行事やイベントに参加、地域の方々との交流を図る

【実績】

特養入所	年間目標：18,250床	
	年間実績：17,763床	
	達 成 率：97.3%	
ショートステイ	年間目標：3,650床	
	年間実績：4,047床	
	達 成 率：110.9%	
特養・ショート合計	年間目標：21,900床	
	年間実績：21,810床	
	達 成 率：99.6%	

第一部

7．部門別実績報告　博友会

御前山デイサービスセンター

係長　森 達也

【概要】

2022年度も世界的に新型コロナウイルスの蔓延が治まりませんでしたが、感染症対策を継続して行った事により、クラスター発生なく事業所運営をすることができました。

【実績】

御前山デイサービスセンターでは、2022年度も昨年に引き続き「リハビリ機能強化型デイサービス」としての運営を行い、登録者約100名の方々の身体機能や生活機能の向上を行う事で、住み慣れた地域、在宅での生活を可能な限り長く続けて頂けるよう支援して参りました。また、「常陸大宮市　介護予防・日常生活支援総合事業」では、介護予防対象者の登録者約8名の方の介護予防を図り介護が必要にならない体づくりを目指し、これまでに蓄積したリハビリ機能強化型デイのノウハウを活かして常陸大宮市の介護予防事業運営への生きがいづくり・仕掛けづくり準備にも注力してまいりました。2022度の部門目標は、10,657件で部門実績が、10,534件。達成率は、98.8%となっております。

【人材育成及び地域活動】

人財育成の部分では、資格取得者が1名おり、看護師資格の取得に成功しております。

地域活動では、「café fun garden」の開催をし、コロナ禍において外食をためらってしまう今、おいしいご飯の提供を提供する事で、地域住民の方の新たな楽しみの一つとして企画いたしました。6月には「常陸牛入りハンバーグ弁当」をご用意し、テイクアウト及び配達を実施、157食売り上げ、2月には、ガルテンバーガーをご用意し、計135食売り上げました。

新型コロナウイルスの感染拡大の中、社会保障制度や社会情勢が変化しておりますので、正確な情報をいち早くキャッチし、適切な対策・情報を共有することで、ご利用者様・ご家族様・地域の皆様から選ばれるサービスと安心して暮らせる地域づくりを目標に今後も取り組んでまいります。

第一部

7. 部門別実績報告　博友会

ごぜんやまホームヘルパーステーション

係長　皆川 あゆみ

【概要】

利用者が要介護・要支援状態となった場合でも、可能な限り居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、入浴、排泄、食事、その他の日常生活上の介護を行うとともに緊急時対応等により安心した生活できるように日中・夜間を通じて援助を行う。事業の実施に当たっては、市町村、地域の保健・医療・福祉サービス、地域包括支援センター等との綿密な連携を図り、総合的なサービスの提供に努める。

【事業目標】

⑴ 「自立支援」に向けた視点を学び、援助提供に活かす
⑵ 関係機関との連携強化による在宅生活継続の維持
⑶ 変化する利用者ニーズに対応する個別ケアの充実

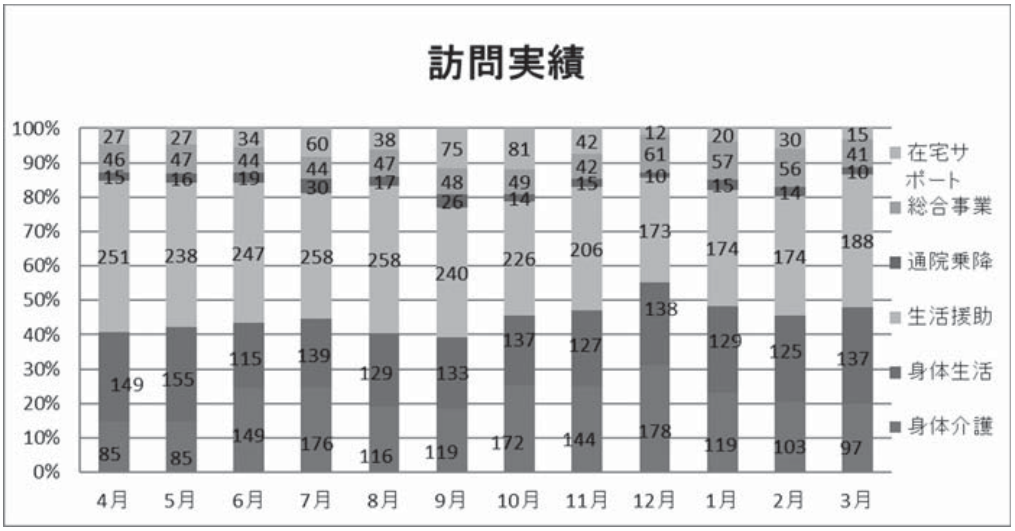
2022 年度は、前記の目標を上げ少ない人員ながら、目標達成のため努めてまいりました。利用者が住み慣れた家で生活していくための、自立支援を目的としたサービスの提供を行うために、高齢化が進展する中で、高齢者の自立した日常生活の支援、介護予防、要介護状態等の軽減に向けたサービスを行ってきました。利用者の心身の状況や希望を踏まえつつ、できることは自分で行え安心して在宅生活が継続できるように支援して参りました。関係機関との連携を行い、情報共有を密に行い利用者が在宅での生活が継続できるように支援してきましたが、やはり自立した生活が困難になり要介護状態が悪化し、結果的に施設入所となる利用者が多かったです。利用者との密なコミュニケーションにより、変化していく利用者のニーズを聞き取り、個別ケアを充実することができました。また、介護保険サービス以外の在宅サポートをはじめたことにより、ご利用者様のニーズに対応できるサービスが提供できました。医療法人博仁会おおみやホームヘルパーステーションとの連携を強化し、担当地域を明確にするなど利用者の受入れ調整等を行うことでより業務の効率化を図り、新規利用者獲得に繋げてまいりました。さらに ICT の活用により情報共有による連携がさらに強化し、サービスの質の向上や、利用者様との信頼関係も深められました。

【2023 年目標】

1.　多職種連携によるチームケアの構築
・「高齢者の健康と QOL の向上、介護者の介護負担の軽減に寄与できることだけでなく、チームのメンバーと知識と技能の分かち合いを促進し、高齢者ケアに関わるメンバーの仕事を、より豊かで興味深いものにする、またそのことが継続的な効果を生み出していく

2.　多様なニーズに対応できる事業体制の継続
・各種研修会や法人勉強会に積極的に参加し業務に対する知識、技能の向上に努めていく。

3.　職員の質の向上による利用者の獲得と統一されたサービスの提供
・部門内勉強会を充実させ、職員全体のレベルアップを図る。



7．部門別実績報告　博友会

ごぜんやま訪問入浴サービスセンター

平山 龍一

ごぜんやま訪問入浴サービスセンターでは、常陸大宮市を中心に在宅で生活される方に対し健康促進、清潔保持を目的とし安心して在宅生活が送れるよう支援して参りました。訪問時にはご利用者様お一人おひとりの身体状況確認を行い入浴支援、医療処置が必要な方には処置等の対応を行っております。また訪問入浴サービス提供にあたり地域の介護支援専門員や医療機関など関係機関との連携を強化し、『住み慣れた自宅で過ごしたい』と、ご本人様やご家族様の強いご希望であるターミナルケアのひとつとして『体のケア』だけでなく精神的負担の軽減が少しでも図れるよう『心のケア』も重視したサービスを提供して参りました。

2022年度の訪問利用者件数は1420件で、目標達成比率は109.2%という結果となりました。今後も2022年度以上にエリアを配慮した予定の管理を徹底し、ニーズのあるご利用者様の受入れを行って参ります。また、ご利用者様の介護度をみてみると、要介護4、要介護5が70%近くになっており在宅生活者にとって訪問入浴の役割は重要な位置を占めています。(表1)

また地域別でみてみると県内は常陸大宮市、城里町を中心に栃木県は那須烏山市、那珂川町までとサービスエリアを展開し、地域別訪問予定調整を行い、効率よくサービスを提供出来るように努めてきました。(表2)

引き続きお一人おひとりにあった介護サービスを提供し、ご利用者様の身体的・精神的負担の軽減が図れるように、また、身体の清潔保持、心身機能及びQOLの維持・向上を図るためにも、介護技術と質の向上を図ることにより、選ばれる事業所となれるよう日々の業務に取り組んで参ります。

また今後も介護支援専門員を中心とした他職種間との連携を図り、ご利用者様やご家族様が引き続き住み慣れた環境で安心して生活できるよう支援して参ります。

（資料1）要介護度別利用者数

介護度	件数
要介護1	13件
要介護2	177件
要介護3	119件
要介護4	439件
要介護5	567件
要支援	4件
障害枠	101件
合計	1,420件

（資料2）地域別利用者数

市町村名	件数
常陸大宮市	1,039件
城里町	191件
水戸市	0件
常陸太田市	44件
那須烏山市	143件
那珂川町	3件
合計	1,420件

第一部

7．部門別実績報告　博友会

ごぜんやま総合ケアプランセンター

係長　佐藤 信也

【居宅介護支援事業所とは】

在宅の要援護者が適切に介護サービスを利用できるよう、ケアマネージャー（介護支援専門員）が在籍し、要介護認定の申請のお手伝いや利用者（要支援、要介護認定者）の居宅サービス計画（ケアプラン）を利用者や家族の立場になって作成をお手伝いいたします。各相談手続は無料です。まずはご相談下さい。

【ケアマネージャーの役割】

要支援、要介護認定を受けた方からの相談を受け、利用者様の心身の状況や置かれている環境に応じた居宅サービス計画（ケアプラン）を作成し、サービス事業者や関係機関との連絡調整等を取りまとめます。

【ケアプランとは】

要支援、要介護に認定された方のご希望に沿った介護サービスを利用できるように、必要性と利用限度額や回数に基いて作成される介護サービスの計画です。自分でも作成できますが、依頼頂ければケアマネージャーが作成します。

【サービスの流れ】

① 要介護認定
介護保険を利用するために必要な認定です。申請のお手伝いをします。

② ニーズの把握
要介護認定により介護度１～介護度５となった方を対象にケアマネージャーがご自宅を訪問し利用者様やご家族の状況、ご希望を把握いたします。

③ ケアプランの作成
利用者様やご家族と相談しながらケアプランを作成します。

④ サービス担当者会議

⑤ サービス事業者との契約
利用者様は利用する各サービス事業者との契約が必要となります。

⑥ サービス利用スタート
以下のような居宅サービスがご利用できます。訪問入浴、訪問介護、訪問看護、通所介護（デイサービス）、通所リハビリテーション短期入所療養介護（ショートステイ）、福祉用具レンタルなど

【今年度の事業実績と活動報告】

① 医療との連携強化
② ICT を活用したケアマネジメントの実践
③ 法人内サービスとの連携強化

【実績】

新規利用者数　合計 51 名

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
9	5	4	4	6	4
10月	11月	12月	1月	2 月	3 月
8	4	3	1	0	3

年間実績　合計 2,909 名

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
275	277	272	266	259	263
10月	11月	12月	1月	2 月	3 月
263	228	221	212	192	181

要介護度状況（年間総数）　合計 2,909 名

総合事業	要支援 1	要支援 2		
6	58	251		
要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
1,020	712	391	375	96

【活動報告】

① 医療と介護の連携強化に関しましては、入院先に対し速やかに情報提供書を作成し提出を行いました。

② スマートデバイスを活用し訪問後支援経過の入力を実施して業務効率化を図る事ができました。各種研修に関してはオンラインで参加し知識、技術向上を図る事ができました。

③ 法人内サービス連携に関しては居宅介護支援事業所で紹介率を毎月集計し、法人内大宮エリア事業所が情報共有し紹介率を増やすように努めてまいりました。

第一部

7．部門別実績報告　博友会

在宅介護支援センターごぜんやま

支援相談員　佐藤 瑛里奈

運動教室あつま～れ～（左：下伊勢畑地区・右：野口３区）

地域サロン

【概要】

在宅介護支援センターごぜんやまは、常陸大宮市より委託を受けて、高齢者福祉の相談、介護予防事業を実施しています。担当地域は旧御前山中学校区です。

【業務内容】

⑴　一般介護予防事業及び高齢者福祉事業
- ①　介護予防把握事業（高齢者の実態を把握し、介護予防活動等へつなげる）
- ②　介護予防普及啓発事業（リーフレット配布等）
- ③　地域介護予防活動支援事業（介護予防教室「運動教室あつま～れ～」開催支援、地域サロンの立ち上げ、開催支援）
- ④　緊急通報システム事業
- ⑤　高齢者見守り安否確認事業

⑵　包括的支援事業
- ①　総合相談
- ②　緊急通報システム管理
- ③　申請代行手続き
- ④　生活支援体制整備事業（協議体活動への参加、情報交換）

⑶　高齢者等世帯ごみ出し実態調査事業

【目標】

- 市の委託事業契約に従い業務を遂行する
- 民生委員を含む地域住民と連携を図りながら、地域の相談窓口としての役割を果たす
- 地域の高齢者を含む対象者が安心して生活できるよう、行政や地域包括支援センター等の関係機関と協力し合い、包括的に支援を行う

【実績】

- 介護予防把握事業（高齢者実態把握）　実人数130名（延べ件数160件）
- 介護予防普及啓発事業（リーフレット配布等、普及啓発活動）　実施回数8回
- 介護予防普及啓発事業（脳トレプリント配布等、地域サロン支援）　実施回数43回
- 地域介護予防活動支援事業　地域サロン参加延べ人数501名
- あつま～れ～開催支援　2地域
- 地域サロン開催支援　6地域
- 高齢者見守り安否確認事業　実人数97名（延べ件数962件）
- 総合相談　実件数77件
- 緊急通報システム管理　設置件数58件
- 申請代行手続き　実件数20件
- 生活支援体制整備事業（協議体への参加、広報誌配布）　実施回数8回
- 高齢者等世帯ごみ出し実態調査事業　調査数2件

【トピックス】

- ２ヶ所の区で、介護予防教室「運動教室あつま～れ～」の開催に繋げることができました。
- 区長をはじめとする地域住民の皆様と連携を図りながら、新たに４つのサロン立ち上げを支援し、地域サロン参加延べ人数が大幅に増加しました。
- コミュニティデザイナーとして、フロイデDAN等と情報交換し、継続的に地域で集まる場が開催できるよう努めました。
- 各地域サロンへ、講師として理学療法士や管理栄養士、公認心理士等を派遣し、フレイル予防や認知症予防の普及啓発を行いました。

第一部

7．部門別実績報告　博友会

フロイデグループホーム桂

笹﨑 圭太

2022年度のグループホーム桂は、開設19年目となり、地域住民の皆様や城里町行政、地域包括支援センター、関係各所の皆様のご協力を頂きながら、城里町唯一のグループホームとして運営して参りました。１年間安定した運営をできたのは、ひとえに地域の皆様のご理解とご助力のおかげであると思います。感謝申し上げます。

次に地域のニーズの把握として運営推進会議を開催し、城里町行政、地域包括支援センター、地域住民代表、ご家族様代表、小規模多機能ホーム城里と積極的に意見交換を予定しておりました。しかしながら、コロナの影響により緊急事態宣言の中、思うように開催実施できなかったのが現状です。

また、昨年同様に沢山小学校の運動会、11月に予定していた、しろさと町民まつりもコロナの影響により中止を余儀なくされてしまいました。事業所としてのイベントは毎月開催し、屋内での活動、もしくは散歩など、外出の機会は減ってしまいましたが、利用者様が安心し楽しく喜んでいただけるようなイベントを計画・開催したいと考えております。

最後に地域における認知症介護の専門施設として役割を果たすために職員教育にも力を入れております。利用者様の緊急時備えるため特定行為従事者研修に２名が参加され資格取得。認知症実践者研修に１名参加資格取得しております。看取り介護についても、知識と役割りを学ぶため事業所内にて勉強会を開催しました。次年度は、看取り介護について体制構築と準備をすすめていきたいと考えております。実績としましては達成率95.8%となりました。来年度は目標達成できるように努力して参ります。

ご利用者様がいつまでも住み慣れた地域で安心して暮らして頂くため、グループホーム桂全職員で認知症ケアの知識・技術の向上・質の向上を図っていきたいと考えております。

第一部

7．部門別実績報告　博友会

フロイデ総合在宅サポートセンター美和

主任　宮田 匠

氷之沢地区クデカフェ

サポーター共同除草作業

女子クラブ作業活動

【概要】

フロイデ総合在宅サポートセンター美和は、2005年7月に開設し、日頃から地域の皆様に支えられながら無事18年目を迎えることができ、感謝しております。これからも鷲子地区において必要とされる施設そして地域の皆様に愛される施設を目指して今後も取り組んでいく所存であります。

【実績】

美和デイサービスセンターでは、2022年度の目標として、「住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるように」をモットーに、ご利用者様一人一人のニーズに合わせたサービス内容を立案し、提供して参りました。職員の接遇、スキルアップに関しましては、法人主催の接遇研修への参加及び、部門内での疾患別勉強会などを他職種間で知識を共有し質の高いサービス提供に努めました。2022年度もコロナ禍ということで感染対策にも徹底して取り組み、感染者こそ発生したものの施設内での蔓延には至らずご利用者様に安心なサービス提供を行うことができました。また、自立支援、自己決定能力の向上の為、様々なアクティビティー活動を提供し、地域の文化祭へ出展、成果を出し、道の駅北斗星には作品の展示販売を継続するなど、生きがい作りの一環として、ご利用者様の満足度に貢献致しました。今後も活動を継続し、発展させていく所存で御座います。

グループホーム美和では、地域密着型施設として地域住民の方や地域包括支援センター、常陸大宮市社会福祉協議会、居宅支援事業所との連携強化を図って参りました。隔月で開催される運営推進会議におきましては、感染症蔓延防止の観点から、地域行政、地域住民代表、地域包括支援センター等との情報・意見交換に感染拡大時は電話等を使用し、認知症対応型施設としての役割を果たすことができました。また、地域の方々によるサポーター活動として施設外周の除草作業や、各地区における認知症に関する勉強会の開催など地域との交流の確立も図ってまいりました。また、常陸大宮市グループホーム連絡協議会へ参加し、同市内のグループホームとの意見交換などを行い、認知症対応型施設として常にスキルアップを図り地域における認知症への理解度向上に少しでも貢献できるよう努めてまいりました。

2022年度の目標達成状況としてデイサービス達成率は91.2%、グループホーム美和達成率は97.6%に留まりました。この結果を重く受け止め次年度は新規者の獲得、病院との入退院連携を密に図り、目標達成に向けて取り組んでまいります。

最後に、来年度は積極的に地域行事へ参加し、地域の皆様にご利用頂きやすく、安心して大切なご家族様を任せていただける施設を目指し、PDCAサイクルを活用した一人一人が自分らしく日常生活を送っていただける場所の確立に努力していく所存です。

第一部

7．部門別実績報告　博友会
フロイデ総合在宅サポートセンター城里

鴫原 優太

城里町認知症カフェ事業

地域住民向け健康教室

【概要】

2022 年度フロイデ総合在宅サポートセンター城里は、『フロイデひたちなかメディカルプラザ開設に向けた準備』『フロイデケアタウンごとの地域包括ケアシステムの推進～生活を支える支援・持続的で多様な通いの場の拠点づくり』『ダイバーシティ＆インクルージョンへの実践・業務の細分化と人財育成』という部門方針のもと実践いたしました。

【取り組み】

地域包括ケアシステムの推進といたしましては、地域住民を対象とした「オレンジカフェ」（認知症カフェ）や「健康教室」「区でカフェ」の開催、地域高齢者クラブへの健康運動実践指導者派遣等を行い地域の方との関係構築に努めました。

人財育成・教育への取り組みとしまして、毎月の事業所内勉強会の他、各種研修会へ積極的に参加し専門職としての知識・技術の向上を図りました。

城里デイサービスセンターでは、感染予防対策の徹底により発生を防ぐことが出来ております。サービス面においてリハビリ機能に特化し、理学療法士や健康運動実践指導者など専門スタッフを中心に、軽度者から中重度者まで、様々な運動をサービスに取り入れ、ご利用者様の在宅でのサポートに繋がる活動を行って参りました。年間利用者総数 10,380 名（達成率 99.9%）の実績でした。

小規模多機能ホーム城里ではご利用者様の多彩なニーズに対応できるようご本人様だけではなくご家族の皆様とも連携を図り、一人ひとりに合ったサービスの提供を行いました。地域の医療機関や城里町の地域包括支援センターなどへ広報活動を行い、小規模多機能の通い・泊まり・訪問の 3 つを組み合わせた在宅復帰・在宅支援サービスについて改めてご理解をいただき、新規ご利用者様の獲得に努めました。年間利用者総数は 9,852 名（達成率 93.1%）の実績でした。

しろさと配食センターの年間配食数は、4,157 件 (達成率 103.4%) でした。今後もご利用者様一人ひとりの食事形態に合わせた食事を提供し、ご自宅でいつまでも安心して過ごしていただけるように、おいしく栄養満点の食事を届けていけるよう努めて参ります。

今年度も感染症予防対策を徹底し、安心してご利用していただける事業所作りと職場内環境の見直しを行い働きやすい事業所作りに努め、目標達成に向けて職員一丸となって取り組んで参ります。

第一部

7．部門別実績報告　博友会

フロイデ工房しろさと

課長　清水 良則

2022年度も、障がい者就労支援施設として、就労移行支援事業、就労継続支援Ｂ型事業のサービスを提供させていただきました。

就労移行支援事業においては、就職の実現を最大の目標に、就労に必要なスキル獲得に向けた様々な作業活動を実施しました。就職活動においては、ハローワーク、障害者就業・生活支援センターなど関係機関との連携も図りながら、就職に関する情報の収集に努めましたが、新型肺炎コロナウイルスの影響が非常に大きく、一般の失業者の増加、雇用者の激減もあって、障害者雇用においての求人数は前年の2割程度、国の緊急事態宣言に伴い面接の延期や中止が著しく続き､更に厳しい状況の１年でしたが、2023年4月から介護職へ１名の方が就職することが出来ました。御利用者様にはコロナ対策を講じたうえで、常に就労に向けたスキル獲得の支援活動の一環として実施している作業活動や同様法人内部からの委託作業を中心に、ラスクの生産販売や一般企業から内職作業、官庁から環境美化作業を受注し実施しました。作業の種類を増やすことで御利用される方のスキルに合わせて作業活動実施していただけるよう、職業準備性を高めております。

就労継続支援Ｂ型事業においてもご利用される方の就職の実現は大きな目標ですが、事業者にはより多くの工賃の支払いと、一般就労が困難な方の働く場所の提供も大きな役割として求められております。このため作業内容や作業量の確保も重要な課題であり内部作業だけでなく外部委託作業の受注にも努めました。企業から求められる精度や量、納期限など安定した作業を実施したことにより、取引先からの信頼を獲得し作業委託量を増やし作業収入の増額を実現しております。

新規の御利用者様は生活保護受給者の割合が多くなってきております｡社会経験をお持ちの方のため、将来の生活を安定していただく為に、まずは安定した利用を提案し、自信を持って社会復帰が出来るように支援し、他の御利用者さまにおきましても専門性をさらに向上させ、質の高い就労支援サービスの提供に努めます。

安定した御利用をしていただき、就職者の輩出、新規利用の増加、外注作業の増加に引き続いて努めて参りたいと思います。

第一部

7．部門別実績報告　博友会

大宮フロイデドルフ

課長　藤田 章宏

大宮フロイデドルフは開設から11年目を迎え、また新たに新型コロナウイルスの発生に伴い様々な環境の変化に向き合う1年となりました。年度当初としては新型コロナウイルスの発生後に施設環境の整備と、ケアの継続を基本として取り組んで参りました。2年目を迎えた本年は1年間のコロナ疲れがご利用者様及びご家族様、そして対応する職員にも表れて「いつ終わるのかも分からない」状況の中で、ご利用者様やご家族様が交流できる機会を提供する為にはという点において重点目標として取り組んで参りました。

まず、1つ目はご利用様の受け入れ（主にショートステイ）と長期でご利用されている方々の面会環境の見直しに注力致しました。まず、在宅で生活されているショートステイのご利用者様に対しては、コロナ禍の中で利用状況の変化で、現状までの施設等でご利用いただけなくなった方々のニーズが多く当施設にお問合せ頂く事例が増えました。その声を受けて当施設では新規のショートステイのご利用者様の受け入れに関して柔軟な対応を取っております。受け入れ時の抗原検査の実施（実質無料）の理解を得た中で、幅広いニーズ（重介護度及び医療依存度の高い（透析の方等）に対して地域における介護施設として役割を担うべく受け入れを行いました。次にご家族面会においては、現状までのオンライン面会を継続しつつ、窓越し面会（声が聞こえやすい環境）を実施しております。ガラス扉越しではコミュニケーションが取りづらい事を課題として職員間で環境を作りました。

2つ目は、日々のご利用者様の状況を知って頂く為に、面会の際などに日々の記録状況の配布（電子介護記録Ｃ－レポ上より）により、日々の様子や体重の変化などを知って頂くツールとして活用しております。また、ユニットケア独自の各ユニット担当制を活かすべく､各ユニットでのイベント状況や、ご利用者様の表情などを知って頂くために、毎月ご家族様へ写真の送付を行いました。

年度考察として、年末の12月期～3月期にかけては、当施設でも初となる新型コロナウイルスの発生とクラスターの状況と対峙する機会にもなりました。世間的な大流行の中で当施設も例外ではありませんでした。しかし、この度のクラスター発生の経験と、対応した知識は貴重な体験となりました。新型コロナウイルスを恐れるのではなく、共存していくために対応することができるのだという自信に繋がったと考察しております。

最後に、新年度より新型コロナウイルスの位置づけが新たな局面になり、より一層介護施設での対応が当たり前に求められていく環境となります。今回の対応の実績と経験及び知識を次年度の運営に役立てていきたいと考えております。今後とも当施設の運営に地域の皆様からのご助力をお願い致します。

第一部

7．部門別実績報告　博友会

フロイデ総合在宅サポートセンター友部

佐藤 伸

笠間市認知症カフェ事業

笠間市元気すこやか教室

笠間市わくわく脳元気教室

【概要】

2022 年度フロイデ総合在宅サポートセンター友部は、『フロイデひたちなかメディカルプラザ開設に向けた準備』『フロイデケアタウンごとの地域包括ケアシステムの推進～生活を支える支援・持続的で多様な通いの場の拠点作り～』『ダイバーシティ＆インクルージョンへの実践』『業務の細分化と人材育成』という部門方針のもと実践いたしました。

【取り組み】

地域包括ケアシステムの推進といたしましては、地域住民を対象とした「オレンジカフェ」（認知症カフェ）や「わくわく脳元気教室」「フロイデ元気すこやか教室」「認知症地域推進事業」の開催で理学療法士、健康運動実践指導者、介護福祉士、栄養士、歯科衛生士等の派遣を行い地域の方との関係構築に努めました。

人財育成・教育への取り組みとしまして、毎月の事業所内勉強会の他、各種研修会へ積極的に参加し専門職としての知識・技術の向上を図りました。

フロイデ友部デイサービスセンターでは、感染予防対策の徹底により感染症の大規模発生を防ぐことが出来ております。サービス面においてリハビリ機能に特化し、理学療法士や健康運動実践指導者など専門スタッフを中心に、軽度者から中重度者まで、様々な運動をサービスに取り入れ、ご利用者様の在宅でのサポートに繋がる活動を行って参りました。年間利用者総数 10,462 名（達成率 100.8%）の実績でした。

看護小規模多機能ホーム友部ではご利用者様の多彩なニーズに対応できるようご本人様だけではなく、ご家族様や医療機関、その他関係機関と連携し、切れ目のない医療介護サービスのネットワーク構築を図り、サービスの提供を行いました。看護小規模多機能の通い・泊まり・訪問介護・看護の 3 つを組み合わせた在宅復帰・在宅支援サービス・終末期の方への支援について改めてご理解をいただき、新規ご利用者様の獲得に努めました。年間利用者総数は 9,996 名（達成率 94.4%）の実績でした。

フロイデ友部訪問看護ステーションでは、各医療機関や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所と密に連携を図り、24 時間 365 日の在宅支援を行い、医療依存度の高い方でも住み慣れた地域で安心して在宅療養が可能となるよう支援を行って参りました。年間利用者総数は 6,634 件 (達成率 117.3%) の実績でした。

フロイデ友部定期巡回サービスでは、笠間市にお住いの要介護高齢者に対し、介護・医療で連携し医療機関や居宅介護支援事業所と密に連携し、切れ目のない医療介護サービスのネットワークを構築し、24 時間 365 日の在宅支援を行って参りました。年間利用者総数は 1,751 件（達成率 38.2%）の実績でした。

フロイデアシストハウス友部では、関係機関と連携し、医療介護サービスのネットワーク構築と共に地域包括ケアシステムの推進、感染症や災害への対応力強化を図りながら地域連携拠点としての機能が果たせるよう支援を行って参りました。年間利用者総数は 7,135 件（達成率 97.5%）の実績でした。

今年度も各事業感染症や災害への対応力の強化を図りながら、安心してご利用していただける事業所作りと職場内環境の見直しを行い、働きやすい事業所作りに努め、目標達成に向けて職員一丸となって取り組んで参ります。

第一部

7. 部門別実績報告　博友会

フロイデアシストハウス大宮

井坂 直人

【運営方針】

入居者様が安心して過ごすことができる住まいの環境提供、生きがい、楽しみをもち生活できるよう支援して参ります。また、他職種、関係機関との連携を強化し必要に応じた介護、福祉サービス等を円滑に利用できるよう生活の助長、社会的孤独感の解消、心身機能向上を図り生活して頂けるよう努めて参ります。

【部門目標】

・地域包括ケアシステムの推進～ with コロナ禍の日々の生活を支える支援～
・いきがいづくりに繋がる環境整備と 24 時間安心して生活できる環境整備
・業務の効率化と人材育成

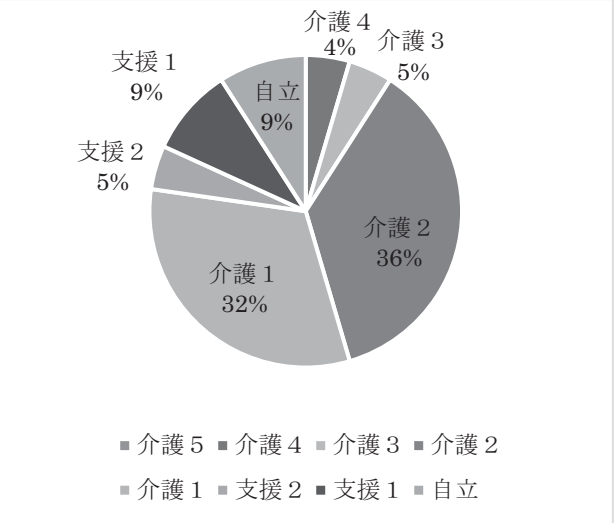
【活動報告】

上記の 3 つの部門目標を掲げ活動して参りました。事業実績は目標（満室）を目標に稼働率 99.9%でした。

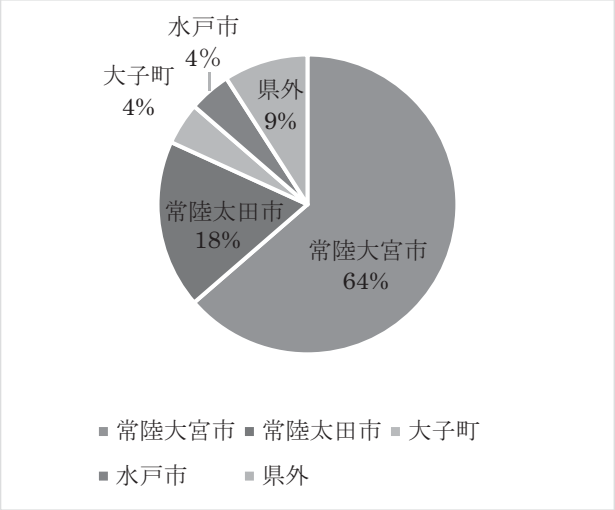
入居者様に関しては 70 歳代から 90 歳代と幅広い御年代、介護度別では自立から介護 4 の方が入居されております。（資料 1）地域別では常陸大宮市内を中心に隣接市町村、県外からの入居者様が入居されており（資料 2)、入居理由としては独居生活に不安がある方や病院から退院の際、自宅の環境での生活に不安のある方などでした。また、入居されている方の希望、状態に合わせたサービスの提案、関係機関との連携を強化し、在宅サービスを利用することで安心して生活できるよう対応して参りました。また、感染症対策で外出に制限がかかる中、外出の困難な方へ買い物支援や事業所内の販売コーナーを増設し、気軽に生活用品、介護用品等を購入できるよう環境整備を行いました。(資料 3)その他、業務の見直し改善、人材育成としては年間教育計画をもとに計画的に事業所内研修会を行い、各職員のスキルアップを図って参りました。

今後も入居者様が「安心」「快適」「楽しみをもって」生活が送れるよう関係機関との連携を強化しサービスの提供、支援して参ります。また個々に合わせたサービスの提案、提供、職員の質の向上を図るとともに、より一層、地域との関りを大切にして地域との信頼関係の構築ができるよう努めて参ります。

資料 1（介護度別）



資料 2（入居市町村別）



資料 3（事業所内販売コーナー）

第一部

7．部門別実績報告　博友会

フロイデ工房なか

主任　吉川 裕子

障がい者就労継続支援事Ｂ型事業を、児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業「ロッティなか」との複合多機能型施設として４年が経過致しました。

2022年６月から定員を10名から16名に増加し、安定した御利用をしていただいております。

継続支援Ｂ型事業につきましても、就労移行支援事業と同様、ご利用される方の就職の実現は大きな目標ですが、新型肺炎コロナウイルスの影響により就職活動は縮小、障害者雇用は非常に厳しく、内職作業においても企業の撤退により受注高の減少がありました。社会環境が大きく変化する中でも事業所の役割として、ご利用される方に工賃を支払い、一般就労が困難な方へ、持続的に働く場所を提供することが求められます。このため作業種類、作業量の確保も大きな課題でありました。法人内部の環境整備のほか、企業からの委託を受け、プラスチック製品の研磨作業、電動工具の部品の袋詰めなどの作業のほか、本年度は官公庁より樹木伐採・剪定・除草作業を新たに受注し、年間を通して安定した作業ができたこと、ほとんどの方が欠席することなく、結果として、平均工賃が月額２万円を超えることが出来ております。

コロナウイルスの影響により、若干の変更がありますが、過去同様に前年度の工賃の平均月額により段階的に加算が区分され、より多くの工賃を支払った事業所が収益を確保でき評価されているため、今後もより多くの工賃の支払いが可能となるよう「フロイデ工房しろさと」と連携し､効率的作業の実施、作業量の確保、利用率維持に努めるとともに、ご利用される方の就労スキルの向上と就職の実現を目標に取り組んで参ります。

第一部

7．部門別実績報告　博友会

ロッティなか

小田部 清枝

児童発達支援･放課後等デイサービス事業所「ロッティなか」は児童発達支援事業所が６年目、放課後等デイサービスは３年目、引き続いて就労継続支援Ｂ型事業「フロイデ工房なか」と併設しての事業運営を行っております。

就学前・小学校・中学校・高等学校に通うお子様を対象に、自立支援と日常生活の充実のための支援を行う事業運営を行っております。社会福祉法人博友会・育成就労支援グループの運営として、未就学時期から就学期、さらに卒業後は就労支援事業まで一環した福祉サービスの提供ができる体制が整いました。

本年度におきましても、新型肺炎コロナウイルスの制限は緩和傾向になってきたものの、影響は諸所にみられ、御利用者様の通う教育機関が長期休業の延長、臨時休園や休校となるなど、日々の状況が目まぐるしく変化する年度で、御利用者様の御家族の心労も大きかったと感じております。そのような状況の中で御家族から信頼いただき、少しでもお役に立てるサービスの提供が出来たことは大変有難いと感じております。年間計画、月案、週案、日案を立案し、季節、慣例行事の実施、イベントの開催、遠足、畑での野菜の栽培収穫、調理など、ご利用されるお子様が様々な体験ができるようプログラムを構成し活動を展開しております。

また、自治体主催の未就学児支援プログラム事業にリハビリスタッフを派遣、療育訓練のサポートをさせていただいており、2022年度においては、ひたちなか市派遣事業も継続され。開催の増加が計画されております。営業・広報活動も継続し、SNS等のソーシャルメディアの活用、施設の内覧会を毎月実施し、集客活動に努めております。今後もこれまでの営業活動を強化し、施設での活動をより多くの方に発信して安定した事業の運営に努めて参ります。

第一部

8．各委員会活動報告　博仁会

接遇向上委員会

SFG(志村フロイデグループ)全体活動としてコア6を中心に運営しておりますが、サンクスカード委員会も3年目を迎え、教育・環境・調査・広報・サンクスカード委員会が連携しながら活動を展開しております。

外部審査員の民生員の方にも参加していただいております環境美化コンクールもオンラインで3回実施しております。両面が重要と他部門による毎月の環境パトロールの継続実施、また、調査委員会では外部の患者様やご利用者様、また職員自身の自己チェックも兼ねたアンケートも継続して実施しております。

広報委員会は、毎月の教育委員会が考えます標語やロールプレイングを広報し、また、接遇新聞には、各部署のマイスターの紹介や各部署でのロールプレイングの様子も掲載し、法人全体の取り組みを掲載しています。

良いサービスは善い接遇からとの合言葉で接遇委員会活動を行なっています。

【活動実績】

・教育委員会

接遇委員会教育委員では、毎月の接遇標語の作成とロールプレイングの立案を行っております。法人全体での接遇向上のために前年度と同様に接遇向上大会を年3回計画し、『良いサービスは善い接遇から』と全体での意思統一を図りました。

今年度は10月に全体の接遇のレベルをあげる事を目標に、言葉使い・身だしなみ等基本的なところを指導する接遇全体研修を開催しました。

コロナウイルスの蔓延防止のため、WEBを活用しての接遇研修を実施しました。

1. 接遇向上大会開催

第45回　6月

※コロナウイルス蔓延防止のため、各部署にて身だしなみのチェックシートを用いて実施

第46回　接遇全体研修

日　時：10月21日（金）18：00～19：00

会　場：ＳＣ大宮　カフェ「エルマウ」

内　容：ワークシートを使用し講義及びグループワーク担当者依頼

参加者：博仁会　216名　博友会　65名　計281名

第47回　接遇全体研修　2月

※コロナウイルス蔓延防止の為、中止

2. 接遇標語・ロールプレイング作成

4月(No224)～3月(No248)

・調査委員会

調査委員では利用者様・ご家族様向けのアンケートによる調査と職員向けのアンケートを行い、接遇の状況を確認し、報告させて頂いています。日々の接遇向上に向けての取り組みができているのかを確認しながら接遇向上に努めていきます。

1.　7月　利用者様向アンケート実施

2.　11月　職員向けさんケート実施

・環境整備委員会

1．環境パトロール

・定期的な環境パトロール実施

・評価票の作成と見直し

・5月　フロイデ総合在宅サポートセンター城里
　ロイデ総合在宅サポートセンター水戸河和田

・6月　水戸メディカルプラザ
　フロイデ総合在宅サポートセンター水戸けやき台

・7月　フロイデ工房なか
　フロイデ総合在宅サポートセンターひたちなか

・8月　フロイデ総合在宅サポートセンター友部

・9月　ドイツ館一般病棟、ドイツ館エーデルワイス病棟

・10月　療養病棟チロル館、リハビリセンター

・11月　スイス館、在宅部門・管理部

・12月　老健事務・営業・地域包括、栄養、診療サービス課・総合相談センター

・1月　外来

・2月　老健入所科、デイケア

2. 環境美化コンクール

・第30回（5月21日）

最優秀賞　老健入所科

優秀賞　　地域医療連携センター

優秀賞　　緩和ケア・エーデルワイス病棟

・第 31 回（9 月 10 日）
最優秀賞　大宮フロイデドルフ
優秀賞　　御前山デイサービスセンター

・第 32 回（3 月 18 日）
最優秀賞　フロイデ総合在宅サポートセンター大宮
優秀賞　　機能訓練センター　フリューゲル

・広報委員会

1.　接遇新聞発行

第 25 号（6 月 1 日）　第 26 号（9 月 1 日）
第 27 号（12月 1 日）　第 28 号（3 月 1 日）

①　私の部署の接遇マイスター担当部署
6 月：常陸大宮市南部地域包括支援センター
9 月：フロイデ総合在宅サポートセンター友部
12月：大宮フロイデハイム老健入所科
3 月：ロッティなか

②　各部門の接遇ロールプレイの様子担当部署
6 月発刊：フロイデドルフ
9 月発刊：水戸メディカルプラザ
12月発刊：フロイデガルテン
3 月発刊：回復期リハビリ病棟科

2.　接遇標語ポスター作成担当部署

4 月：地域医療連携センター
5 月：フロイデドルフ
6 月：栄養科
7 月：療養病棟科
8 月：リハビリ事業部
9 月：フロイデ総合在宅サポートセンター城里
10月：地域医療連携センター
11月：フロイデドルフ
12月：栄養科
1 月：療養病棟科
2 月：薬剤科
3 月：フロイデ総合在宅サポートセンター城里

3. 接遇標語・ロールプレイ配信

No.236 ～ 247

接遇新聞 Welcome 第27号 No.1
2022年12月1日
発行：接遇向上委員会
編集：広報委員

令和4年度全法人接遇向上研修

【開催日】
令和4年10月21日（金）

【開催方法】
オンライン開催

環境美化コンクール結果発表

★最優秀賞「大宮フロイデドルフ」

（審査員からのコメント）
・コロナ禍において外出できない中でも楽しみが作れるように工夫されている。
・五感を生かし、豊かな生活を送れるように工夫されていて素晴らしい。
・利用者に対する思いに溢れている。継続した改善が評価されている。
・誰も暮らした環境づくりに取り組んだことがうかがえた。今後も様々な場所で喜ばれる演出を期待。
・外出ができないための改善に沿っている。くつろぎの場の出来がいい。

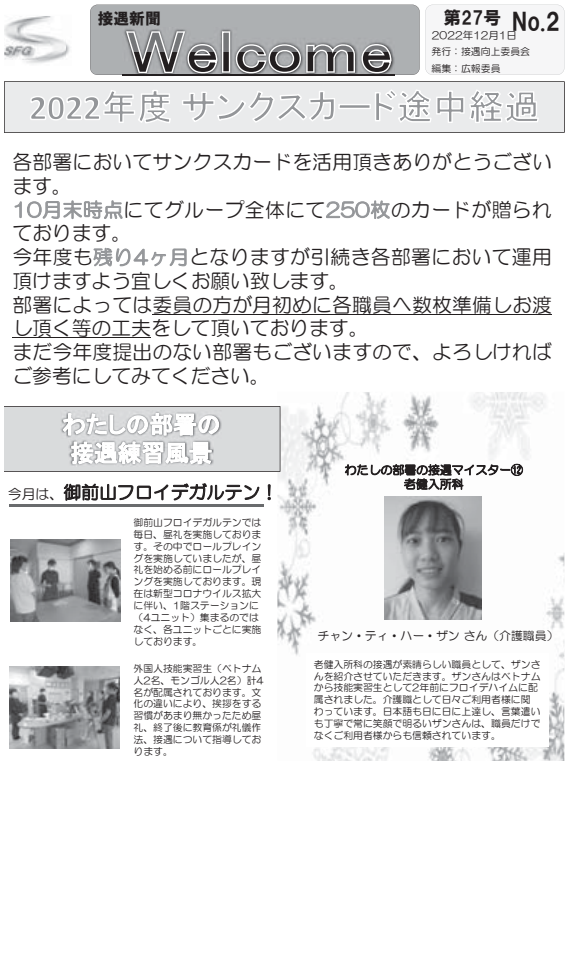
★優秀賞　「御前山デイサービス」

（審査員からのコメント）
・利用者の安全やリハビリのしやすさに配慮された環境づくりができていると感じた。
・利用者の目線を大切に工夫していて素晴らしい。安全な生活環境づくり、自立支援に役立っている。　など

★コンテスト実施日
令和４年９月１０日（土）
９時～１３時（予定）

★対象部門 ６部門
①御前山デイサービス
②茨城北西看護専門学校
③ガルテン事務在宅栄養
④ガルテン施設
⑤大宮フロイデドルフ
⑥グループホーム桂

★審査員 8名(民生委員５名・法人スタッフ3名)


接遇新聞 Welcome 第27号 No.2
2022年12月1日
発行：接遇向上委員会
編集：広報委員

2022年度 サンクスカード途中経過

各部署においてサンクスカードを活用頂きありがとうございます。
10月末時点にてグループ全体にて250枚のカードが贈られております。
今年度も残り4ヶ月となりますが引続き各部署において運用頂けますよう宜しくお願い致します。
部署によっては委員の方が月初めに各職員へ数枚準備しお渡し頂く等の工夫をして頂いております。
まだ今年度提出のない部署もございますので、よろしければご参考にしてみてください。

わたしの部署の接遇練習風景

今月は、御前山フロイデガルテン！

御前山フロイデガルテンでは毎日、昼礼を実施しております。その中でロールプレイングを実施していましたが、昼礼を始める前にロールプレイングを実施しております。現在は新型コロナウイルス拡大に伴い、1階ステーションに（4ユニット）集まるのではなく、各ユニットごとに実施しております。

外国人技能実習生（ベトナム人2名、モンゴル人2名）計4名が配属されております。文化の違いにより、挨拶をする習慣があまり無かったため昼礼、終了後に教育係が礼儀作法、接遇について指導しております。

わたしの部署の接遇マイスター⑰
老健入所科

チャン・ティ・ハー・ザン さん（介護職員）

老健入所科の接遇が素晴らしい職員として、ザンさんを紹介させていただきます。ザンさんはベトナムから技能実習生として2年前にフロイデハイムに配属されました。介護職として日々ご利用者様に関わっています。日本語も日に日に上達し、言葉遣いも丁寧で常に笑顔で明るいザンさんは、職員だけでなくご利用者様からも信頼されています。

第一部

8．各委員会活動報告　博仁会

医療介護安全推進委員会

【目的】

医療法人博仁会における医療事故を防止するための必要な啓発を図るとともに、医療事故が発生した場合の適切な対策を協議する。

【活動内容】

医療相談業務
医療介護安全管理推進会による研修会の企画と実施
インシデント・アクシデント報告書の集計・評価・分析
事故発生時の状況把握、対応
事故後の改善策の検討・実施・評価
各部門における医療安全対策の実施状況の評価に基づき、医療安全確保のための
改善結果・効果を記録する
医療安全活動実績の記録
医療安全地域連携（医療安全ラウンド）

【委員会　開催状況】

毎月1回　開催　2022年度　12回　開催
4/5、5/9、6/7、7/5、8/12、9/12、10/13、11/11、12/5、1/10、2/7、3/14
医療安全地域連携　ラウンド・カンファレンス（常陸大宮済生会病院と連携）12/14
医療安全ラウンド（5S活動）10月～11月

インシデント・アクシデント報告状況

年間：952件　　月平均：79件

レベル0	15件
レベル1	133件
レベル2	658件
レベル3a	134件
レベル3b	10件
レベル4	2件
レベル5	0件
レベル6	0件

発生部門別報告書数

一般病棟	191件
老健入所	130件
緩和ケア病棟	75件
コミュニティケアサービス	186件
外来	10件
フリューゲル	14件
チロル館	46件
訪問リハビリ・デイケア	0件
スイス館	169件
医師	0件
リハビリ部	80件
画像検査	2件
薬局	26件
診療サービス課	0件
栄養科	17件
連携室	1件

＊重複あり

【医療介護安全推進大会実績】

コロナ禍に伴い　オンラインによる研修
2/20～3/20
学研e-ラーニング（全職員対象）
○磨けコミュ力！医療安全のためのコミュニケーション
○チームの力で転倒・転落を予防する
医療安全研修案内情報提供（個人希望参）
新人・新入職員研修

【活動評価】

コロナ禍であり、集団研修はできなかったが、e-ラーニングでの研修をすすめて、医療機器、医療安全について、認識が深められた。医療安全の取り組みは、医療にかかわるすべての人が対象であり、リスクは常に身近なところにあるという意識づけをしていくことが必要である。また、インシデント事例を共有していくことが大切であり、来年度はリンクナースの整備をと安全推進を行っていく。

【インシデントアクシデント報告書数】

4 月	48 件
5 月	36 件
6 月	40 件
7 月	56 件
8 月	30 件
9 月	30 件
10月	36 件
11月	44 件
12月	33 件
1 月	45 件
2 月	29 件
3 月	31 件

年間 458 件　月平均 38.2 件

【転倒転落報告書数】

4 月	51 件
5 月	38 件
6 月	52 件
7 月	37 件
8 月	31 件
9 月	31 件
10月	29 件
11月	37 件
12月	51 件
1 月	61 件
2 月	41 件
3 月	35 件

年間 494 件　月平均 41.2 件

第一部

8．各委員会活動報告　博仁会

感染対策委員会

感染対策委員　専任講師　小倉 十三子

感染対策小委員会の様子

水戸医療センター感染管理認定看護師のラウンド

【活動】

1. 月１回の委員会の開催
2. 年２回以上の全職員を対象とする講習会の開催による職員の啓蒙
3. 毎月、院内の病原菌分離状況と染状況の報告
4. アウトブレイク時の迅速な対応
5. 院内の感染症発症状況の情報公開
6. 職員の安全管理と職業感染対策
7. 感染対策に関する講習会・研究会への参加
8. ICT メンバーによる病棟ラウンドとミーティング
9. 経済性にも配慮した感染防止のため、機器、物品、薬品等の変更
10. 新新型コロナウイルス感染症の病院対策本部と合同ミーティング参加
11. 各施設感染ラウンド実施と報告

【目標】

① 新型コロナウイルス感染対策予防策の徹底
② 感染対策向上加算２算定による新型コロナウイルス感染症病床受け入れ整備
③ 定期的なマニュアルの見直し

【取り組み事項・活動】

・4 月、5 月

全職員の手洗いチェック実施と、個人防護具着脱チェックをおこない職員間の周知を実施する。同時に、新型コロナウイルス感染症陽性者受け入れマニュアル作成、一般病棟 3F に１床、休床２床、簡易陰圧装置設置、医療備品調整、受け入れシミュレーションを診療部、診療サービス課、外来科、一般病棟、画像センターと実施し対策共有。

・6 月

新型コロナウイルス感染陽性患者受け入れを実施。受け入れ動線の確認を水戸医療センター感染管理認定看護師ラウンド実施する。

・7 月

職員の出勤停止解除目安周知。新型コロナウイルス感染症クラスター病棟ラウンド。

・9 月、10 月

標語から感染ポスターへ変更をおこない、職員へ周知。「院内感染対策指針・アウトブレイク指針」内容一部変更。

・10 月

新型コロナウイルスとインフルエンザ感染研修計４回実施、491 名参加。保健所立ち入り検査にて感染対策説明。

・11 月

ケアマネジャー連携の会参加、常陸大宮済生会病院と当院の新型コロナウイルス感染症の取り組み事例一般病棟科長小林さん発表。

・その他

各病棟月々手指衛生回数の平均値報告
毎月薬剤耐性菌検出報告・一般病棟抗菌薬使報告
年４回水戸医療センターと地域感染制御ネットワークカンファレンス WEB にて参加
毎週土曜日病院内感染ラウンド実施
SFG 感染ラウンド実施（大宮エリアと水戸エリア）
新型コロナウイルス感染症の病院感染対策本部と ICT 合同ミーティング月に２回参加
毎週の火曜日 ICT ミーティング

第一部

8．各委員会活動報告　博仁会

褥瘡対策委員会

【紹介】

疾患の治療や療養の過程で低栄養状態である方、脳血管疾患や廃用の進行により自力での体位変換ができない状態の方、終末期の高齢者や長期間寝たきりの方。これらの方の皮膚は脆弱な状態になりやすく、わずかな圧迫やずれ等の刺激でも容易に褥瘡を発生し、更には悪化することがあります。

当院の褥瘡対策委員会では、各病棟の事例をもとに効果的な褥瘡の発生予防や早期治癒のため対策を検討したり、勉強会により褥瘡対策ケアの質の向上を図る等、ご利用者様に安心して治療・療養をしていただくために活動しています。

【活動目的】

⑴　事前の予防により、患者様、ご利用者様が日常生活においてよりよい生活をお送りできる。

⑵　褥瘡の早期発見、早期対応に努め、患者様が本来の疾患の治療に専念できる。

以上の2点においての対策を検討し、さまざまな視点から討議しています。

【目標】

○褥瘡予防に対する知識、又他職種共同によるケアの質を向上させる。

○皮膚障害の早期発見、早期介入を定着させ、褥瘡発生0件を目指す。

【年間活動】

4月：各部署前年度の反省、今年度の目標　症例報告（ドイツ・チロル）

5月：症例報告（ドイツ・緩和ケア・チロル）　薬剤使用量報告

6月：症例報告（ドイツ・チロル・緩和ケア）

7月：症例報告（ドイツ・チロル・緩和ケア・スイス）勉強会報告（スイス館・訪問看護）

8月：症例報告（ドイツ・チロル・スイス）勉強会報告（薬剤科・外来）

9月：症例報告（ドイツ・チロル・緩和ケア・フロイデ•ガルテン）勉強会報告（チロル•栄養科）

10月：症例報告（ドイツ・チロル・フロイデ入所・緩和ケア・ガルテン）勉強会報告（リハビリ科・フロイデ入所）

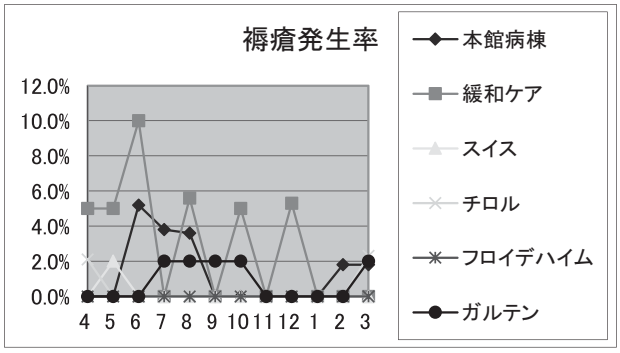
11月：症例報告（ドイツ・チロル・フロイデ入所・訪問介護）勉強会報告（フロイデ通所•サポートセンター山方）

12月：症例報告（ドイツ・チロル・フロイデ入所・訪問介護）勉強会報告（ガルテン・ドルフ・ケアプランセンター）

1月：症例報告（ドイツ・チロル）勉強会報告（ドイツ・緩和ケア）

2月：症例報告（チロル・スイス）

3月：症例報告（ドイツ・チロル・スイス）来年度の目標



【内容】

褥瘡の基礎知識習得や写真による比較、DESIGN- Rによる評価を定着させるために、R4年度も前年に引き続き毎月の症例検討と勉強会を行いました。

また、11月24日、29日、12月8日と3日間に渡りオンラインにて開催された第11回　褥瘡対策研究会ではモルテン様によるオスカー多機能マットレスの説明、口腔ケア、移乗•排泄ケアを行いました。

自分の力で寝返りが困難な方、人による体位変換が受けることが出来ない方が「自動体位変換機能」と「体位指定機能」を使い、4つのポジショニングセルで人の手に近いやさしい体位交換を行うことが出来ます。

褥瘡の予防、ケアは介護士から医師、看護師他、多職種での情報交換を行うことが必要となってきます。褥瘡に対しては各部署とも同じようなリスクを抱えています。毎月、委員会の際に報告される症例に対しては委員全員で効果的な対策を検討するということで、今後に活かせるようにしてきました。褥瘡対策委員会では、医師、看護師はもちろん、栄養科、リハビリ科、薬剤師等による、それぞれの観点から意見交換を行い、患者様に向き合って褥瘡の改善に努めていきます。

【まとめ】

当委員会では、西村医師をはじめとした博仁会・博友会の各職種のスタッフが「褥瘡」という課題に取り組むことで、スキルアップに努めています。当院の褥瘡の発生数は減少していますが、低栄養状態の高齢者や終末期の方の入院、入所前からの重症な褥瘡症例の報告は増えています。様々な視点から褥瘡対策を考えることで治癒に繋げていくことも重要ですが、安楽な体位の検討等、QOLの維持向上を考慮していくことも今後の課題となります。私たちは、褥瘡状態のみでケアを検討するのではなく、患者様の全身状態とニーズから導き出したケアが提供できる病院を目指していきたいと思います。

第一部

8．各委員会活動報告　博仁会

看護部教育委員会

加藤 令子

【目標】

1. 感染対策に関する知識を充実させる
2. ラダー作成

感染対策に関する研修	4月	手洗い
	5月	手指消毒
	6月	手指消毒
	7月	手袋使用方法
	8月	ガウン着脱
	9月	感染対策委員会勉強会
	10月	感染対策委員会勉強会
	11月	インフルエンザ
	12月	感染予防対策
	1月	感染予防対策
	2月	PPE
	3月	感染予防対策最終チェック

新人看護職員研修	4月	集合研修
	5月	摂食嚥下
	6月	基礎看護技術
	7月	リハビリ看護
	8月	看護必要度
	9月	振り返り
	10月	褥瘡取り組み
	11月	危篤時の看護
	12月	技術確認
	1月	技術確認
	2月	技術確認
	3月	振り返り

ラダー作成	4月	基盤作成
	5月	
	6月	人事考課と連動
	7月	基盤完成
	8月	チェックリスト作成
	9月	
	10月	
	11月	
	12月	
	1月	看護部長確認
	2月	修正
	3月	完成

本年度は、感染対策のため状況に応じてビデオやオンラインで研修を実施しました。また、e‐ラーニングを導入し、基礎習得コース・中堅コース・看護共育コース・看護管理コース・重症度、医療・看護必要度コース、訪問看護コース、入退院支援・地域包括ケアコースなど幅広い分野から、制限なく視聴し自己研鑽につながる取り組みを開始しました。次年度はラダーを導入し、次のステップに行くために身につけるスキルを明確にして目標をもって学べる環境をつくり努めます。

第一部

8．各委員会活動報告　博友会

サービス向上委員会

医療法人博仁会・接遇向上委員会、社会福祉法人博友会・サービス向上委員会が一体化してSFG全体での委員会となり7年目の活動です。

全法人接遇向上大会、環境美化コンクール、接遇発表大会、顧客満足度調査、職員向け接遇アンケートを行っております。

【顧客満足度調査】

対　　象：社会福祉法人　博友会　全事業所御利用者様
対 象 者：2022年4月1日～6月30日の間に利用実績のある御利用者様
実施時期：2022年6月

（評価・改善）

サービス改善への貴重なご意見をより多く得るためにも、回答率の低い部門に関しては、アンケートの配布・回収方法など検討し、継続して実施していく必要があると考えます。

いただいた御意見について、真摯に受け止め、部門間での情報の共有と職員への水平展開を実施し、改善に努めてまいります。

職員接遇アンケート

対　　象：社会福祉法人　博友会　職員全員
実施期間：2022年12月
①あいさつ・笑顔　②動作　③言葉遣い　④電話対応について自己判定の調査を実施

（評価・改善）

各部門において結果の周知と改善を実施しております。

環境美化コンクール

第31回
実 施 日：2022年9月10日(土)
テ ー マ：「清潔で心地良い環境づくり」
対象部署：御前山デイサービス
ガルテン事務在宅栄養
ガルテン施設
大宮フロイデドルフ
グループホーム桂

第32回
実 施 日：2023年3月18日(土)
テ ー マ：「清潔で心地良い環境づくり」
対象部署：サポートセンター美和
アシストハウス大宮

（評価・改善）

新型コロナウイルス感染予防の為、両会共、ZOOMを使用してのオンライン審査となりました。

それぞれのテーマに向け、各部署工夫を凝らし、各事業所それぞれ思い思いの環境美化を実施することができました。このコンクールを機会に年間を通じてテーマを感じ取れるような環境作りの工夫、事業所内の清掃・整理・整頓を心掛けてもらいたいと考えております。

【苦情報告】

2022年度苦情報告は上期2件、下期2件、計4件の苦情がありました。

苦情に関する是正処置は終了しています。

（評価・改善）

SFG全体にて委員会活動を行っております。

法人内での意識掛けをはじめ、職員の教育などより良いサービスが提供出来るように努めて参ります。

確認の怠り、態度、安全運転に対する苦情がありました。

確実な確認、確実な伝達、適切な接遇心掛けを職員へ再度周知徹底し、再発の防止に努めました。

いただいた御意見について今後も真摯に受け止め、より良いサービスを提供してまいります。

第一部

8．各委員会活動報告　博友会

感染・褥瘡予防委員会

感染・褥瘡予防委員会は

1）施設内の感染予防に努める。

2）各部署に、常に必要な情報を提供し感染症発生時に的確な対応が出来るようにする。

3）日常生活の上で感染症が発生しない環境を整え､職員の理解を深める。という目標を掲げ、利用者を守るため施設に感染症を持ち込まない事を基本に、全職員で感染予防に努めております。

【具体的活動内容】

職員に対する感染症の予防指導（年に 2 回感染症についての勉強会実施）

施設内で発生しやすい感染症の予防策や注意点を各部署に対して日常的に指導する。

医療法人博仁会の院内感染対策委員会と情報を共有し、施設に必要な情報を分かりやすく各部署に伝達し、感染予防に役立てる。

メディアによる全国的な情報や地域、他施設で発生した感染症などの情報提供を速やかに朝礼で行なう。

インフルエンザ・新型コロナウイルスに対する予防接種の完全実施。

【年間活動内容】

4 月～ 5 月：新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、年間を通じて感染対策実施強化・新型コロナワクチン接種に向けての準備

6 月～ 7 月：新型コロナウイルス予防接種実施（入所利用者・職員）
全職員対象に各部門で手洗い手技の実施

6 月：感染予防「食中毒について」の資料を配布し、全職員対象に各部署での勉強実施

7 月：全職員対象に各部署で手洗い手技の勉強会を実施。個人手洗いチェックの実施結果集計

8 月～10月：ガウンテクニックについて各部署にポスター配布（手洗い・防護具の着脱指導は継続実施）ゾーニングの確認、各事業所毎に新型コロナウイルス感染者発生時のシュミレーション実施

10月～12月：入所者・職員のインフルエンザ予防接種実施

1 月～ 3 月：新型コロナウイルス予防接種実施（入所利用者･職員）未接種者については、その都度病院と連携し実施
※新型コロナウイルス感染症、感染状況に応じて面会の一時中断・面会緩和を行った
褥瘡予防委員会　博仁会褥瘡予防委員会資料を褥瘡予防委員会にて配布、勉強会実施

【全体の活動評価】

私達のサービスの対象者のほとんどが高齢者であることから、集団感染に対する予防策を講じることは重要な課題です。職員自身が媒体者にならないように、手洗いや環境整備、更に新型コロナ・インフルエンザ予防接種の推進など、2022 年度も感染予防に対する職員教育に力を入れました｡結果として、今年度博友会全体でインフルエンザ・ノロ等の発症はありませんでした。

新型コロナウイルス感染症に関しては流行により各事業所にて感染はありましたが、マニュアルに基づいて早急な対応をした結果、大規模なクラスターは防ぐことが出来ました。

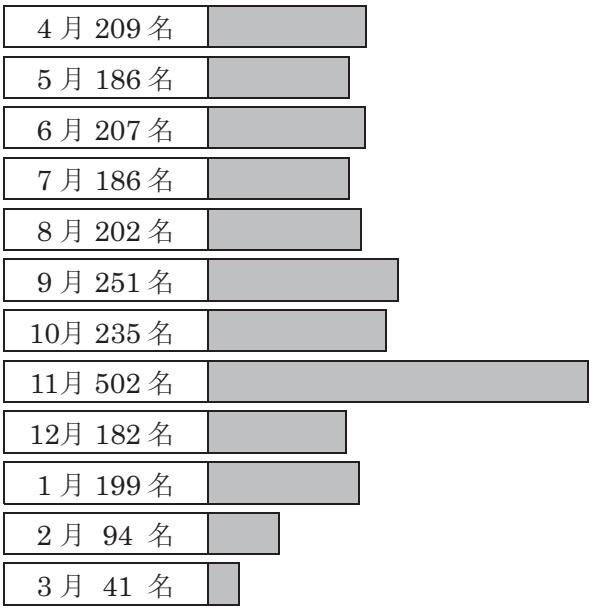
今後更に活動を強化し職員一人ひとりが感染予防を意識した対応が出来るよう啓発活動を推進し、又高齢者のケアについても、全てにおいて初期対応が重要であり、いち早く状態の変化に気づけるよう日々の関わりを大切にしていきたい。

第一部

8．各委員会活動報告　博友会

教育委員会

【月別勉強会参加者数】



職員勉強会参加者数延数：2,494名
（前年延数：1,614名）前年対比：154.5%

【部門別勉強会実数】

部門別	実施数	前年比
御前山フロイデガルテン	10	250%
通所系	10	143%
訪問介護	12	150%
訪問入浴	12	150%
事務SG	13	186%
栄養SG	11	100%
グループホーム桂	9	100%
フロイデ総合在宅サポートセンター美和	10	100%
フロイデ総合在宅サポートセンター城里	12	109%
就労・育成	12	200%
大宮フロイデドルフ	10	143%
フロイデ総合在宅サポートセンター友部	8	133%
アシストハウス大宮	9	129%
ケアプラン	8	133%

【まとめ】

2022年度より『教育実施状況表』を導入し部門別の勉強会実施状況や法定研修の実施有無を可視化することに繋がりました。権利擁護などの必須研修も全事業所実施できており、『教育実施状況表』の効果が確認できたので来年度以降も活用し、法人全体とスキルアップに貢献できるよう委員会を運営していきたい。

第一部

8．各委員会活動報告　博友会

地域広報委員会

【活動報告】

2022年度も、新型コロナウイルスの感染拡大が治まる気配は見せませんでしたが、各地域のイベントは少しずつではありますが、小規模での開催など増えて参りました。しかし、まだまだコロナ禍前と同様とはいかないため、各事業所が工夫したうえで専門職の派遣や、地域住民へのリハビリ体操のDVD配布等出来る事を実施して参りました。また、今年度御前山地区では、「なんでも相談窓口」の開設を行いました。まだまだ問い合わせは少ないですが、今後地域住民に広く知っていただき、地域住民の方々の悩みを解決できるような施設を目指し、地域包括ケア拠点化を目指すべく動いてまいる所存です。

今後も、新型コロナウイルスの流行はしばらく続くと思いますが､今年度実施してきたことを糧にし、また地域ニーズの収集を行う事で各事業所が地域包括ケア拠点として、地域住民の生活を支えられる事業所を目指し、取り組んで参ります。

【活動内容】

御前山フロイデガルテン
御前山フロイデガルテン秋祭り　中止 café fun garden 開催 なんでも相談窓口開設
大宮フロイデドルフ
大宮フロイデドルフ秋祭り　中止 家族会開催
グループホーム桂
しろさと町民まつり　中止 家族会開催
フロイデ総合在宅サポートセンター美和
北斗星への女子クラブ作品展示・販売 クデカフェ開催　氷之沢・高部地区
フロイデ総合在宅サポートセンター城里
しろさと町民まつり　中止 オレンジカフェ開催 健康教室開催
フロイデ総合在宅サポートセンター友部
シルバーリハビリ体操教室開催 オレンジカフェ開催 元気すこやか教室開催
フロイデアシスト　ハウス大宮
敬老会開催 常陸大宮市　市民運動会　中止

（一部抜粋）

第一部

8．各委員会活動報告　博友会

食事委員会

【活動内容】

4月	年間計画の作成
5月	デイリクエスト献立調査・集計
6月	デイリクエスト献立実施
7月	入所部門嗜好調査の検討・アンケート作成
8月	入所部門嗜好調査の実施・集計・分析
9月	入所部門嗜好調査結果公示・配布
10月	おやつアンケート実施
11月	入所リクエスト献立調査・集計
12月	入所リクエスト献立の実施
1月	在宅部門嗜好調査の検討・アンケート作成
2月	在宅部門嗜好調査の実施・集計・分析
3月	在宅部門嗜好調査結果公示・配布

＊毎月：喫食状況の把握

【入所部門嗜好調査】

＊実施日　2022年8月18日～8月24日
＊配布枚　回収119枚　回収率94%
＊対　象　御前山フロイデガルテン入所者・大宮フロイデドルフ入所者桂ＧＨ・サポートセンター美和ＧＨ
＊考　察　各事業所によって、ご利用者様の食事内容、嚥下機能が異なるため、それぞれの施設にあった食事を提供していかなければならない。嗜好調査を実施することで、その施設での問題点は何かを把握することができ、改善につなげることができた。

【在宅部門嗜好調査】

＊実施日　2023年2月11日～2月25日
＊配　布　411枚　回収345枚　回収率83.9%
＊対　象　御前山ガルテンデイサービス・サポートセンター美和デイサービス・サポートセンター城里デイサービス・サポートセンター友部•御前山配食サービスセンター•城里配食サービスセンター・小規模多機能城里・アシストハウス友部・看護小規模多機能友部
＊考　察　味、見た目などそれぞれの部分で不満もあるが、全体的には満足してくれている結果になった。個人個人嗜好が異なるため、全員が満足できる食事にすることは難しいのかもしれないが個別対応により、より多くのご利用者様に満足してもらえる食事を提供していけるよう努めていく。

【全体の評価】

食事の献立は、どこの施設でも統一となっているが、対象者はそれぞれの施設で異なっている。

自分の施設の結果だけではなく、ほかの施設の意見も参考にしながら、それぞれの施設と連携をとり、栄養サービスグループ全体でよりよい食事を提供していけるよう協力し合い食事を提供していく。

第一部

8．各委員会活動報告　博友会

業務改善委員会

	2022 年度	2021 年度	前年比
御前山フロイデガルテン	32件	53件	204%
栄養サービスグループ	38件	37件	109%
通所係	5 件	8 件	67%
訪問介護係	1 件	2 件	200%
介護支援Ｇ	10件	11件	69%
訪問入浴係	11件	0 件	0%
グループホーム桂	2 件	12件	86%
フロイデ総合在宅サポートセンター美和	3 件	0 件	0%
事務サービスグループ	30件	17件	57%
フロイデ総合在宅サポートセンター城里	4 件	11件	69%
就労支援	4 件	5 件	100%
大宮フロイデドルフ	13件	15件	47%
フロイデ総合在宅サポートセンター友部	35件	33件	94%
アシストハウス大宮	2 件	1 件	100%
健康管理グループ	4 件	4 件	200%
合計	194件	209件	92.8%

【活動報告】

業務改善提案件数は 194 件と昨年度比 92.8％の結果となりました。職員数に対して提案件数が少ない部門があるため、対象部門の委員と連携し提案促進を促し提案件数の増加を目指して参ります。また、業務改善により職場内環境の見直しと改善を図り、働きやすい事業所作りを行ってまいります。

第一部

8．各委員会活動報告　博友会

リスクマネジメント委員会

【ヒヤリハット件数報告】

ヒヤリ・事故総数　490 件（前年　534 件）

レベル	合計	前年合計	増減
レベル 0	317	289	28
レベル 1	92	158	▲ 66
レベル 2	68	87	▲ 19
合計	477	534	▲ 57

レベル	合計	前年合計	増減
レベル3a	6	8	▲ 2
レベル3b	0	1	▲ 1
レベル 4	9	4	5
レベル 5	0	0	0
レベル 6	3	0	3
合計	18	13	5

【評価】

全体のヒヤリハット提出件数は 477 件、事故報告は 18 件であった。前年度よりヒヤリハットの提出件数が減少、事故報告書の件数が微増した。

ヒヤリハット提出件数の減少についてはレベル 0 専用様式の活用と、KYT 等の注意喚起により全体的にリスクがコントロールされる事例が増え、提出件数が抑えられたと考えられる。反面事故報告書に関しては微増していることに関しては利用者層が全体的に高齢化したことによる急変等のリスクを持つ利用者が増えつつあることが関連していると考えられる。今後も利用者層の高齢化はさらに進むことが予測されるため全体的にリスクは増えることが想定されれる。一層のリスクの把握、優先順位を付けての対応が必要となり職員へ求められるスキルも相対的に上がっていくため今後も委員会としての注意喚起や再発防止策の妥当性評価など全体に関わっていく必要がある。

【次年度対策】

導入した KYT、施設ごとの報告会の評価を実施し、改善していく。引き続き、各部門のリスクマネジメント意識の向上を図っていく。

第一部

8．各委員会活動報告　博友会

防災管理委員会

【委員会活動】

6月	委員会活動について 委員長・副委員長選任
11月	地震想定における避難訓練 発電機使用説明
1月	職員緊急連絡通報訓練
3月	夜間想定避難訓練の実施 発電機使用説明

【消防訓練等】

施設	上期
御前山フロイデガルテン	11月25日
	火災避難訓練・ 消防用設備説明
グループホーム　桂	11月18日
サポートセンター　美和	7月25日
サポートセンター　城里	7月26日
サポートセンター　友部 アシストハウス　友部	7月21日
大宮フロイデドルフ	9月14日
アシストハウス大宮	下期に実施

施設	下期
御前山フロイデガルテン	3月30日
	火災避難訓練 消防用設備説明
グループホーム　桂	
サポートセンター　美和	3月13日
サポートセンター　城里	3月29日
サポートセンター　友部 アシストハウス　友部	2月16日
大宮フロイデドルフ	3月15日
アシストハウス大宮	3月15日

【教育活動】

各拠点で避難訓練時、防災設備に関する説明実施

【防火管理者の養成】

取得者なし

【その他】

実施日	内容
6月	日常自主点検チェック
	ポスター掲示
8月	発電機自主点検
9月	日常自主点検チェック
10月	ポスター掲示
12月	備蓄に関する確認、入れ替え実施
	ポスター掲示
	日常自主点検チェック
2月	ポスター掲示
3月	発電機自主点検

- コロナウイルスに伴い密を避けるよう避難訓練計画書を各拠点作成し実施しています。
- 避難訓練のマニュアルや手順を見直し災害時の対応が速やかに行えるよう努めました。
- 緊急連絡網の見直しを行い、通報訓練を実施しています。災害時速やかに連絡が出来るよう実施しました。
- 地震や豪雨などの災害発生によるサービス停止は、利用者の生命の危険や機能低下をもたらす恐れがあるため、災害時であっても命にかかわる最低限のサービスについては継続していく必要があり、事業継続計画（BCP）を作成し災害時の対応を具体化するように計画を作成し見直しを実施する。

第一部

8．各委員会活動報告　博友会

車両安全管理委員会

【交通安全啓蒙活動】

ポスター制作・アルコールチェックの実施

対象：博友会全部門

期間：2022 年 4 月～ 2023 年 3 月

内容：毎月、交通安全の標語を掲げた交通安全啓蒙ポスターを作成。

各部門へメールで配布し、目のつきやすい場所に掲示してもらうことで職員に交通安全やマナーに対する意識の向上を働きかけました。

評価：交通安全啓蒙ポスターを作成・掲示することで､日々行っている運転業務における｢安全・マナー」に対する意識の向上や、アルコールチェックの実施について全部門への周知徹底を図りました。
今後も啓蒙活動を継続し、交通事故 0 を目指してまいります。

事故分析

期間：2022 年 4 月～ 2023 年 3 月 (月 1 回の委員会開催時に検証)

内容：2022 年度の事故報告総数は 18 件 (前年比 +5 件) 自損事故 15 件、物損事故 3 件、人身事故は御座いませんでした。

評価：検証の結果、半数以上の事故が事前に確認を行う事で防止する事が出来た事故であり、再発防止策の徹底や、事業所・法人内での危険個所などの共有出来ていない事例が御座いました。法人車両を運行する者は必ず運行者のマグネットの装着を行う事を周知徹底し､交通法規の遵守及び安全運転、マナー向上を継続し、より一層の交通事故防止の啓発活動に注力して参ります。

【事業所別事故報告数】

事業所名	保有台数	事故報告件数	事故率
御前山フロイデガルテン	1 台	0 件	0
御前山デイ・配食	11台	5 件	0.45 ／台
フロイデグループホーム桂	1 台	0 件	0
大宮フロイデドルフ	2 台	0 件	0
就労支援 (ロッティなか含)	15台	2 件	0.13 ／台
サポートセンター城里	12台	2 件	0.16 ／台
サポートセンター美和	8 台	5 件	0.62 ／台
サポートセンター友部	12台	1 件	0.08 ／台
ごぜんやま訪問介護	5 台	1 件	0.2 ／台
介護支援 G・訪問入浴	4 台	1 件	0.25 ／台

第 二 部

第二部

1．学術活動

(1) 理事長執筆取材講演実績

○ 執筆・インタビュー

1 学会企画シンポジウム２　コロナ禍・超少子高齢人口減少時代､持続可能へのチャレンジ！
～地域医療構想調整会議における、ダウンサイジング・再編・連携・統合の検証～
全日本病院協会雑誌　　2022年３年31月発行　Vol.32-2　頁90～99

2 識者の眼　＃2022年度診療報酬改定〈後編〉　＃看護職員処遇改善　＃リフィル処方箋
「2022年度診療報酬改定で驚いたこと」
日本医事新報　　2022年４月２日　No.5110　頁58

3 座談会　2022年度診療報酬改定　2022年度診療報酬改定　検証と対応策を探る
急性期・救急医療には手厚く、回復期・慢性期には厳しい改定
病院羅針盤　　2022年４月15日第13巻　第209号　頁５～17

4 特別座談会　●井内努・厚生労働省保険局医療課長を迎えて
2022年度診療報酬改定を振り返る
機能分化・連携の流れのなかで常に役割再考を
日本医療法人協会ニュース　　2022年６月１日　№456号　頁14～21

5 TREND
日本地域包括ケア学会が目指す地域包括ケアシステムの構築と地域医療構想における中小病院の役割
月刊　保険診療　　2022年６月　第77巻・第６号（通巻1587号）36～39

6 巻頭特集　2024年を視野の今から取り組む！地域で必要とされる「オールラウンド型病院」をめざせ
共生社会を支える〝生活応援法人〟へ
最新医療経営　PHASE3　　2022年６月10日発行　頁22～23

7 巻頭言　２期目の茨城県医師会会長就任に当たって
茨城県医師会報　　2022年８月　№824　頁３

8 Promotion　地域医療　再編の現場から
第24回　地域包括ケアシステムで問われる中小病院の役割
日本在宅療養支援病院連絡協議会が始動
地域医療・介護の調整役として機能強化へ
Monthly　ミクス2022　８　　2022年８月１日発行　第50巻９号　頁24～26

9 追悼　回復期リハビリテーション病棟生みの親　石川誠先生を偲んで
偉大な先達、石川誠先生を偲んで
日本リハビリテーション病院・施設協会誌　　2022年［夏］2022年８月発行　第184号頁28

10 特集　在宅医療Part１　2040年の地域医療の大きな柱となる在宅医療！！
『地域包括ケアの実現に求められる在宅医療の整備拡充とその将来』
マンパワーを持つ在支病が周辺の医療機関をサポート地域の在宅医療体制を強化
Visionと戦略　　2022年８月20日発行　第19巻９号通巻223号　頁14～15

11　あの人にインタビュー　日本在宅療養支援病院連絡協議会会長
超高齢社会の地域医療を支える在宅療養支援病院
地域　ケアリング　　2022年９月12日発行　2022　Vol.24　№10

12　病院主体でまちづくり　志村フロイデＧがつくる地域包括ケア
－介護ビジネスの未来を創る－　週刊高齢者住宅新聞　　2022年８月24日　第683号（１）

13　特集　高齢化社会における在宅医療と健康支援
超高齢社会における在宅医療の役割　　かかりつけ医と在宅医療
GERIATRICS　老年科　Vol.６　№３　Sept.2022　頁137～145

14　都道府県医師会は地域医療づくりにどう取り組んでいるか！？[茨城県医師会]
コロナ対応で多職種連携を推進　地域包括ケアと地域医療構想の実現
TKC医療経営情報　　2022年11月　No.336　頁14～16

15　特別座談会●鷲見学・厚生労働省医政局地域医療計画課長を迎えて
地域医療構想・第８次医療計画の動向を読む
高齢者救急など不可欠な機能は民間中小病院が担うべき
日本医療法人協会ニュース　　2022年11月１日　第461号　頁２～11

16　７月研修会　地域密着型中小病院を中心とした全世代・全対象型地域包括ケアの展開
７月25日７月研修会　天神ビル　福私病ニュース　11月号　No.375頁６～12

17　EVENT　Report　HOSPEX Japan2022内セミナー
多角的な分野から予測する新型コロナ後の日本の医療
第２部地域医療構想における地域包括ケアを支える地域密着型中小病院の必要性
日本医療法人協会ニュース　　2022年12月１日　第462号　頁21～22

18　年頭所感
ポストコロナに向けて活地域包括ケアシステムの構築と地域医療構想の実現を
茨城県医師会報　　2023年１月　№829　頁３

19　新年のごあいさつ
地域包括ケアを支える地域密着型中小病院の病院機能の確立を目指して
日本医療法人協会ニュース　　2023年１月　№463　頁12

20　特集　「かかりつけ医機能報告制度の創設による機能の充実・強化がもたらすわが国の医療提供体制の将来」～自由開業かフリーアクセスか今後迫られる選択の道研修制度の認定・公表も～
Visionと戦略　　2023年２月　Vol.228　頁20～21

21　巻頭言
同時改定に向けて医師活動の更なる活性化を目指そう！
茨城県医師連盟だより　2023年１月　　№39　頁１

22　ご挨拶
茨城県医師会報　　2023年２月　№830

23　レコーダ　かかりつけ医の在り方を考える会が提言
認定は日医の研修制度を活用
社会保険旬報　　2023年２月21日　頁６～９

24　在宅医療の先進事例　事例３
手厚い在宅サービスを提供福祉や生活支援もカバー
最新医療経営　PHASE3　2023年3月　vol.463　頁24～25

25　特別座談会　眞鍋馨厚生労働省保険局医療課長を迎えて
物価上昇を上回る賃上げの“＋α”確保「骨太の方針」への明記に向けて総力を
日本医療法人協会ニュース　　2023年３月１日　第465号

○　講演

1　若手リハ卒後研修
「社会保障制度概論」
茨城県指定地域リハ支援センター、茨城県リハ専門職協会　　2022年６月１日

2　FHASE　3　特集連動セミナー
「2024年視野に今から取り組む！地域で必要とされる『オールラウンド型病院』病院をめざせ」
日本医療企画　　2022年６月16日

3　京都きづ川病院文化講演会
「地域包括ケアを支える地域密着型中小病院のまちづくりの実践」
医療法人啓信会　京都きづ川病院　　2022年７月23日

4　日本在宅医療連合学会　特別シンポジウム「在宅医療・介護連携の将来構想～日本在宅療連合学会への期待」
「茨城県における地域包括ケアシステムの構築にむけた取り組み」
日本在宅医療連合学会　　2022年７月24日

5　福岡県私設病院協会
「地域密着型中小病院を中心とした全世代・全対象型地域包括ケアの展開」
福岡県私設病院協会　　2022年７月25日

6　全日本プライマリケア検討委員会「在宅医療における病院の役割」
「地域包括ケアを支える地域密着型中小病院としての在宅療養支援病院の必要性」
全日本病院協会プライマリケア検討委員会　　2022年７月27日

7　一般社団法人未来研究所臥龍2周年記念パネルディスカッション
「かかりつけ医機能をいかに実装するか」
一般社団法人未来研究所臥龍　　2022年８月２日

8　全日本病院協会岡山支部　日本医療法人協会岡山支部合同勉強会
「地域包括ケアシステムにおける中小病院の果たすべきこれからの医療について」
全日本病院協会岡山支部　日本医療法人協会岡山支部　　2022年８月20日

9　SSK特別セミナー
「地域密着型の中小病院が支えるまちづくり」～超高齢社会を乗り切るために地域包括ケアの担い手が果たすべき役割と今後の展望～
新社会システム総合研究所　2022年 9 月 5 日

10　第60回日本医療・病院管理学会学術総会
「地域医療構想における地域包括ケアを支える地域密着型中小病院の必要性」
第60回日本医療・病院管理学会学術総会　2022年 9 月17日

11　第70周年記念公開講座
「安心して超高齢社会を迎えるために」
茨城県鍼灸師会　2022年10月 2 日

12　日本健康会議2022
「予防、健康づくりにおけるかかりつけ医と保険者の地域で連携強化の取り組み」
日本健康会議　2022年10月 4 日

13　筑波大学スマートウエルネスシティ定例研究会
「志村フロイデグループの病院を中心としてまちづくりの実践」
スマートウエルネスシティ政策開発研究センター　2022年10月25日

14　HOSPEX　Japan2022
「地域医療構想における地域包括ケアを支える地域密着型中小病院の必要性」
全日本病院協会・日本医療法人協会　2022年10月28日

15　第 1 回一般社団法人日本在宅療養支援病院連絡協議会勉強会
「地域ケアを支える地域密着型中小病院の病院機能確立を目指して」
一般社団法人日本在宅療養支援病院連絡協議会　2022年10月30日

16　公益財団法人日本記者クラブ研究会
「かかりつけ医を考える」
公益財団法人日本記者クラブ　2022年11月17日

17　第18回在宅医療推進フォーラム
「やっぱり最高？わが家・わが町～在宅医療の未来を語ろう～」
国立長寿医療研究センター、在宅医療助成優美記念財団共催　2022年11月23日

18　筑波大学スマートウエルネスシティ政策開発研究センターエクステンションプログラム
「志村フロイデグループの病院を中心としてまちづくりの実践」
スマートウエルネスシティ政策開発研究センター　2022年11月24日

19　福岡県医師会第 3 回医政研究委員会
「わが国にふさわしいかかりつけ医のあり方について」
福岡県医師会　2023年 2 月 8 日

20　第 3 回医師会が進める医療介護連携を考える会
「第 8 次医療計画における在宅医療体制構築と医師会の役割」
NPO全国連携実務者ネットワーク　2023年 2 月11日

21　令和４年度「適切なケアメネジメント手法」実践報告会
「地域の医療介護連携の在り方」

日本総合研究所　　2023年３月16日

○　常勤医師執筆講演実績

大仲功一

【論　　文】

茨城県内の病院・介護保険施設における嚥下調整食提供に関する調査報告　―1999年、2009年、2018年の比較―
著　者：　星出てい子、本村美和、矢野聡子、吉良淳子、大仲功一、鈴木幸江、根本結佳、酒寄舞、
後藤恵理子、藤崎亜希子、那須真弓、萩野谷浩美、市村久美子
雑誌名：　日本摂食嚥下リハビリテーション学会誌　26巻１号　p47-53、2022

【寄　　稿】

茨城県における高次脳機能障害支援体制について
雑誌名：　茨城県医師会報　No.828　p19-21　2022年12月

【学会発表】

学会名：　第59回日本リハビリテーション医学会学術集会
テーマ：　自動車運転再開可否を判断した患者の神経心理学的検査の後方視的調査
演　者：　大仲 功一、堀川 論、鈴木 邦彦
日　付：　2022年６月24日
会　場：　パシフィコ横浜ノース

【講　　演】

講演会名：　令和４年度茨城県高次脳機能障害者支援基礎講座
テーマ：　高次脳機能障害とはどのような障害か
日　付：　2022年７月
会　場：　動画配信

講演会名：　第５回茨城DPAT隊員研修会
テーマ：　JRATについて
日　付：　2022年10月
会　場：　動画配信

令和４年度茨城県在宅リハビリテーション研修会
テーマ：　医師との連携強化と在宅医療の推進
日　付：　2023年１月25日
会　場：　オンライン

第25回茨城県総合リハビリテーション学会学術集会　基調講演
テーマ：　高次脳機能障害に対する支援　～その課題と展望～
日　付：　2023年２月４日
会　場：　茨城県保健衛生会館

第二部 1．学術活動
⑵ 学会発表

博仁会

1. 住み慣れた地域で歩いて通える場づくりプロジェクト　～小さな小さな拠点づくり～
リハビリテーション事業部　寺門　貴
2022/7/23～7/24(第４回日本在宅医療連合学会大会)

2. 新たな時代をいきぬくために～今､老健ができること～
老健入所科　鈴木　三智子・中村　亨
2022/9/22～9/23 （第33回全国介護老人保健施設大会　兵庫）

3. 健康なときから地域住民を支える｢健院｣～地域共生多機能拠点としての取り組み～
リハビリテーション事業部　國井　崇洋・大和　あゆみ
2022/9/29～10/1 （リハビリテーション・ケア合同研究大会 【苫小牧2022】）

4. 生活相談員の立場から地域との関わりを考える～通所介護サービスがすすめる地域包括ケアの実践～
フロイデ総合在宅サポートセンター山方　細田　毅
2022/11/11～11/13 （第20回日本通所ケア研究大会）

5. 演題｢複合施設における新型コロナウイルス感染症のクラスター発生への早期対応と新たな可能性
フロイデ水戸メディカルプラザ　藤枝　幸司
2022/11/17～11/18 （第30回日本慢性期医療学会）

6. 「ひとの暮らしと作業療法」
リハビリテーション事業部　寺門　貴・小野瀬　剛広・山田　遼・谷津　拓海・櫻井　瑞希・小松　未歩
2023/2/12 （第14回　茨城県作業療法学会）

7. 回復期リハビリテーション病棟協会　第41回研究大会in岡山
リハビリテーション事業部　三田　拓
回復期リハビリ病棟科　山田　あすか・宮部　沙南
2023/2/24～2/25 （回復期リハビリテーション病棟協会　第41回研究大会in岡山）

8. 発症12ヶ月後にボツリヌス療法を行った脳卒中片麻痺の１事例～歩行能力などの変化～
リハビリテーション事業部　上倉　洋人
2023/3/9～3/10 （第10回慢性期リハビリテーション学会in長崎）

博友会

1. 演題：｢自分の居酒屋でまたお客さんと話したい～パーキンソン病の悪化で歩行困難となった方の希望を叶えるデイサービスでの取り組み～｣
御前山デイサービスセンター　小瀧　和弥
2022/11/11～2022/11/13 （第20回日本通所ケア研究大会）

2. 演題：｢その人らしさのために　～ニーズに寄り添った支援～｣
フロイデ総合在宅サポートセンター城里　鳴原　優太
2022/11/11～2022/11/13 （第20回日本通所ケア研究大会）

第二部

2．各種行事

第 22 回 全法人目標・成果発表大会

2022 年 5 月 2 日

博仁会

【病院】

1. 新型コロナウイルス感染症等にも対応できる効率的・効果的で質の高い医療提供体制の構築
   - 当面、継続的な対応が見込まれる新型コロナウイルス感染症への対応
   - 医療計画の見直しも念頭に新興感染症等に対応できる医療提供体制の構築に向けた取組（新興感染症等の拡大時の医療を 5 疾病 5 事業の 6 番目と位置づける）
   - 感染対策向上加算 2 の算定
   - 新型コロナウイルス感染性入院受入『協力医療機関』の指定　4 月 15 日付
2. 安心・安全で質の高い医療実現のための医師等の働き方改革等推進
   - 2021 年 11 月に閣議決定された経済対策を踏まえ、地域でコロナ医療など一定の役割を担う医療機関に勤務する看護職員を対象に収入を 3 %程度引き上げるための処遇改善）
   - 救急医療管理加算を算定する救急搬送件数 200 台 / 年間

【老健】

1. 多職種共同による科学的介護情報システムへの対応
2. 感染症や災害対応　事業継続計画（BCP）の策定と職員教育

【特養】

1. ACP に基づく終末期ケアの提供•ICT 活用（見守りセンサー活用実践）
2. データに基づくケアの実践（LIFE データの活用）
3. ベトナム•モンゴル技能実習生の受け入れ継続•日本語教育

【在宅】

1. SFG 情報共有会議の運営による法人内サービスの連携強化
2. スマートデバイス活用による在宅サービス間連携強化と医療介護の情報連携
3. 障害者福祉サービスの拡大に向け、障害者相談支援員の育成

【CCS 部】

1. フロイデケアタウンごとの地域包括ケアシステムの推進
2. フロイデひたちなかメディカルプラザ開設に向けた準備
3. 業務の細分化と人材育成、新たな取り組み
   - 生活困窮者自立支援訓練の場•多様な人財活用•就労支援から雇用就労へ
   - 業務マニュアルの動画化・画像化・電子化・リハ＋ワーキングデイ（リハデイ＋就労的活動デイ）

【介護部】

1. 質の高い介護の提供
2. 介護サービスの標準化
3. 介護人材の確保

博友会

1. 地域包括ケア・地域共生社会を支えるプラットホームとしての法人運営を図る。
2. コロナ禍にも負けない事業継続のための収益確保と科学的介護に裏付けられた、質の高いサービス提供を実現する。
3. 育児介護と仕事の両立支援」「治療と仕事の両立支援」「働き方改革法令遵守」による Well-being の向上を図る。

【看護学校】

1. 看護学生校の確保と経営の安定化
   - 定員 40 名充足
   - 新型コロナ対策
   - チューター制による学習支援体制強化
   - 受験者増加のための広報強化
   - 国試合格率 100%（看護・介護福祉）
   - 地域との連携（北富田地区授業への参加継続）
   - 学生ボランティア活動
2. 新カリキュラムのための勉強会

第二部

2．各種行事

茨城県央・県北脳卒中地域連携パス研究会

事務局　梅澤 健

【活動実績】

2022年 6 月22日(水):第52回事務局会議
2022年 7 月15日(金):第42回定例会
2022年10月14日(金):第53回事務局会議
2022年11月11日(金):第43回定例会
2023年 2 月10日(金):第54回事務局会議
2023年 3 月15日(水):第44回定例会

【脳卒中患者の退院実績】

茨城県央・県北脳卒中地域連携パス研究会にて把握が可能であった「脳卒中患者の退院実績（2022年 2 月～ 2023 年 1 月)」について、急性期病院全体での合計は 2,902 例であった。また、その内訳は表 1 の通りであった。回復期リハ病棟全体での合計は 499 例であり、その内訳は表 2 の通りであった。

【活動内容】

2022 年度も新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）による影響により、Zoom を活用した Web 会議にて、事務局会議および定例会を実施することとなった。

2022 年度の定例会では、脳卒中地域連携パスに関わるものだけでなく、「他病期に知って欲しい自病期に関わる制度や対応」「自病期で支援するために知りたい他病期の制度や対応」「難渋例を担当した際に活用できたサービス」といった話題や、COVID-19 に関わる「入院・転院・入所前の PCR 検査について」「5 類移行後に院内・施設内の対応で検討していること」について、施設間での情報交換の場を提供することができた。

COVID-19 による影響はまだまだ続くものと考えられるが、研究会として Web 会議の活用にも慣れ、活動基盤を固めることができた。本年度の取り組みを継続しつつ、次年度は COVID-19 が 5 類に移行することを念頭に入れつつ、活動方法について研究会参加施設と共に検討し、脳卒中における地域連携の質の向上を図っていきたい。

【表 1】脳卒中患者における急性期病院からの退院先（2022 年 2 月～ 2023 年 1 月）

退院先	患者数
自宅	1,511
回復期リハ病棟	560
老健	36
その他	795
計	2,902

【表 2】脳卒中患者における回復期リハ病院からの退院先（2022 年 2 月～ 2023 年 1 月）

退院先	患者数
自宅	364
老健	81
その他	54
計	499

2．各種行事

ごぜんやままつり 2022

ガルテンバザーの様子

数年ぶりに開催された「ごぜんやままつり」。出店する店舗がかなり減った印象ではありますが、御前山フロイデガルテンからは、変わらず「軽食１品」「御前山女子クラブ」「ガルテンバザー」を出店させていただきました。

例年ですと「フランクフルト」を販売しておりましたが、今年度は初めての試みとして、「ドイツ風ホットドック」を出店いたしました。大きいソーセージがフランスパンのような固く、ハンバーガーのように丸いパンに挟まれており、パンからはソーセージが両端から飛び出している、インパクト大なホットドックでした。非常にお客様からも好評であり、ホットドックの売り上げが、￥42,000 でした。

ガルテンバザーは、開店前より行列ができているほどの大好評でございます。博友会関連の施設を利用されているお客様にご協力いただいております、バザー商品は毎年完売であり、今年度も￥34,140 の売り上げがありました。皆様のご協力に感謝申し上げる次第です。

地域活性化のため、来年度以降も参加し続けてまいりたいと考えております。

2022年度（令和 4 年度）

法 人 年 報

第18号

令和 6 年 5 月15日　印刷

令和 6 年 5 月24日　発行

編集発行　医療法人　博仁会
茨城県常陸大宮市上町313
電　話（0295）-53-1111
ＦＡＸ（0295）-52-2705
ＵＲＬ: http://www.hakujinkai.com/
E-mail: hakujin@onyx.dti.ne.jp

社会福祉法人　博友会
茨城県常陸大宮市野口平146-1
電　話（0295）-54-2555
ＦＡＸ（0295）-54-2550
ＵＲＬ: http://www.hakuyukai-sfg.com
E-mail: jimusg@hakuyukai-sfg.com

学校法人　志村学園
茨城県常陸大宮市下村田2304-4
電　話（0295）-54-1422
ＦＡＸ（0295）-54-1422
ＵＲＬ: http://www.ihnc.ac.jp
E-mail: info@ihnc.ac.jp

医療法人　博仁会
社会福祉法人 博友会
学校法人　志村学園